



RYUKOKU
UNIVERSITY

You, Unlimited

Ryukoku University

Internship Reports

理工インターンシップ(学外実習)I・II/
グローバル人材育成プログラム
総括集

Faculty of Advanced
Science and Technology
先端理工学部

2024

目 次

巻頭言

2024 年度「理工インターンシップ（学外実習）」を終えて	4
(令和6年度 先端理工学部理工インターンシップ運営委員会 委員長) 龍谷大学先端理工学部 知能情報メディア課程教授 藤 田 和 弘	

I. 理工インターンシップ（学外実習） I・II について

1. 理工インターンシップ（学外実習） I・II とは	8
2. 理工インターンシップ（学外実習） I・II の流れ	12
3. オリエンテーション・事前・事後研修について	13

II. グローバル人材育成プログラムについて

1. グローバル人材育成プログラムとは	18
2. グローバル人材育成プログラムスケジュール概要	20

III. 2024(令和6)年度 理工インターンシップ（学外実習） I・II / グローバル人材育成プログラムデータ

1. 2024 年度受入機関数	22
2. インターンシップ参加学生 課程別人数	22

IV. 理工インターンシップ（学外実習） I・II を終えて（学生より）

「インターンシップを終えて」	24
数理情報学科 3年 鈴木 温 也	
「学外実習を終えて」	28
知能情報メディア課程 3年 福 嶋 健 太	
「理工インターンシップを終えて」	32
電子情報通信課程 3年 久 野 将一朗	
「学外実習を終えて」	35
機械工学・ロボティクス課程 3年 須 川 拓 洋	

「インターンシップを終えて」	38
応用化学課程 3年 大黒叶乃	

「インターンシップを終えて」	41
環境生態工学課程 3年 西宮翔哉	

V. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ を終えて（受入先企業より）

「学外実習を終えて」	46
株式会社カンセツ 京滋事業部滋賀事業所 前中賢二	

VI. グローバル人材育成プログラムを終えて（学生より）

「アメリカ合衆国の職場文化を体験して ——カリフォルニア州でのワイン小売店研修記録——」	50
電子情報通信課程 3年 山根広嗣	

「グローバル人材育成プログラムを終えて／Challenge each other」	54
環境生態工学課程 3年 藤田朝子	

VII. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ ポートフォリオ、アンケート集計結果

1. ポートフォリオ〈実習前〉集計結果	58
2. ポートフォリオ〈実習後〉集計結果	69
3. 報告会・交流会アンケート集計結果	90

VIII. 受入機関アンケート集計結果

1. 「理工インターンシップ（学外実習）」に関するアンケート集計結果	102
2. 「報告会・交流会」に関するアンケート集計結果	109

IX. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ／ グローバル人材育成プログラム過年度データ

1. 過年度の受入機関数と派遣学生数	116
2. 過年度報告会での報告者	120

巻頭言

2024 年度
「理工インターンシップ（学外実習）」を終えて

2024年度「理工インターンシップ（学外実習）」を終えて

藤田 和弘
Kazuhiro FUJITA



先端理工学部知能情報メディア課程 教授
(令和6年度 先端理工学部理工インターンシップ運営委員会 委員長)

近年、社会におけるインターンシップの取組みが増加し、その重要性がますます高まっています。インターンシップは、学生が実際の職場での就業経験を通じて、大学で学んだ知識や技術を実践し、社会人としての基礎を築く貴重な機会を提供しています。また、企業にとっても将来の人材を育成し、学生の考え方や行動特性を知る絶好の機会となっています。このような背景から、インターンシップは教育機関と企業の双方にとって、ますます重要な役割を果たすようになってきています。

そのような状況の中で、令和4年6月に、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」(3省合意)が改正され、大学生等のキャリア形成支援に関わる取組が、以下の4つに類型化されました。

就業体験を必須とせず、「個社・業界の情報提供等」や「教育」が目的

タイプ1：オープン・カンパニー

タイプ2：キャリア教育

就業体験が必須、「自身の能力の見極め」や「評

価材料の取得」が目的

タイプ3：汎用的能力・専門活用型インターンシップ

タイプ4：高度専門型インターンシップ

先端理工学部では、上記の状況を考慮の上、就業体験を主とするインターンシップに関して以下の2科目を設定しています。

理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ：1単位
実働30時間以上60時間未満

理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ：2単位
実働60時間以上

この就業体験を主とするインターンシップは、学生にとって、教室で学ぶ知識や技術を実際の社会で活かす貴重な機会であり、働く現場を経験し、様々な課題に取り組む中で、社会人としての基礎を身につけ、将来のキャリアを考える上でも、大きな一歩となるものであると思います。

今回のインターンシップでは、多くの企業・団体・研究所にご協力いただき、学生の受け入れをしていただきました。心より感謝申し上げます。受け入れ側の皆様のご支援があってこそ、学生た

ちは実りある経験を積むことができました。厚く御礼申し上げます。

学生のみなさんには、このインターンシップで得た経験を活かし、今後の学習や研究に繋げてほしいと思います。また、この経験を踏まえ、社会人として成長し、活躍することを期待しています。

最後に、今回のインターンシップにご尽力いただいた、先生方、職員の皆様、そして、学生たちの成長を温かく見守ってくださった企業・団体・研究所の皆様に、心から感謝申し上げます。今回の経験を活かし、今後も社会との連携を深めていければ幸いです。

I. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIについて

1. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIとは
2. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIの流れ
3. オリエンテーション・事前・事後研修について

1. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱとは

平成元年度に開設された龍谷大学理工学部は、人間性豊かな技術者・研究者・社会人を育成することを目標とし、教育面、カリキュラム編成面で種々の先進的取り組みを行っています。この目標を達成するカリキュラムの一環として、開設以来理工学部では「学外実習（キャリア実践実習）」、令和2年に先端理工学部へ改組後は「理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ」を3年次に実施しています。

実習目的

先端理工学部各課程の講義・演習・実験・実習等を通して培っている知識を背景として、学外の公的機関や企業の研究所・事業所・工場などの現場における実務を体験し、研究・開発・生産・行政などの現場の雰囲気を感じ、将来の学修に役立てることを目的とします。具体的には下記のような目的を提示しています。

◆社会勉強

技術や知識の習得だけに執着せず、受入機関の組織を観察し、その中で働くということは何かなど、広く社会を見つめ直し、組織と人間の関係について考える。

〈Point〉

- 受入機関の理念・目的は何か
- 配属された組織（部・課）の主な業務は何か
- 受入機関がどのような構成（管理職・専任・パート・アルバイトなど）で成り立っているか
- 組織における社員とはどのようなものか
- 正社員とパート・アルバイトの違いは何か

◆コミュニケーション能力の向上を目指す

日頃の友達との関係（横社会）ではなく、実社会の中で指導して下さる先輩や上司との関係（縦社会）をよりよく保つための挨拶や言葉遣い、礼儀作法などを学ぶ。

〈Point〉

- 社会で通用する言葉遣いとはどのようなものか
- 大きな声・しっかりとした挨拶の重要性
- 報告・連絡・相談の重要性
- メモをとることの重要性
- 積極的に聞く・行動することの重要性

◆倫理観を身につける

自分の言動が、受入機関、社会一般や環境にどのように影響を及ぼすのかを考え、社会人としてあるべき姿を認識し、社会で生きる上での常識を身につける。

〈Point〉

- 社会人としての身だしなみ（服装・頭髪など）とはどのようなものか
- 自分の言動は、会社（受入機関）の言動・行動であるということ
- 友達関係で通用することが、社会の中では通用しないことがあるということ
- 携帯電話の取り扱い、喫煙のルールなど、社会人としてのマナーとはどのようなものか
- 環境問題や地域社会とどのように向きあっているのか

◆知識や技術が実社会でどのように利用されているか体得する

日頃、大学で学んでいる知識や技術が実社会において、どのような場でどのように活用・応用されているかを考える。

〈Point〉

- 自分が講義等で得た知識や技術が活用されているか
- 活用されているとしたら、どのような場でどのように活用されているか
- 将来、どのような場で活用される可能性があるか
- 活用されていないとしたら、それはなぜなのか

◆基礎知識の必要性を認識し学習意欲を高める

最先端技術等に触れることによって、社会で働く上で自分に不足しているものは何かを見つけ、その知識や技術を身に付ける努力をする。

〈Point〉

- 実習生（一社会人）として業務に携わるなかで、どのような知識・技術が必要か
- 今、自分にはどのような知識が不足しているか
- 良き社会人としてどのような知識を身につけるべきか
- 知識や技術を身につけるために何をすべきか

◆職業観を醸成し、将来の進路を考えるきっかけとする

学外実習での経験を通じて、自分は何のために働いていくのか、これからどのような職業に就きたいのか、そのために何をしたらよいのかなど、将来、自分が進むべき道を考えてみる。

〈Point〉

- 自分はどのような職業に適しているのか
- 働くということはどのようなことなのか
- 働く上で必要とされるものは何か
- 将来に向けて、今後どのような大学生活を送りたいか

対象者

先端理工学部（理工学部）に所属する3年次生以上

数理・情報科学課程／知能情報メディア課程／電子情報通信課程

機械工学・ロボティクス課程／応用化学課程／環境生態工学課程

実習方法

理工インターンシップには下記の①～④の実習方法がある。

- ①学外実習
- ②自己応募型インターンシップ
- ③大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム
- ④学内実習 ※電子情報通信課程のみ対象

実習内容

①学外実習とは

理工インターンシップの活動に賛同いただいている機関へ、夏期休暇期間を利用し、60時間以上の実習を行う。企業の受入希望課程や人数、学生の希望、また通勤時間などを考慮して、各課程の担当教員が実習先企業を決定する。実習期間中は実習先の担当者の指示に従いプログラムに沿って実習を行う。実習終了後3日以内に実習報告書を企業へ提出し、実習を完了とする。

②自己応募型インターンシップとは

インターンシップ検索サイトや企業の募集サイトなどから、自分で探した企業へ、R-Gap 期間（2Q から夏期休暇期間）を利用して実習に参加する。実習先の業種は問わない。

単位が認定されるには、事前に申請を行い、承認を受ける必要がある。また実習内容として、必ず就業体験を伴うこと、手当（アルバイト料）が発生しないことなどの条件がある。

※複数のインターンシップを合算することも可能。ただしその場合は、1社につき実働30時間以上（休憩を除く）かつ5日以上の実習が必要。

※自己応募型インターンシップは、下記の通り実働時間によって単位が異なる。

- ・実働30時間以上60時間未満かつ5日以上・・・1単位
- ・実働60時間以上かつ5日以上・・・・・・・・・・2単位

③大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムとは

一般企業から官公庁、非営利団体など、幅広い分野の実習先がある。別途、公益財団法人大学コンソーシアム京都に出願手続きを行い、選考に合格する必要がある。合格後は大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムのスケジュールに沿って活動を行う。

④学内実習（※電子情報通信課程のみ対象）とは

「電気回路の製作」「FPGA 設計（LSI の論理回路設計）」の2コースがあり、外部講師による実習を、夏期休暇期間に60時間以上、大学内で行う。

実習期間

①学外実習

夏期休暇期間中（8月初旬～9月初旬）に実施

※実習先により実施スケジュールは異なる

※2024年度は、8月7日（水）～9月6日（金）の期間内に実施

※大学夏期一斉休暇期間（8月11日（日）～8月18日（日））は対象外

②自己応募型インターンシップ

2024年度は、6月5日（水）～9月18日（水）の間（R-Gap 期間）に実施

※申請書の最終受付〆切は9月4日（水）

③大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム

夏期休暇期間中（8月初旬～9月初旬）に実施

※大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムのスケジュールに準ずる

④学内実習（電子情報通信課程のみ対象）

夏期休暇期間中（8月初旬～9月初旬）に実施

※2024年度は、8月26日（月）～9月6日（金）

単位および単位認定

〈理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ〉

この実習で認定される単位は1単位で、②自己応募型インターンシップのみが対象となり、実働30時間以上60時間未満かつ5日以上の実習時間が必要である。

単位認定は、事前研修、オリエンテーションへの出席状況、実習への参加状況、実習報告書等の提出（実習終了後提出）、報告会・交流会への参加等を総合して合否を決定する。

〈理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ〉

この実習で認定される単位は2単位で、実働60時間以上かつ5日以上の実習時間が必要である。

単位認定は、事前研修、オリエンテーションへの出席状況、実習への参加状況、実習報告書等の提出（実習終了後提出）、報告会・交流会への参加等を総合して合否を決定する。

2. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱの流れ

時期	受入機関	学生
3月	実習受入依頼送付	履修説明会時に、「理工インターンシップ」の説明
4月初旬		第1回オリエンテーションの実施 (詳細説明、申込方法、提出物や今後の日程など)
4月中旬	企業回答メチ	参加申し込みメチ 大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムの 説明会 ※1
5月	受入内容の確認	課程別に企業とのマッチング開始
6月中旬		実習先決定 ※実習期間により、決定時期が異なる場合あり
6月後半	正式依頼 ※実習期間により、依頼 時期が異なる場合あり	第2回オリエンテーションの実施 (実習中の心構え、提出物の説明、実習用定期購入 方法など)
7月初旬		「理工インターンシップ」実習先へ電話連絡 (ご挨拶・服装・持ち物、スケジュール等確認)
7月中旬		ビジネスマナー講座
6月～9月		自己応募型インターンシップ実習可能期間 ※2
8月～9月	理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ 活動期間（実働60時間以上） ※日程は実習先や実習方法により異なる	
9月	報告会・交流会	

【備考】 ※1 大学コンソーシアム京都産学教育連携プログラム応募期間については別途定められている。

※2 自己応募型インターンシップについては学生の選択企業により応募時期・日程が異なる。

3. オリエンテーション・事前・事後研修について

①理工インターンシップ(学外実習) I・II オリエンテーションについて

理工インターンシップに取り組む前に、2回のオリエンテーションを実施し、連絡事項・諸注意等の確認を行う。

◆第1回オリエンテーション

1. 実習目的や意義についての説明・確認
2. 受講対象者について
3. 単位と単位認定方法
4. 実習の種類と実習内容について
5. 実習期間について
6. 申込方法
7. 連絡事項
 - 1) 実習上の注意事項
 - 2) プログラムのスケジュール
 - 3) 実習期間前・期間中の事務連絡等の周知
8. 実習生カードについての詳細説明
9. その他

◆第2回オリエンテーション

●理工インターンシップ運営委員長からのあいさつ

●事務からの連絡

1. 実習先への事前連絡・確認について
2. 実習初日について
3. 実習中の注意事項について
4. 持参物について
5. 実習報告書の提出について
6. 報告会の開催日程について
7. 実習中の保険加入について
8. 自然災害発生時の対応について
9. 提出物について
10. 実習用通学定期券購入の申請方法について
11. 実習先企業情報の配布

②理工インターンシップ(学外実習) I・II 事前・事後研修について

理工インターンシップをより実りあるものにするために、受講生に対し以下の事前・事後研修を行う。

◆ビジネスマナー講座

[目 的]

身だしなみや言葉遣い、あらゆるビジネスシーンを想定して学修することにより、実習受入機関で自信を持って実習に臨めるよう、理解を深める。

[研修内容]

ビジネスマナーやコミュニケーションの取り方など、講義だけではなくロールプレイングを交えて実際に体験する。また「こんなときはどうするか？」など、学生同士でディスカッションしながら、あらゆるビジネスシーンで役立つマナーについて学修する。

◆理工インターンシップ「実習先」調査カードの作成〈課題〉

[目 的]

実習受入機関についての詳細を調べ、理解を深める。

また実習先担当者と連絡を取ることで、実習に関する情報を再確認すると共に、心構えを高める。

[実施時期]

実習先決定後、約2週間で提出。

[研修内容]

実習先について、設立年月日、従業員数、資本金、事業内容などの企業に関する情報や、実習地までの利用交通機関や通勤時間などを調べる。

またビジネスマナーで学修した、言葉づかいや電話のかけ方を活かし、実習担当者と事前打ち合わせを行う。

[実施方法]

キャリアセンター資料室、就職情報図書、Web などを利用し、各自で調べる。

電話のつながりやすい時間などを工夫し、実習担当者と連絡をとり、実習期間や出勤時間、服装などを再確認すると共に、初日の集合場所など、必要な情報を打合せする。

◆ポートフォリオの作成〈課題〉

[目 的]

- ①**実習 [前]**：実習にあたって、設問に答えながら自分を見つめ直し自己分析を行い、自分の強みや弱みを認識する。さらに実習に対する目標を設定する。
- ②**実習 [後]**：実習前に設定した目標について、どの程度達成できたか等を振り返り、今後の大学生活において理工インターンシップの体験をどのように活かしていくかを考える。

[研修内容]

- ①**実習 [前]**：26 項目の設問に回答し、自己分析を行うとともに、その結果を受けて、実習目標を設定する。
- ②**実習 [後]**：実習前に設定した目標について、達成度を分析し、今後の学修計画等を考える。

[実施方法]

- ①実習開始前に、指定された期日までに各設問に回答し提出する。
- ②実習終了後に、指定された期日までに各設問に回答し提出する。

◆実習報告書の作成〈課題〉

[目 的]

実務体験を通して、学んだこと、身についたこと等を実習の成果物として報告書にまとめ、今後の学習や進路等に役立てる。

[実施方法]

- ・配布の報告書表紙を 1 枚目にする。
- ・Microsoft Word を使用し、A4 縦書きで作成。枚数は 10 枚程度とする。
- ・報告書には、以下の①～③について記載する。
 - ①実習内容について
 - ②実習を通しての感想
 - ③卒業までの取組等
- ・記述内容や様式等について、実習先からの指示がある場合はその指示に従う。
- ・写真やグラフ、資料などを掲載する場合は、必ず事前に実習担当者に、掲載が可能か確認する。
- ・実習報告書は、実習先に提出後、出勤簿・実習所見とともに大学に返送されるため、実習先へ実習報告書の提出が無い場合は、単位が認定されないので注意が必要。
※単位認定は実習先ではなく大学が行う。

[提出方法]

実習終了後 3 日以内に実習先の担当者へ提出する。

Ⅱ. グローバル人材育成プログラム について

1. グローバル人材育成プログラムとは
2. グローバル人材育成プログラムスケジュール概要

1. グローバル人材育成プログラムとは

先端理工学部では「世界のものづくりを支えるグローバルな視点を備えた科学技術者の育成」を掲げ、英語コミュニケーション能力とグローバルな実践力を備えた人材育成に取り組んでいます。

「グローバル人材育成プログラム」は、先端理工学部3年次生以上を対象に、R-Gap期間を利用して、アメリカ・カリフォルニア州のシリコンバレー周辺にある世界最先端企業の視察やビジネスパーソンによる講演および交流、さらに現地で事業展開する日系企業の協力を得て、ホームステイをしながら2週間の企業研修を含むおよそ3週間のプログラムで構成されています。なお、海外研修の事前・事後学修として、オンライン英会話学習や報告書作成、学修成果のプレゼンテーション等を実施します。

このプログラムの目的

働くことの意義、企業活動と仕事の内容、産業を支える技術力について理解し、自らのキャリアプラン構築のきっかけとなることを目的としています。また、実際に現地企業での就業体験やホームステイを通じて、実習先の方々やホストファミリーとのコミュニケーションをはかりつつグローバルな視点を養い、企業や社会が求めるグローバル人材に必要な要素を身につけることを目指します。

〈Point〉

- 海外企業と日本企業の違いはどのようなものか
- 海外の文化と日本の文化は何が違うか、異文化を理解できているか
- 海外で生活し働くためにはどの程度の語学力が必要なのか
- グローバル人材にはどのような要素が求められるか

◆プログラム概要（2024年度実績）

- ・ 渡航前（4月～8月）
 - 申請・志望理由・書類および面接による選考
 - オンライン英会話学習
 - ビジネスマナー講座受講
 - ガイダンス受講
- ・ 現地（8月中旬～9月初旬）
 - 企業・大学等の視察
 - 現地ビジネスパーソンによる講演・交流
 - 企業での実習（2週間） ※実習期間中はホームステイ
- ・ 帰国後（9月中旬）
 - レポート作成・提出
 - 渡航前に設定した目標およびその達成に向けた計画に基づく自身の振り返り
 - 報告会での参加者同士のディスカッションとプレゼンテーション

・費用：40万円程度

※航空運賃・現地滞在費などのプログラムにかかる費用概算

※為替や原油価格の影響で変動します

※「理工学会」の補助制度の適用が可能です

2. グローバル人材育成プログラムスケジュール概要(2024 年度実績)

時期	内 容
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・志望理由等、書類選考により受講者を決定 ・担当教員等のヒアリング <p>★現地のコーディネーターとも面接し参加学生の意向を聞き取ったうえで現地実習先の企業およびホームステイの先のマッチングをおこなう</p>
5 月末～	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修〈複数回実施〉 <p>★担当教員から企業実習に向けた意識醸成と共に、各自で実習の目的の明確化とその達成を意識した具体的な行動計画を作成する</p> <p>★旅行会社による渡航に向けた準備や保険手続等の説明など諸注意をガイダンス</p>
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「オンライン英会話」の実施（～9 月） <p>★実践的な英会話能力（コミュニケーション力）の向上を目指す</p> <p>★自分のレベルを確認し実力&スキルアップをはかる</p>
7 月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師によるビジネスマナー講座の受講 <p>★身だしなみや言葉遣い等を中心に外部講師によるビジネスマナー、コミュニケーションの取り方の講義に加え、ロールプレイングを交えて実際に体験したり学生同士でディスカッションしながら、あらゆるビジネスシーンで役立つマナーについて学修</p>
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・現地実習プログラム ○サンフランシスコ見学ツアー ○シリコンバレー IT 企業見学 ○インターンシップオリエンテーション ○スタンフォード大学見学 ○グローバルキャリアセミナー（起業家、ビジネスマンによる講演） ○ホストファミリーや現地学生との交流会 ○グローバルキャリア実習プログラム（現地日系企業にて 2 週間の実務研修） ○ホストファミリーとの交流やアクティビティなど <p>★時間があれば公共交通機関が充実しているサンフランシスコ市街の散策や、足を延ばしてヨセミテ国立公園で自然を満喫するなど異国の地を肌で感じることもできます</p> <p>★行動を起こせば起こすほど得るものは必ずあります。自らをバージョンアップしよう！</p>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・帰国後の研修 ・報告会 <p>★実習前に策定した目標及びその達成に向けた行動計画に基づく、自身の実習内容の振り返りを参加者全員でプレゼンテーション</p> <p>★理工インターンシップとの合同報告会による発表</p> <p>★理工学会への補助申請に向けた報告資料の作成</p>

◆

Ⅲ. 2024（令和6）年度 理工インターンシップ （学外実習）Ⅰ・Ⅱ／ グローバル人材育成 プログラムデータ

◆

1. 2024年度受入機関数
2. インターンシップ参加学生 課程別人数

1. 2024 年度受入機関数（中止等は含めない）

種 別	依頼	受入可	実施	受入人数
学外実習	75	63	57	110
自己応募型インターンシップ	—	—	23	26
大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム	—	—	1	1
グローバル人材育成プログラム	—	—	10	10
合 計			91	147

※2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。

2. インターンシップ参加学生 課程別人数（中止等は含めない）

課 程	応募者 (4月 時点)	学外実習	自己応募型 インターン シップ	大学コン ソーシアム 京都産学 連携教育 プログラム	グローバル 人材育成 プログラム	学内実習 (電子のみ)	合計	
学 生 数	数理	62	11	1	1	—	—	13
	知能	59	15	4	—	2	—	21
	電子	60	24	10	—	1	7	42
	機械	82	47	4	—	3	—	54
	応化	22	9	—	—	2	—	11
	環境	25	4	7	—	2	—	13
	合計	310	110	26	1	10	7	154

IV. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIを終えて (学生より)

数理情報学科	3年 鈴木 温也
知能情報メディア課程	3年 福嶋 健太
電子情報通信課程	3年 久野 将一朗
機械工学・ロボティクス課程	3年 須川 拓洋
応用化学課程	3年 大黒 叶乃
環境生態工学課程	3年 西宮 翔哉

インターンシップを終えて

鈴木 温也
Atsuya SUZUKI

数理情報学科 3年



1. はじめに

私は2024年8月19日から8月30日までの2週間、協和テクノロジズ株式会社のインターンシップに参加しました。私が実習先を選んだ理由は主に3つあります。1つ目は、社会インフラに関するシステムの開発から導入、保守の現場を見てみたかったからです。2つ目は、大学の授業で行うプログラミングと仕事で行うプログラミングの違いを実感したかったからです。3つ目は、創業75年を超えた会社の職場環境を体感し、それを踏まえて私自身にとって理想の職場環境を考えたかったからです。インターンシップの参加が決まり、選んだ理由を目標として掲げて臨みました。

2. 実習先概要

協和テクノロジズ株式会社は昨年創業75周年を迎えた企業で、「協和と誠実」「優秀な技術で社会に奉仕する」という企業理念とともに、消防や鉄道、オフィスビルやダムなど様々な場所で社会インフラを通信分野から支えています。事業内容は情報通信システムの総合システムインテグレーションサービス事業で、119番通報を受け、消

防署員を円滑に緊急場所へ誘導させるための消防指令システムや、オフィスビルや百貨店、学校法人等建物全体の空調・電気設備等の監視、自動制御を行うビル管理システム等の提案から設計・開発、導入・構築、監視・保守、教育まですべての段階を担っています。

3. 実習内容について

3.1 実習スケジュール

私は8月19日から8月23日、8月26日から8月30日の計10日間、次のようなスケジュールで実習を行いました。また、8月21日から8月23日まではITソリューション事業部、8月26日から8月30日までは制御システム事業部で実習を行いました。

この総括では、各事業部での実習についてまとめています。

日程	実習内容
8月19日(月)	自己紹介、企業説明、自己分析ワーク、グループワーク
8月20日(火)	松下資料館・稲盛ライブラリーにて講話聴講および見学
8月21日(水)	事業部説明、プログラミング体験、環境センサでのデータ取得
8月22日(木)	

8月23日(金)	実習まとめ、成果発表
8月26日(月)	事業部説明、社内職場見学
8月27日(火)	龍谷大学にてビル管理システムの保守業務体験、滋賀医科大学にて書類提出同行・BELP 見学
8月28日(水)	
8月29日(木)	大阪駅前第2ビルにてビル管理システムの保守業務体験
8月30日(金)	実習まとめ、成果発表

3.2 IT ソリューション事業部説明

IT ソリューション事業部に配属されてから、まず始めに事業部説明をしていただきました。

IT 業界での、クライアントと各規模の SIer の関係性であるピラミッド構造や事業部での SE (システムエンジニア) による提案・設計から PG (プログラマー) による開発、再度 SE によるテスト・導入といったシステム構築の流れ等、事業部がどのような事業を行っているかだけでなく、どのような流れで仕事が行われているかまで詳しく説明していただき、実際に SE や PG として働くイメージがしやすくなりました。

3.3 環境センサからのデータ取得

今回の実習では、Raspberry Pi (図1) という一枚の電子基板と最低限の部品で構築されているシングルボードコンピュータと環境センサ (図1, オムロン製 2JCIE-BL01) を利用して、温度や湿度、照度等の環境データを取得し、画面に表示を行うシステムの構築を行いました。

まず初めに、先に学習した Python を使用し、あらかじめ用意されていたソースコードに取得した環境データを見やすい単位の数値に変換するコードを書き加えました。それを実行することで、環境センサから取得したデータが出力、データベース (SQLite) に環境センサから取得したデータが保存されます。次に、Metabase というデータを様々なグラフで表示することで可視化を行うツ

ールを利用し、取得したデータの見える化を行いました。今回環境センサによって取得したデータの中から温度、湿度、不快指数のみをグラフ化することで、その関係性が見える化を行いました (図2)。その結果、環境の温度を下げるとともに不快指数も低下し、不快指数は温度に大きく影響を受けると推測することができました。



図1 左：Raspberry Pi 右：オムロン製 2JCIE-BL01

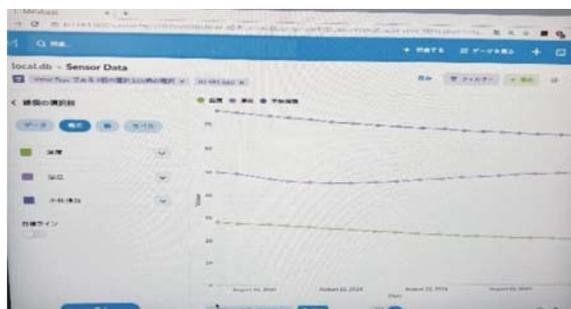


図2 取得した環境データのグラフ化作業の様子 (温度・湿度・不快指数)

3.4 制御システム事業部説明

制御システム事業部に配属されてから、まず始めに事業部説明をしていただきました。

制御システムグループは遠隔管理システム、ビル管理システム、映像監視システムをそれぞれ取り扱う3つのグループで構成されており、今回お世話になった第2グループでは、ビル管理システムという施設・建物全体の照明や空調、水道や温度の情報を中央管理室 (または電気室) の一か所

に集めて監視や操作、データ管理を行うシステムを取り扱っていました。ビル管理システムは、例えば1棟のビルの各部屋の照明や空調・水道や温度の情報が各階にあるRS（リモートステーション）を通じてFSU（図3 ファイルサーバーユニット）に集められ、1つのPCで各階層や部屋、設備ごとの情報を監視・操作を行うことができるといった仕組みとなっています。

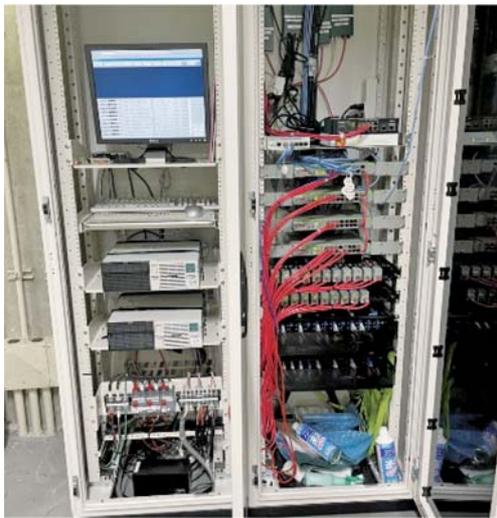


図3 FSU と管理画面

3.5 ビル管理システムの保守業務体験

龍谷大学瀬田キャンパスにて2日、大阪駅前第2ビルにて1日ビル管理システムの保守業務（保守業務には障害対応や点検などがありますが、今回はどちらも主に点検作業）体験を行いました。

主な業務内容はどちらの現場も同じで、PCや周辺機器の清掃、RSの点検（図4）、動作確認作業を行い、龍谷大学では加えて管理画面の図面変更を行いました。RSの点検では、電圧の測定や端子のゆるみ確認を行いました。電圧の測定値が正常でなかったり、各RSにそれぞれ数十本ある端子のうち一本がゆるんでいて後に外れてしまったりすると、誤った判定が送られたりそもそも情報が届かなくなってしまう可能性があるため、施設内にある各RSの点検は単純作業ながらも非常に時間をかけて丁寧に行う必要があります、とても重

要な業務でした。動作確認作業では、中央監視室や電気室のPCにてデータが正常に集められているか、機能が動作しているかの確認を行いました。

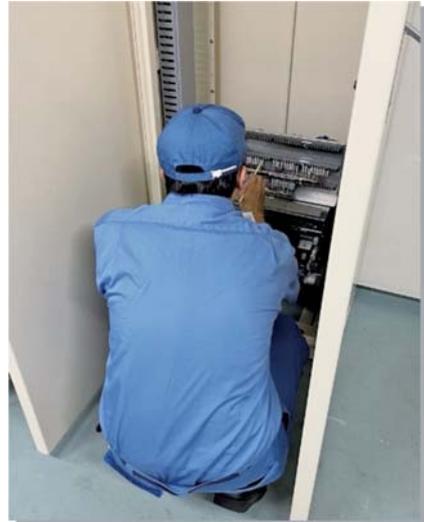


図4 RSにある端子のゆるみ確認作業の様子

4. 実習を通しての感想

私は今回のインターンシップに参加するにあたって掲げた3つの目標に対して積極的に行動することができました。システム保守の実際の点検作業の体験をさせていただき、一つ一つの細かな確認にも必ず意味あり、簡単に見える作業もとても重要で丁寧に行わなければならないことを学び、現場に出て行う仕事の責任の重さを感じることができました。プログラミング実習では、実際にコードを書いていた際に関数や出力・保存する際のデータの名称等社員の方から何度もご指摘をいただき、後の人に対する配慮をしながらプログラミングをする大変さを痛感しました。また、見学や社員さんとの会話を通して、丁寧であることやよりコンパクトであることは前提として、そのソースコードを見る人だけでなく、後から修正や変更を行う人のことを考慮するということが大きな意識の違いだと感じました。今回の実習では、実際の職場環境に身を置き、働いている社員の方々と

会話することで、仕事に関する知識・技術的な面でも、仕事に対する姿勢や意識的な面でも自身との差を実感し、働くということがどういうことで何が必要なのかをより鮮明に知ることができ、非常に有意義な2週間となりました。

5. 後輩の皆様へ伝えたい事

今回私はインターンに参加し、実際に企業に赴いたか否かで企業に対する解像度が大きく変わるのと同様に、実際にその職場で業務を体験するこ

とでさらに大きく変わりました。また、自身が働きたい業界の実態を知ることができ、どのような場で自身が働き、活躍することができるのかイメージしやすくなり、これから自分がどのようなことに取り組むべきか考えやすくなりました。自身がいままで学んだことがどれだけ仕事にいきるのか、授業で学習と仕事をする際には知識や技術にどのような違いがあるかを実感するためにもぜひインターンシップに参加することを勧めたいと思います。

学外実習を終えて

福嶋 健太
Kenta FUKUSHIMA

知能情報メディア課程 3年



1. はじめに

私は8月19日から8月30日まで、土日を除く10日間、大阪市に本社を構える株式会社クラックスシステム様のもとで実習をさせていただきました。このインターンシップの目的は、IT企業における業務プロセスや実際の開発環境を体験し、仕事の進め方やチームでの協力方法を理解することで、IT業界での働き方を具体的にイメージし、将来のキャリア設計をより明確にすることでした。

2. 実習先概要

株式会社クラックスシステムは、情報処理サービスを目的として、2001年3月に設立されました。2011年には東京支社が開設され、2021年には現在の大阪市中央区南本町に事務所が移転しました。事業内容は主に3つあり、コンサルティング（ITコンサルティング、プライバシーマーク取得支援）、システム開発（業務系）、カスタマーサポートです。サービスの事例として、業務系システム、GISシステム、積算業務などが挙げられます。また、株式会社クラックスシステムは、技術者が経営の意思決定に関与できないという従来

の慣習を打破すべく、「全員経営」を理念に掲げています。

3. 実習内容

3.1 実習計画

今回の実習は、前半の5日間を大阪本社の向かいにある「イェント本町ビル601号室」で行い、後半の5日間は大阪本社で実施しました。実習全体のスケジュールについては、表1にまとめています。

表1 実習のスケジュール表

日程	実習場所	実習内容
8月19日	イェント本町ビル601号室	オリエンテーション
8月20日		チームビルディングゲーム
8月21日		要件定義の講義・外部設計・詳細設計体験
8月22日		業界説明、就活アドバイス
8月23日		プログラミング実習(基本編)
8月26日	大阪本社	WEB説明、SE説明、GIS説明
8月27日		プログラミング実習(応用編)
8月28日		テスト仕様書作成
8月29日		
8月30日		

3.2 オリエンテーション

実習の初日には、会社の概要説明や施設の案内、実習期間中の注意事項について説明を受けました。また、実習に使用するPCが配布され、GoogleClassroomを利用して資料や連絡事項の共有が行われました。最後には他己紹介を行い、イ



図3 タスク一覧画面

・「タスク更新画面」

次に、応用編では以下の機能を実装しました。

- ・サブタスク件数表示機能
- ・タスク優先度設定機能
- ・ページネーション機能
- ・完了タスク表示機能



図4 タスク新規登録画面

各画面のレイアウトは、図3、4、5にそれぞれ示します。

3.5 テスト仕様書の作成

最後に、自分たちで作成した ToDo アプリに対してテスト仕様書を作成しました。まず、テスト仕様書を作成するにあたり、テストの解説とその必要性についての講義を受けました。システム開発におけるテストとは、上流工程で作成されたドキュメントに基づき、プログラムが正しく動作することを確認する行為です。

次に、応用編で実装した機能の項目を詳細設計書に加筆し、その詳細設計書に基づいて、どのようなテスト項目が必要かを自分たちで考えながら作成しました。作成したテスト仕様書の一部を図6に示します。



図5 タスク更新画面

ドキュメント名	プロジェクト番号	シート区分	シート名称	シート番号				
テスト仕様書	-	-	-	-				
No.	大項目	中項目	小項目	検証内容	合格条件	1 回目		
						結果	実施日	実施者
1	タスク一覧画面	画面初期表示	タスクテーブルからタスクID,タスク名称,作成日時,優先度,	画面ロード時にタスクの情報(タスクテーブルからタスクID,タスク名称,作成日時,優先度)を取得して画面に表示されるか。	タスク一覧画面が表示されること。	合格	8/30	備嶋
2		新規登録画面遷移		新規登録ボタンを押したときに「タスク新規登録画面」に遷移するか。	新規登録ボタンを押したときに「タスク新規登録画面」に遷移する。	合格	8/30	備嶋
3		タスク一覧並び替え	並び替えの基準は(優先度(高い順), 優先度(低い順), 作成日(新しい順), 作成日(古い順))	セレクトボックスで並び順を選択してボタンを押すと選択した順番にタスク一覧が表示される。	セレクトボックスになっていて、選択すると並び方が選択した通りの順番になっている。	合格	8/30	備嶋
4		更新画面遷移		タスクのリンクを押下すると対応したタスクの「タスク更新画面」に遷移するか確認する。	押したタスクに対応したタスクの「タスク更新画面」に遷移する。	合格	8/30	備嶋
5		タスク削除	確認ダイアログで「いいえ」を選択する。	削除ボタンを押したときに確認ダイアログを表示させ、「いいえ」を選択したときに確認ダイアログを閉じて終了する。	確認ダイアログが表示され、「いいえ」を選択すると確認ダイアログが閉じられる。	合格	8/30	備嶋
6			確認ダイアログで「はい」を選択する。	削除ボタンを押したときに確認ダイアログを表示させ、「はい」を選択したときに該当タスクを削除する。	確認ダイアログが表示され、「はい」を選択すると該当のタスクが削除される。	合格	8/30	備嶋
7		ページネーション機能	現在のページを青く強調表示。	ページ番号のボタンを押すとそのページに移動し、そのページ番号を青く強調表示し、そのページのタスクが表示される。	ページ番号ボタンを押すとそのページに移動して、対応するタスクが表示される。	合格	8/30	備嶋

図6 テスト仕様書

最後に、テスト仕様書の内容を実際に検証して実習を終えました。

4. 実習の感想

私はこの2週間の実習を経て、IT企業での働き方を具体的に体験し、将来のキャリア設計を描く上で非常に貴重な経験を積むことができました。実習の初めは、システム開発のプロセスや業務フローについて漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、実際にプロジェクトに参加し、具体的な課題に取り組むことで、開発現場の流れや求められるスキルを実感することができました。

また、要件定義や外部設計の講義を受けることで、システム開発における重要なステップについて深く理解することができました。特にプログラミング実習では、詳細設計書を元にコーディングを行うという実際の業務に近い経験を通じて、自分の技術的なスキルが向上したと感じています。

さらに、今回のインターンシップでは、他のインターンシップ参加者と協力しながら業務を進める機会が多く、チームビルディングゲームやプログラミング実習中の仲間との相談や意見交換を通じて、チームワークやコミュニケーションの重要

性を再認識しました。

5. 後輩に伝えたいこと

私がインターンシップに関して後輩の皆様にも伝えたいことは、「インターンシップは怖くない」ということです。実際に参加する前、私はさまざまな不安を抱えていました。社員の方に迷惑をかけてしまうのではないかと、アルバイト経験もない自分にとってインターンシップは厳しいのではないかと、特に企業での実際のプログラミング業務についていけるかが心配でした。しかし、参加してみると、一緒に参加する学生の中には、アルバイトやボランティアの経験があっても、企業での実務経験のある人はほとんどいません。そして、企業の方もその点を理解されていて、必ずフォローしてくださいます。教務課や理工インターンシップ運営委員会の先生にも遠慮なく相談しましょう。私も何度も相談し、助けていただきました。

もし、インターンシップが気になるけれど、不安で参加するかどうかを迷っているという人がいれば、私は勇気を持って参加することを強くお勧めいたします。

理工インターンシップを終えて

久野 将一郎
Shouichiro KUNO



電子情報通信課程 3年

1. はじめに

私は2024年8月16日から8月29日の10日間、大阪府にある「寺崎電気産業株式会社」のインターンシップに参加させていただきました。実習に参加するにあたって私自身が心がけていたことが2つありました。

私は設計・開発職へ就職を第一に志望しているため、一つ目として寺崎電気産業株式会社の設計・開発職にて行われている業務内容や社内の仕組みについて学んで吸収しようと心掛けました。これは今後引き続き研究職を志望していくのか、はたまた営業のほうへシフトチェンジするのかという自己分析もかねてインターンシップに参加しました。

二つ目としては、自分自身の中でイメージが固まっていないBtoB企業について知るために、BtoB企業が業界の中でどういった立ち位置なのか自分の中で納得させることを心掛けました。

実習先企業概要

寺崎電気産業株式会社（図1）は今年で101周年を迎えた歴史ある企業で、主に船舶事業、具体的には「配電制御」や「機器監視制御」の機器で

世界シェアの多くを占め、船舶の制御機器の製造を行っています。またビルや地下鉄の駅といった大型施設の配電盤の製造や全国各地のブレーカー機器（配電用遮断機）を製造し、透析装置といった医療機器の製造など幅広く手掛けています。



図1 寺崎電気産業株式会社本社（大阪市平野区）

2. メディカル機器部門配属

2.1 音センサ作成

医療機器部門の主力機器である透析装置には様々な電子回路が組み込まれています。今回は透析装置から発せられるいくつかの種類のあるエラー音を検知し、任意の周波数が検知されたときLEDを点灯させる回路を作成しました。

始めに手書きで書かれた回路を渡され、そこから抵抗やコンデンサーをプリント基盤に収まるよ



図2 現代の電子機器で用いられている基板

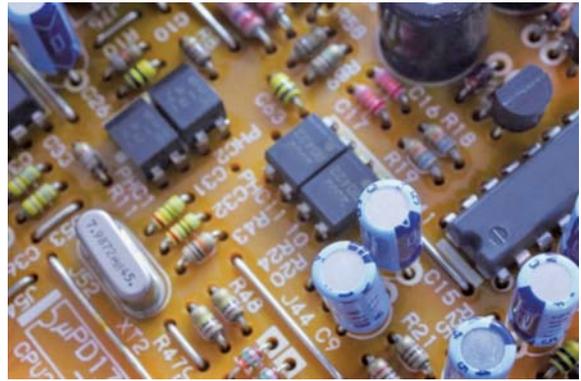


図3 実験用基板

出典：図2・3ともにフリー画像サイト <https://www.photo-ac.com/>

うに工夫しながら配置計画をし、実際に配置、はんだ付けを行い、音センサとして実際に動作するか検証しました。

2.2 具体的な回路の説明

音センサとして動作させるためにはまず、マイクで音を収集し波形化を行い、既定の周波数のときLEDに電流を流すようにしなければなりません。これらを実現するためにいくつか電子部品を用いました。

• POAMP (オペアンプ)

これは入力された波形を増幅させる電子機器です。透析装置から発せられるエラー音は多くのノイズを含んでおり、このまま入力しても得られる波形の振幅はとても小さいうえに、ノイズによってエラー音の周波数を識別できません。OPAMPによって振幅を増幅することが可能なため、最終的にきれいな正弦波を得られます。

• トーンデコーダ

これはあらかじめ設定した帯域に入力信号が存在すると出力トランジスタをオンにする装置です。機器にはピンが8本あり、これらのピンに可変抵抗を並列に接続することで帯域を変更することができる仕組みになっています。今回はこの可変抵抗を調節して1500Hzを検知したときLED

を点灯させるように調節しました。

2.3 回路作成

前述した回路図から回路基板を作成します。現在、製品化されている回路基板の多くは図2のように米粒以下のサイズであり、非常に小さな抵抗やコンデンサーを機械にとって取り付け、製品の小型化に貢献しています。

しかしながら、ピンセットを用いて手作業で抵抗やコンデンサーの取り付けを行うので、現代の非常に小さな抵抗、コンデンサーを取り付けるのは物理的に困難であることから、実験用の大きく扱いやすいサイズの抵抗、コンデンサーを用いて(図3)取り付けを行いました。

2.4 結果

最後にスマホアプリを用いて疑似的に医療機器からのエラー音である1500Hzを流しLEDに電流が流れ点灯するか確認し、無事点灯させることができ実験を成功させることができました。

3. インターン実習を通して今後にかかすことは

医療機器の部署を見学し音センサの作成を行い、担当者や専門の方に相談を行ったことで、正

確にことを進めることができました。

担当してくださった社員の方からのお話で「新入社員に求められていることはまず早く業務を遂行することではなく、しっかりと上司や専門知識を持つ方に疑問点は何度でも相談を行い、ミスをする可能性を限りなく減らし着実に業務を行うことが求められている」とお話しくださいました。このお話から私は新入社員に求められていることは報告・連絡・相談をきちんと行えるコミュニケーション能力を身に着けることだと実感しました。実際に社内をよく観察すると新入社員の方が先輩社員の方に相談をされている姿、また中堅社員の方も積極的にベテランの年配の方に確認、相談を行っていらっしゃる姿を何度も見受けられました。

私が当初心がけていた設計・開発職とはどのような業務があるのかということの結論ですが医療機器の部門でも船舶の工場でも試行とデバックの繰り返しの連続が業務内容の根幹であると気づかされました。

例えば医療機器の職場実習中、動作確認で大半の機器がブルースクリーンになった場面に遭遇しました。このとき設計・開発の方が大勢集まって原因究明、再度動作確認を行ってらっしゃいました。

この状況を目の前で遭遇したとき、私はこの試行とデバックの繰り返しの連続が大学の実験でのやり取りと非常に近いと感じ、この気づきが自分自身の中でセンセーショナルな出来事でした。大学で常日頃行っていることが、目の前の職場でも日常的に行われていることをこれまで想像できませんでした。

世間ではしばしば「大学で学んだことが就職した企業で生かされることは極めて少ないから、大

学で学ぶことは大学卒業後の将来の役に立たない」といわれています。しかしながら前述した寺崎電気産業株式会社の社内の様子を拝見する限り、BtoB 企業では試行とデバックを繰り返しの連続が業務内容の根幹であり、大学実験でのルーティンと一致し、世間で言われている前述のことは誤りであるということに気づくことができました。つまり研究室での研究を頑張ることが、職場での活躍に直結することが分かったので、研究を行うモチベーションを大きく向上させることもできました。

後期から始まる研究室の研究では研究室の先生、教授に積極的にアドバイスをいただきながら熱心に行い、試行とデバックを自然と行う能力を身に着けることこそが就職時に業務を円滑にスタートできる、ないしは同期に比べて有利に業務することができるのではないかと感じました。

試行 ⇄ デバック
これらを何度も繰り返すことの連続

↓
開発・設計の職場の業務は大学の実験や研究室の実験とやっていることは同じ

4. 後輩の皆様へ

2週間という短期の中では比較的長期であったため、また社員の方に何度も質問をした結果、就活の体験談や、社内の空気感といった言語化が難しい部分なども直接肌で感じ取ることもできました。これはインターネット検索したりするだけでは得られない部分だと思います。

最後に、インターンシップを迎えてくださる企業さんには優しく接していただき、気軽に些細な質問にも答えてくださるので自身の成長にもつながり、職場の雰囲気を知る貴重な経験となり、就職活動にも大きな良い影響を与えるのでぜひ参加してみてくださいと思います。

学外実習を終えて

須川 拓洋
Takumi SUGAWA



機械工学・ロボティクス課程 3年

1. はじめに

私は、兵庫県明石市に本社がある川重テクノロジー株式会社様で、8月21日から9月3日までの平日の10日間、学外実習をさせていただきました。実習の目的は、これまでの大学生活の中で学んだ専門的な知識が、社会でどのような場面でどのように利用されているのかを自身で実際に体験して知ることです。

2. 実習先概要

川重テクノロジー株式会社は、川崎重工業株式会社技術開発本部から分離独立した会社であり、川崎重工業株式会社が100%出資する会社です。主に新しい製品の研究や開発を行っており、分析・環境評価、材料評価・試験、強度・振動・騒音評価、構造強度・熱・流体解析、受託研究・評価試験、制御・電子・ロボットソリューションなど、さまざまな業務を行っています。川重テクノロジー株式会社には明石営業所と神戸営業所の2つの営業所が存在し、今回私が勤務することとなったのは明石営業所でした。

この度私が配属された部署はトータルソリューション（TS）推進部であり、川崎重工業株式会

社の製品を中心に研究開発にかかわる実験業務や製品の性能評価などの、化学工学分野を中心とした業務を行っています。

3. 実習内容について

3.1 計測機器の種類や原理の理解

試験を行うときには、試験結果から何が分かるのかを明確にするために必ず物理量のデータを測定して記録しなければなりません。そのデータを得るためには、温度を計測したいのであれば温度計、圧力を計測したいのであれば圧力計、流量を計測したいのであれば流量計、といった、それぞれの計測器が必要です。

また、温度の場合、温度を計測するだけでも、条件や温度を測定する対象物の状態によって使用する温度計は異なります。使用する条件に最も適している測定器を見極める判断力が必要であることをこの実習で学びました。

3.2 3D CADでの固定具の設計

実ガス吸収試験装置に使用される金属製のタンク上部を固定する固定具を3D CAD (Solid Works) を用いて製作しました。初めに設計したモデルを以下の図1に示します。



図1 初めに設計した形状

こちらの形状で一見問題ないように思えますが、タンクの構造上の問題で形状や構造を改善しなければなりません。改善を繰り返して完成した形状を以下の図2に示します。

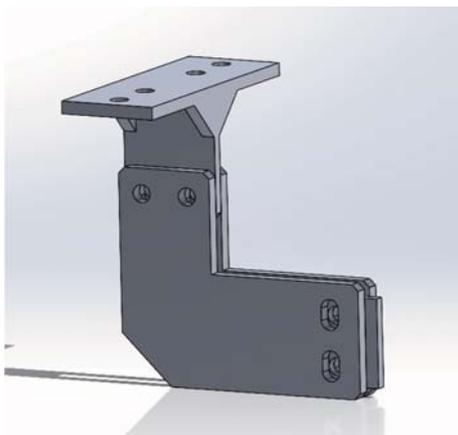


図2 最終形状

最終形状は2つのパーツから構成されています。また、一部長穴となっている部分があります。これは、製作誤差とタンクの伸縮を考慮した結果の設計です。Solid Works では寸分の狂いもない寸法で設計することができますが、実際に形にすると寸法に何らかの誤差が発生する場合があります。また、吸収液タンクは高さが4メートル近い金属製のタンクであるので、熱によってタンクが伸縮することも考えられます。このような要素を想定して対応できるように設計することが重要であることをこの実習で学びました。

3.3 吸着剤性能評価確認試験

沸点が20K という極めて低温である液化水素を運搬する際は、液化水素が充填される槽を真空層が覆うといった金属製の二重構造の真空断熱容器を用います。外側の層を真空にすることで、対流、伝熱、輻射といった、容器内への入熱要因を低減することができます。

しかし、真空にすると容器の表面からガスが出てきます。これは真空状態を悪くさせる（真空劣化）原因となります。この実習では、液化水素が充填された状態の真空部分を模擬し、真空劣化を防ぐために真空部分に出てきたガスを吸着させる吸着剤 1g を投入し、真空状態を維持できるかを確認する試験を行いました。試験は以下の手順で行いました。

- 手順1 真空排気
- 手順2 封じ切り
- 手順3 真空排気（冷凍機運転）
- 手順4 封じ切り（冷凍機運転）

この実験で得られたデータを以下の図3に示します。

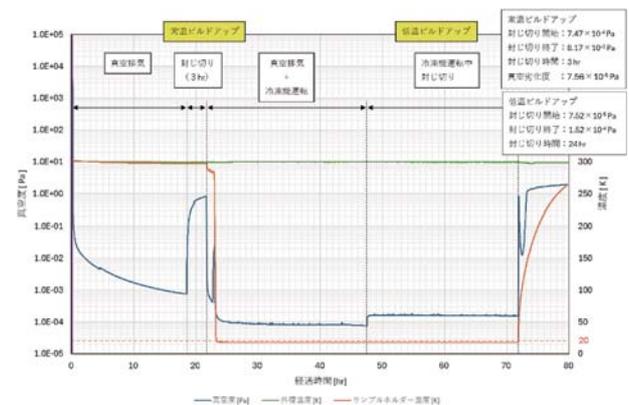


図3 吸着剤 1g の試験結果

冷凍機を運転しなかった時と運転した時を比較しています。

真空排気について、冷凍機を運転しなかった時

は常に真空度は減少しており、真空度が最も低い値は封じ切り直前の 7.47×10^{-4} Pa となりました。一方冷凍機を運転した時は、真空排気開始直後は真空度は減少するものの、その後 7.52×10^{-5} Pa あたりで一定の真空度となりました。真空排気では、冷凍機を運転した時の方が真空度が良い状態で一定に保たれていることが分かりました。

封じ切りについて、冷凍機を運転しなかった時は封じ切り開始直後急激に真空劣化が起り、 8.17×10^{-1} Pa まで真空度が悪くなりました。一方冷凍機を運転していた時は、封じ切り開始直後こそ同じように真空劣化が起りますが、冷凍機を運転しなかった時ほど劣化せず、 1.52×10^{-4} Pa あたりで一定の真空度となりました。封じ切りでは、冷凍機を運転した時の方がより真空劣化を起さないことが分かりました。

しかし、このデータは吸着剤を投入しなかった場合でも同様のものが得られるので、吸着剤 1g では効果が無いということがこの実験で判明しました。

4. 実習を終えて

行われている試験について理解を深めるため

に、理論と現象を知ることが大切だと感じました。そのためにも、分からない情報があれば放置せずに自身で調べ、それをメモや記録に残すことが重要であることを学びました。これは今回の学外実習だけでなく、大学での生活にもまた、実習では液化水素という危険な物質を扱っているため、事前の危険予知と自身と周りの安全の配慮をすることで、ケガや事故の発生を事前に防ぐことができるということを実感しました。

5. 後輩の皆様へ

今回の学外実習では、私の場合 Solid Works を用いた固定具の設計といった大学で学習した知識を利用する実習もありましたが、吸着剤性能評価確認試験の真空や液体水素といった大学で学習しなかった知識を利用する実習もありました。全ての実習が自身の学習した知識を利用するわけではありませんが、企業ではどのような業務が行われているのか、また、自身が得た専門的な知識がどの場面でどのように活かされているのかを実際に体験して知るには、学外実習という場は素晴らしい機会であると感じました。

インターンシップを終えて

大黒叶乃
Kano DAIKOKU

応用化学課程 3年



1. はじめに

私は8月26日から9月5日までの9日間、滋賀県栗東市にある宮川化成工業株式会社 滋賀事業部の開発部にて学外実習をさせていただきました。私が実習に参加しようと考えた理由は、大学卒業後の進路について明確な決断ができていないためです。大学院に進学するか、それとも就職するかを判断する際に、実際の企業での経験が助けになると考えています。今回の学外実習では、企業の現場の雰囲気や具体的な仕事内容に直接触れることで、将来の進路を決定するための重要な指針を得ることを目的としました。

2. 実習先概要

宮川化成工業株式会社は1934年に創業以来、プラスチック成形加工のパイオニアとしてバッテリー部品、自動車部品等において、国内外で活躍されています。生産拠点として、大阪事業部、滋賀事業部、広島事業部があります。また、関係会社として海外にも拠点をもちグローバルな生産体制を構築しています。

今回の実習は、滋賀事業部、本社の二つの拠点でお世話になりました。

3. 実習内容

3.1 実習スケジュール

9日間の実習は次のようなスケジュールで進みました。各内容を表1に示します。

表1 実習スケジュール

日程	実習内容
8月26日(月)	会社概要説明・工場見学 技術、設計 Gr 概要説明 IR・蛍光 X 線分析実習
8月27日(火)	成形実習
8月28日(水)	材質特定実験
8月29日(木)	各種試験機操作実習 成形不良現象再現実習
8月30日(金)	3D CAD 実習
9月2日(月)	3D CAD 実習
9月3日(火)	流動解析 実習
9月4日(水)	3D プリンタ造形実習(本社)
9月5日(木)	流体解析 実習 構造解析 実習

3.2 成形実習

翌日、材質特定実験に使用するためのテストピースを Si-80-06 成形機を使用し、成形しました。成形実習の様子を図1に示します。

Si-80-06 成形機は、プラスチックや樹脂材料を

射出成形するための装置で、材料を加熱・固化させることで成形品を作成します。装置の主要部分を簡単に図示したものを図2に示します。材料はホッパーから供給され、シリンダーで溶融されます。溶融した材料はスクリューによって金型内に高圧で射出され、冷却されて固化します。成形が完了すると、金型が開かれ、成形品が自動的に取り出されます。



図1 成形実習の様子

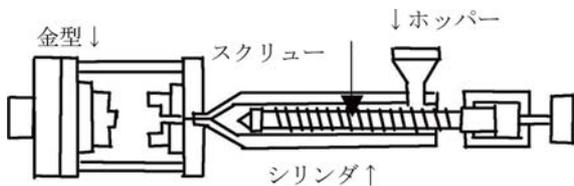


図2 Si-80-06 成形機の簡略図

3.3 材質特定実験

4種類の未知のテストピースを対象に、6つの試験方法を用いてプラスチックの性質を考慮し同定を行いました。具体例として、引張強度の試験による測定結果を抜粋します。

精密万能試験機 (2t) を用いて、引張強度を測定し、材質特定を行いました。各テストピースで3回測定し、平均した測定結果を表2、テストピースの破断状況を図3に示します。

幅と厚みは異なる3点で測り、その中で最も小さい値を使用しました。理由は、3点を測ることで全体の寸法のばらつきを確認し、最も小さい部

分が強度的に脆弱で破損が起こりやすい箇所となるため、その値を基準にして強度を評価するためです。

表2 引張強度測定結果

番号	幅 [mm]	厚み [mm]	引張強度(3回の平均) [MPa]
①	10.059	4.082	26.2
②	10.157	3.941	49.2
③	10.134	3.985	42.2
④	10.126	4.022	65.7

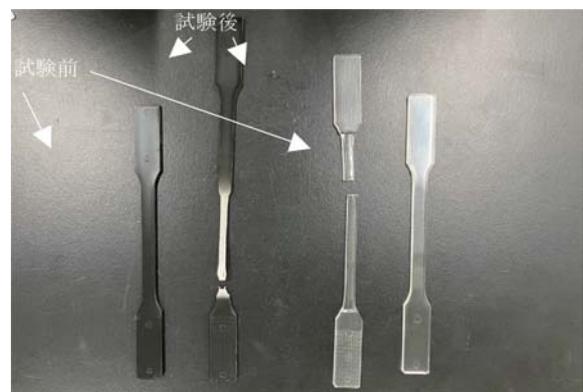


図3 引張試験 テストピースの破断状況

この試験法では、プラスチックの強度特性から低い強度を示した①のテストピースはPP、強い強度を示した④のテストピースはPCと同定できます。

3.4 3D CAD 実習

3D CAD 実習では、翌日の3D プリント造形実習に向けて、コースターデザインを自ら考案し、モデリングを行いました。そのデザインはNX12ソフトを使用して形状を作成しました。

NX12は、製品設計やエンジニアリングに広く使われている3D CADソフトで、立体的なモデルを精密に作成できるツールです。NX12を使用することで、ミリ単位の精密な設計が可能で、今回のコースターのようなシンプルな形状でも細部まで正確にデザインができました。また、設計したモデルを視覚的に確認できるため、改善点や調



図4 モデリングした図面と完成したコースター

整が容易に行えます。

3.5 3D プリンタ造形実習

3D プリンタは、コンピュータで作成した3D データをもとに、材料を一層ずつ積み重ね、立体物をつくる装置です。3D プリンタを使用することで、部品の試作を短期間で作成でき、実際に金型から製作して試作する場合に比べて、経費を大幅に削減できるメリットがあります。今回の実習は大阪の本社にて、UV 硬化プラスチックを使用し、モデリングしたコースターを実際に造形しました。造形が完了した後は、複雑な形状を支えるために使用されたサポート材を取り除きました。サポート材の除去には、主材とサポート材の融点の違いを利用し、恒温槽に造形物を入れることで行いました。3D CAD ソフトを使用してモデリングした図面と完成したコースターを図4に示します。

4. 実習を通しての感想

インターンシップを通して、実際の業務や技術がどのように現場で活用されているかを直接学ぶ

ことができ、とても貴重な体験でした。教室で学んだ知識がどのように実務に結びつくのかを体感できました。特にプラスチック製品の製品試験において、実際の業務内容と同等の試験を経験させていただいたことは非常に印象的であり、実践的な知識を深める貴重な機会となりました。また、多くの担当者の方々に直接ご指導いただいたことは大変貴重な機会で、チームでの協力やコミュニケーションの大切さも再認識しました。この経験を通じて、学業や今後のキャリアに活かしていきたいと感じます。

5. 後輩に伝えたいこと

インターンシップを通して感じたことは、現場での経験がいかに重要かということです。教室で学ぶ理論や知識はもちろん大切ですが、実際に手を動かして試行錯誤することで、学びが深まります。特に、現場では多くの担当の方々からご指導いただき、実務に即したフィードバックを得られる貴重な機会となりました。現場で学べる機会があることの貴重さを、ぜひ自分自身で経験してみてください。

インターンシップを終えて

西宮翔哉
Shoya NISHIMIYA



環境生態工学課程 3年

1. はじめに

私は、8月19日～30日（土日曜日を除く）の10日間、大阪府大阪市にある一般財団法人 関西環境管理技術センター（EMATEC）で学外実習をさせていただきました。今回のインターンシップの目的は、大学で学んでいる知識や技能などが実際に社会ではどのように活用されているのかを体験し、社会で働くイメージをより明確にすることでした。

2. 実習先概要

関西環境管理技術センターは、高度経済成長に伴い公害が激化した時期の1972年（昭和47年）に大阪通商産業局（現近畿経済産業局）、大阪府、大阪市並びに大阪商工会議所をはじめとする関西の経済団体によって設立された総合的な環境管理技術機関です。

事業内容は、大気質、水質、騒音、振動、臭気、土壌、底質等、様々な分野の環境調査（測定・分析）、飲料水や空気環境の検査・評価、環境監視やアセスメント等であり、「美しく豊かな環境を未来へ」をスローガンとして中立・公正な立場で環境に関する多くの事業を行っています。

3. 実習内容

実習スケジュールを表1に示します。

表1 実習スケジュール

日程	内容
1日目	ガイダンス、公害総論・分析基礎
2日目	プール水検査（試料採取） 大気中のダイオキシン類調査（試料採取装置設置）
3日目	河川水質調査（試料採取・流量測定）
4日目	細菌試験、水道器具の浸出性能試験
5日目	土壌中のダイオキシン類調査（試料採取）
6日目	大気汚染常時監視測定局の窒素酸化物測定器保守点検
7日目	建設廃棄物の再生利用事例（講習） 環境アセスメント概論（講習）
8日目	建材中のアスベスト定性分析 水中のダイオキシン類分析（前処理）
9日目	作業環境測定（粉じん濃度測定）
10日目	シックハウス測定（揮発性有機化合物分析） 実習振り返りレポート作成

表1に示すように、実習では現地や分析室で多岐にわたる体験をさせていただきました。

この中から、最も印象に残った8日目のアスベスト分析について紹介します。

アスベスト（石綿）は、自然界に存在する天然の鉱物繊維であり、アスベストの定性分析法であ

る JIS A 1481-1 では、クリソタイル、アモサイト、クロシドライト、トレモライト、アクチノライト、アンソフィライトの 6 種類が規定されています。このうち、日本で使用された代表的なアスベストは、クリソタイル、アモサイト、クロシドライトの 3 種類です。

また、アスベストは、繊維状の構造で加工しやすく、熱や摩擦に強いなどの特性があり、これらの特性は、建材などとして優れており、30～40 年前では、アスベストがよく使用されていました。しかし、アスベストは、丈夫で変化しにくいいため、吸い込んで肺の中に入ると組織に刺さり、15～40 年の潜伏期間を経て肺がんを起こす可能性が確認されました。そして、現在では、アスベストの肺がんなどを起こす危険性が確認されたことにより、アスベストを含む製品の輸入・製造・使用等は禁止されています。

関西環境管理技術センターでは、法令に基づく建築物の解体・改修工事に伴うアスベスト事前確認調査などで建材のアスベストの有無や種類などを分析しています。今回の実習では、建材製品中のアスベストを分析するための前処理と偏光顕微鏡及び位相差・分散顕微鏡による観察し、判別を行いました。

まず、前処理では、建材製品をアスベストが変質しない温度で灰化させたものを塩酸で処理し、不純物を溶かし液状にしてからろ紙に通しまし

た。そして、そのろ紙を乾燥させました。

次に、顕微鏡でアスベストが含有するか観察しました。最初に建材製品を実体顕微鏡で観察し、建材製品に繊維状のものがあれば、あらかじめスライドガラス上に滴下しておいた浸液の中にピンセットで採取し、プレパラートを作成しました。そしてそのプレパラートを偏光顕微鏡で観察しました。

アスベストは、種類によって形態や光学的性質が異なり、この特性を利用して種類を判別します。クリソタイル、アモサイト、クロシドライトの 3 種類のアスベストの特性は表 2 に示すとおりです。

消光角の直消光とは、繊維を平行方向や垂直方向に向けると見えなくなる特性のことです。また、伸張性の符号とは、正で繊維を右肩上がりに向けると青色に示し、左肩上がりに向けると黄色を示す特性です。負では正とは逆に繊維を右肩上がりに向けると黄色を示し、左肩上がりに向けると青色を示します。分散色は、アスベスト繊維を特定の屈折率の浸液で封入したときに、アスベストの種類によって垂直方向や平行方向に向けた際に示す色が異なる特性のことです。

観察結果は、表 3 に示すとおりとなりました。そして、表 2 に示すアスベストの特性からアスベストの有無及び種類の判別を行いました。

表 2 アスベストの特性

種類	形態	色・多様性	消光角	伸長の符号	分散色
クリソタイル	波状	無し	直消光	正	屈折率 1.550 赤紫 (平行) 青 (垂直)
アモサイト	直線状	無し	直消光	正	屈折率 1.680 オレンジ (平行) 青 (垂直)
クロシドライト	直線状	青 (平行) 灰色 (垂直)	直消光	負	屈折率 1.700 青 (平行) 青 (垂直)

表3 観察結果（アスベストの分析写真）

種類	単ポーラー	直交ポーラー	伸長性 右上がり	伸長性 右下がり	分散色（∥）	分散色（⊥）
クリソタイル						
アモサイト						
クロシドライト						

4. 実習を通じての感想

私は、この実習を通してたくさんの分析や現場での作業などの体験をすることができました。その中での感想は、大学で学んでいる知識が実際にお仕事で使われているのに強く感動したことです。先に述べたようなアスベスト分析は、大学での知識や経験がない初めての体験でしたが、仕事では、大学で学んだ分析方法や法律、実験での作業などが当たり前のように使われ、大学で学ぶ知識の重要性を再確認しました。分析する試料の数量も、学生の実験とは比較にならない量をこなしておられ、職員の方との経験の差や効率の良さを実感しました。

また、実習を終えてからの卒業までの取り組みとして今回の実習で学んだ縦社会をよりよく保つための礼儀作法や社会で生きる上での常識を意識

して就職活動に取り組みたいと考えました。

5. 後輩に伝えたいこと

私は、インターンシップに積極的に参加することを勧めます。将来やりたいことがまだ見つからない人は目標を見つけられる良い機会になると思うからです。実際に私自身この実習を経験したことにより多くの目標を見つけることができました。また、インターンシップでは、実際に大学で学んだ知識などが活用されているところを見ることや体験することもできます。これは自身にとってかなり大きな経験になると思います。そのほかにも、現在の自分に足りない礼儀作法や社会に出てから必要とされている常識などを学生の間に知ることができます。このように、比較的時間に余裕がある大学生の間に是非インターンシップや学外実習を受けるべきだと思いました。

★
V. 理工インターンシップ(学外実習)
I・IIを終えて(受入先企業より)
★

株式会社カンセツ

京滋事業部 滋賀事業所 前 中 賢 二

学外実習を終えて

前 中 賢 二
Kenji MAENAKA

株式会社カンセツ 京滋事業部滋賀事業所

1. 株式会社カンセツの紹介



当社は、1951年に日本で最初に機械設計を専業として創業し、産業界の発展とともに、あらゆるものづくりに携わり、幅広い分野の技術を伝承、蓄積してまいりました。現在も、業界のリーディングカンパニーとして、産業界の発展のために全力で取り組んでおります。

具体的な事業内容として、下記分野における大手製造メーカーやゼネコン様から依頼を受け、ものづくりの基礎となる「設計」を行っております。

【主な事業内容】

- ① 生産・組立ラインや半導体製造装置などの『自動省力化設備・機器設計』
- ② 自動車・航空機などの『輸送機器設計』
- ③ 電力・製鉄などの『プラント設備設計』
- ④ 設備機械や製品などの『電気制御設計』・『ソフトウェア開発設計』

【技術と社風】

当社の技術は、「開発・設計」を担い、さまざまな産業に息づいています。社員一人ひとりが柔らかな発想と信念のもと「創るよろこび」「信頼されるよろこび」を実現するたびに自分自身の成長を誇らしく思う社風が息づいています。お客さまの多種多様なニーズにお応えできる高い技術を身につけるために、社員それぞれが切磋琢磨する中で、常に成長できる環境が整っています。長期にわたる社員教育制度で、技術力向上や資格取得に挑戦できます。社員を「人財」として大切に扱う社風が根付いているため、社員一人ひとりの成長を温かく見守っています。仕事を通じ「自分自身を今以上に成長させていきたい！」という熱意に溢れた人にとって、魅力的な環境が整っています。

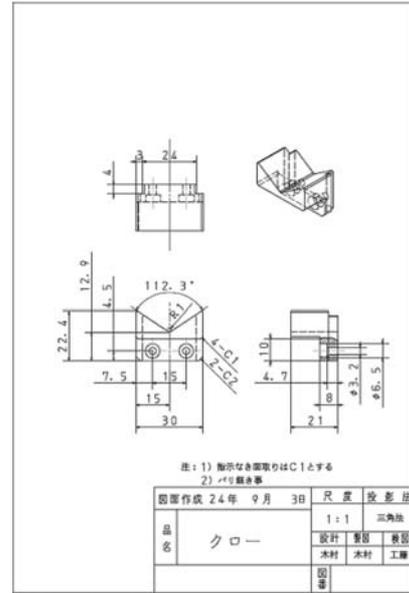
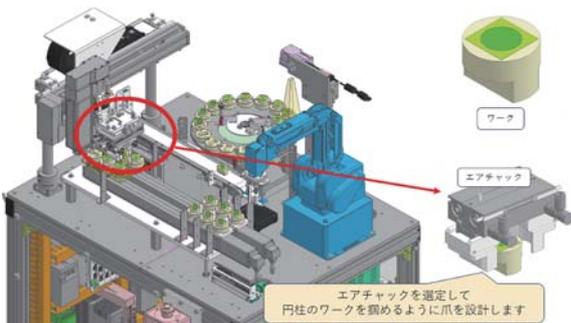
2. 学外実習生の受入れについて

当社では、インターンシップを通じ、モノ作りの基礎となる【設計】という仕事を知って頂くことを念頭に置いてプログラムを組んでおります。また、【設計】で考えたコトを後の工程に伝える役割となる【製図】や【プログラミング】の作業もとても重要な仕事となります。それらの作業を実際の仕事の流れに沿って、理解を深めてもらいながら体験して頂くプログラムとなっております。短期間で多くの設計ノウハウをお伝えすることはできませんが、少しでも設計の“難しさ”と“楽しさ”を感じて頂ければと思っております。

3. 実習内容

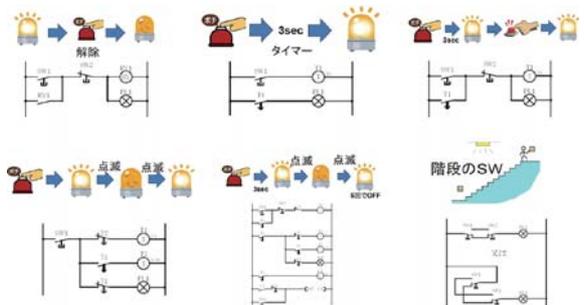
A) 機械系

- ① 3D-CAD 操作の習得
 - ・ iCAD SX 操作の習得（モデリング、アセンブリ、製図）
- ② 機器選定と部品設計（モデリング）
 - ・ 課題装置チャック部の部品設計と製作
 - ・ アクチュエータやセンサなどの機器選定
- ③ 製図（部品加工図面）と組立図（アセンブリ）
 - ・ 製図法による図面作成（製図）
 - ・ 課題装置の全体組立図の完成（アセンブリ）
- ④ DR（Design Review）
 - ・ 設計内容のレビュー
 - ・ 設計内容の検証と妥当性確認



B) 電気制御系

- ① 2D-CAD 操作の習得
 - ・ AutoCAD の基本操作の習得
 - ・ 配電盤、電気系統図、電気回路図の製図
- ② リレー回路設計の習得
 - ・ リレー制御、電磁弁制御の習得
 - ・ 回路図、接続図の製図
- ③ シーケンス制御の習得
 - ・ PLC を用いたラダープログラムの作成
 - ・ 実機動作確認
- ④ C 言語プログラミングの習得
 - ・ C 言語を用いた通信アプリケーションの作成





4. おわりに

この度のインターンシップ研修にあたり、関係者各位のご協力を賜り履行できましたことに心から感謝申し上げます。

また、実習生におかれましては、8日間でありましたが慣れない環境の中で、初めて聞くことも多くあったとは思いますが、一つ一つの実習課題について、前向きに取り組まれており、指導員もとても感心しておりました。本当にお疲れ様でした。

設計という仕事は、とても地道な作業ではありますが、モノ作りの最上流課程で重要な役割を担っております。それゆえに高度な技術を要し、社会に貢献できる素晴らしい仕事であります。今回のインターンシップを通して、今後の学生生活やキャリアの選択において、少しでも参考にして頂ければ幸いです。皆様のご活躍を心より祈念いたします。

VI. グローバル人材育成 プログラムを終えて(学生より)

電子情報通信課程

3年 山根 広嗣

環境生態工学課程

3年 藤田 朝子

アメリカ合衆国の職場文化を体験して

——カリフォルニア州でのワイン小売店研修記録——

山根 広嗣
Hirotsugu YAMANE

電子情報通信課程 3年



私は、カリフォルニア州サンフランシスコのダウンタウンエリアに位置する NAPA VALLEY WINERY EXCHANGE という日米への販売を行うワイン小売店で研修を行った。研修の目的としては、現地の従業員の方々と業務やコミュニケーションを通じて、交流を深めるとともに、アメリカ合衆国での働き方を学ぶためであった。

研修初日、ホームステイ先から通勤し、アメリカ合衆国で働くことへの期待と上手く職場環境になじめるかという不安とともに、研修先に到着した。店の扉を開けると、店長の Rick に熱く迎えられた。10:00 から営業開始であったが、他の従業員はまだお店に来ていなかった。Rick と私の双方が自己紹介をした後、Rick から “First of all, could you tell me what kind of work you want to do?” と聞かれ、“I’d like to focus on doing inventory work and social media strategy.” と答え、Rick が続けて “If you change your mind about what you want to do, don’t hesitate to tell us.” と仰ったので、“Yes.” と答えた。日本では仕事は与えられるものだという文化があるが、アメリカ合衆国では自分からどのような仕事がしたいかを申し出るという文化だと知り、研修初日にして早速、日米の違いに気づいた。そのようにして、コミュニケ

ーションをとっていると、従業員の Andy が来店し、彼と共に本格的に業務を開始した。

まず、ワインを配送する際に使用する配送用段ボールの組み立てと梱包材の充填を行った。段ボールは 1 ビン、2 ビン、4 ビン、6 ビン、そして 9 ビン用とあり、初日は 9 ビン用のものを 20 箱作製した。その後、日本へ発送する品物の配送ラベルを国際配達業者の公式 Web サイトから必要事項を入力し、ラベルを印刷貼付するやり方を教わった。このようにして初日は終了した。

翌日、従業員の Don と初めて顔を合わせ、昨日の続きであるウェブ配送手続きとラベル作成を行った。ワインは非常にデリケートな商品なので、到着地の天候と気温、湿度を確認してから、発送作業に入るといふ。もし、配送途中に破損してしまうなどのトラブルが起こった場合は、店に返却され、再度発送準備をしなければならないといい、ワインを丁寧に扱い、お客様に最高の状態で提供しようとしている取り組みに感銘を受けた。その後、ワインのテイस्टイングの方法を教わり実践してみた。目でワインの透明度を見て、香りを確かめ、舌の中央で甘さ、縁で酸っぱさ、奥でアルコールの強さを感じて評価を行う。ここで、ワイングラスを傾けたときのワインの縁の透明度を見るこ



とによって、年数が経っているか否かを確認する
といい、より熟しているぶどうを使い醸造すると、
よりアルコール度数の高いワインを得るという。

初めてテイasting試してみても、ワインの一
つひとつに特徴があることは、味覚から容易に分
かったが、見た目や香り、風味などを自分のこと
ばで表現し評価する難しさを感じたとともに、そ
れを基にお客様に説明するとなると、大変多くの
知識が必要であると感じた。

3日目～7日目は、はじめに、公式 Web サイ
トを閲覧して顧客目線で修正すべき箇所を提示
し、収益拡大のための効果的な広告やキャンペ
ーンのアイディアを出した。修正箇所の案としては、
従業員紹介の欄に各人の写真を貼付することを挙
げ、効果的な広告やキャンペーンとして、SNS
でのフォロー&リツイートキャンペーンや割引く
じの導入を立案し、私の案を基に、店長 Rick は
クラブ会員に向けて「ありがとうキャンペーン」
を実施するとし、お褒めの言葉を頂いた。自分の
アイデアが実現する喜びを感じた。その後、日本
人従業員の Yuri から、4つのタスクを貰い業務
を行った。Yuri は、元々は日本でエンジニアを
していっしやだったが、そこからアメリカ合衆国
で経済学とワイン醸造学を大学で専攻した後、現
地で働いていっしやる。1つ目のタスクとし

て、現地日本企業名と連絡先、代表者の一覧をエ
クセルで作成した。顧客の約2割が日本人であ
り、さらなる顧客を獲得するために、リストを作
成し、それを基に電子メールや電話を通じて宣伝
していくという。次に、2つ目のタスクとして、
宣伝を行うための電子メールの文面を考えた。日
本語と英語で記し、NAPA VALLEY WINERY
EXCHANGE の魅力を伝えるように努めた。そし
て、3つ目のタスクとして、8月に入荷した\$1000
以上のワイン在庫の注文書を Yuri に Email に添
付し、送信した。最後に、4つ目のタスクとし
て、日本人顧客のメールアドレスをピックアップ
し、リストにまとめていくことを行った。このタ
スクが一番捌く量が多く、とても疲れたのを覚え
ている。

8日目は、4ピン用の段ボールの組み立てと梱
包材の充填を行い、合計14個を作製した。その
後、仕入れたワインを入れていた段ボールを片付
け、大型のゴミ箱に捨てに行くという作業を行っ
た。大型のゴミ箱は、市から購入して市がゴミ収
集をしており、外部者が投棄するのは違法と従業
員 Andy から教わった。この日は、プログラムの
担当教授である糟野先生とプログラムの現地アシ
スタントである Miki がいっしやり、私の働き
ぶりについて店長 Rick と従業員 Andy に尋ねら



れ、お二方とも、私の働きぶりがとても良いと褒めていただいたのは、光栄なことであった。また、英語をよく理解しており、発音も良いと言って下さり、これまでの英語学習の成果を発揮できているのだと感銘を受けた。

9日目は、これから仕入れるワイン名とブドウ園の名前、希望買取価格をまとめたリストを作成した。Rick曰く、ワインはカリフォルニアからはもちろんだが、イタリアやフランスからも仕入れており、仕入れ時の外貨レートも加味しながら希望買取価格を提示していると仰っていた。その後、発送用の4つビン用の段ボールを組み立て、梱包材の充填を行い、総計16個作製した。休憩中に、来店された男性のお客様と少々お話をを行った。彼は日本語の勉強をしているといい、実際に話されたが、日本語のイントネーションがとても上手く、日本に興味を持ってくださっていたことに喜ばしく思った。

そして、最終日の10日目となった。最終日は、従業員のDonとともに、ワインに値段ラベルを張り付け、その後、従業員Andyとともに、12ビン用段ボールにワインを入れていく作業を行った。業務を一通り終えたところ、最終日ということで、店長Rick、従業員Andy、Donからサプライズを受け、ジャケットを頂いた。業務に慣れて

きて、これから活躍していきたいと思っていたが、研修は終わりを迎え、彼らに別れを告げた。従業員の方々に優しくしていただき、交流を深めていたため、今でも名残惜しい。

このような体験を経て、私が日本とアメリカ合衆国との違いとして一番に学んだことは、職場環境のメリハリの違いである。日本では、年功序列があり労働者が保護された環境であること、また長時間労働があるなど職場環境におけるメリハリが曖昧であるが、アメリカ合衆国では、レイオフがあるために、緊張感を持って仕事をしなければならない一方で、成果を出せば自由に休んで良いという成果主義であり、メリハリが明確であることに気が付いた。今回の研修先でも実際、営業時間より遅く店長が出勤したり、友達と会う予定があるからと店長が早退したりしていた一方で、仕事中はパソコンに一心に向き合い、取引先と何件も電話をしていた様子を見て、メリハリの上手さに気が付いた。また、一人ひとりが仕事に誇りを持ち、大変ながらも楽しく仕事をしていた印象を持った。今回の経験を通じて、海外で働くことの楽しさを知れたとともに、現地の方々の考え方や仕事に対する姿勢を知ることができた。今後の私の人生設計に大きな恩恵を与えてくれたと感じている。



グローバル人材育成プログラムを終えて／ Challenge each other

藤田 朝子
Asako FUJITA



環境生態工学課程 3年

1. はじめに

8月15日から9月2日まで、アメリカのカリフォルニアで活動した。現地到着後4日間、企業、大学見学およびキャリアセミナーを行った。その後2週間、ホストファミリーにお世話になりながら、実習先で実務研修を行った。

2. 目的

世界中から人々が集まる場所で企業の方々と関わり、海外の環境に対する人々の意識や考え方について意見を交換して多角的な視点で人と自然が共生できる環境について考えられるようになること、現地の方と共に働くことで、多種多様な仕事への向き合い方を知り、今後自身がどのように働き、社会に貢献していくことができるのかを考えることを目的とし、より多くのことを知ることができるよう積極的に話すことを目標とした。

3. 実習

3.1 実習先について

実習先：Ardenwood Historic Farm (34600 Ardenwood Blvd. Fremont, CA 94555)

カリフォルニアのフリーモントにあるアーデン

ウッド・ヒストリック・ファームで2週間お世話になった。もともと個人の農場であったが、環境豊かな土地を残したいという思いから政府によって守られ、今はフリーモント市およびイーストベイ・リージョナルパークスによって管理されている。ファーム内には植物や動物のほか、昔の農耕器具もあり、実際に体験することができる。ファームは、スタッフのほか多くのボランティアに支えられており、スタッフとボランティア、来園者の交流の場ともなっている。

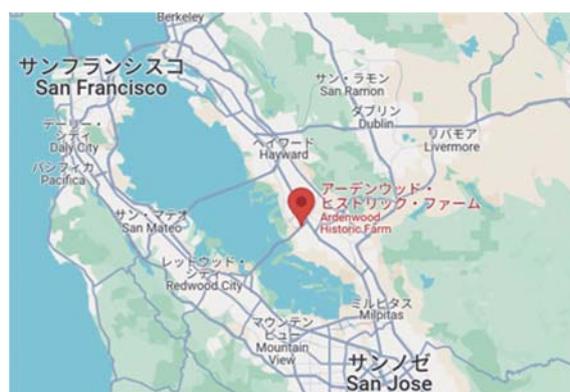


図1 実習先の位置情報

出典：<https://www.google.com/maps/place>



図2 ファーム内の Patterson House
出典：<https://www.google.com/maps/place>

3.2 実習内容

スタッフのダイアナさんのご指導の下、植物・動物の管理とファームの歴史・動植物について学ぶことを行った。

1日のスケジュール (Mon.-Fri., 10am-3pm.)

9:30 出勤
10:00 午前の仕事
12:00 お昼休憩
13:00 午後の仕事
15:00 退勤

図3 実務研修の1日のスケジュール

3.3 ファームで学んだオーガニックな農業スタイル

アーデンウッド・ヒストリック・ファームのオーガニックな農業スタイルに興味を持った。私たちが集めた動物の糞を、倒木から作った木炭・木質チップと混ぜ合わせると、コンポストという堆肥ができる。堆肥を土に混ぜると、肥沃な土壤になり、農作物ができ、それを動物が食べてまた堆肥ができるというサイクルが生まれる。木炭は、鍛冶に使われた後動物の糞の下に敷いて消臭に使われる。来園者が歴史を体験できるイベントがある木曜日には、実をとり乾燥させたトウモロコシの芯を燃やしてポップコーンをつくったりする。このようにファームでは、複数のエコサイクルがみられる。

指導して下さったダイアナさんは、メキシコの方なので、アメリカとメキシコの農業スタイルの違いについて質問すると、メキシコは、アメリカよりもオーガニックだったが、最近では時代の変化とともに化学製品が使用されるようになったこと、一度化学製品を使用すると、土壌中の動物が減り、土壌を元に戻すことは難しいため、ダイアナさんもこのファームのオーガニックなスタイルが好きだということを教えてくれた。

後日、つくったコンポストのソイルテストを行った。リン、窒素、カリ、pHの4種類について、土壌の状態をチェックした。自然由来の土壌改良剤にも多くの栄養があることを確認することができた。



図4 エコサイクルの概略



図5 Soil Testing を行った際の様子

3.4 実習を通じて学んだこと

実習の目的として、多角的な視点で人と自然が共生できる環境について考えられるようになること、多種多様な仕事への向き合い方を知り、今後の自身の働き方、社会へ貢献していく方法を考えることをあげていた。

環境面について、ファームでオーガニックな農

業スタイルやエコサイクルについての知識を増やしたり、コンポストの土壌テストを行って自然由来の肥料にも多くの栄養があることを確認したりして、実際に見て体験できたことにより、自然の力を知り、自然の力をどのように生かしていくのかが人と自然との共生のカギになると考えられるようになった。今後もファームでの体験を活かして、学びを深めたいと思う。

働き方と社会への貢献について、人とのかかわりを持ちコミュニケーションをとることと一人一人の意思の重要性に気付いた。アメリカの職場では、人とのコミュニケーションや意見交換、助け合いが重要視されているように感じた。挨拶と、ちょっとした会話をすることで、非常に雰囲気がよくなり、仕事の効率が上がった。そして、会話の中からファームをよりよくする意見がうまれていた。また、アメリカでは、皆がお互いの考えを尊重している。そして、“How do I feel?”を大事にしている。そこから、違いの魅力と人が人に

与える影響力の凄さにも気付かされた。“違い”を学びを与えてくれるものとして捉え、いろいろな人に関して影響をもらい、そして影響を与えられるような人になりたいと思った。そうすることで、いつか私もグローバルの一員になれるのではないかと考えた。まずは、自分を知ることそして、いろいろな人とのコミュニケーションを大切にすることをこれからの目標にしたいと思う。

4. おわりに

プログラムを終えたいまグローバル人材とは何かと考えてみると、社会をよりよくしたいという共通の目標に向かって、国・言語に関係なく協力して取り組むことができる人、共に未来を考えることができる人なのではないかと思う。

この実習期間中、協力してくださった多くの皆さんに、そして、やさしさに溢れる方々との出会いに感謝しています。

◆

VII. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIポートフォリオ、 アンケート集計結果

◆

1. ポートフォリオ〈実習前〉集計結果
2. ポートフォリオ〈実習後〉集計結果
3. 報告会・交流会アンケート集計結果

学生には、実習開始前に【ポートフォリオ〈実習「前」〉】を、実習終了後に【ポートフォリオ〈実習「後」〉】を提出してもらいます。

実習前には自分自身を見つめ直し、実習で取り組みたい事や目標を立ててもらいます。また実習後は、どれくらい達成できたかを振り返り、この実習体験を踏まえて、さらなる今後の目標を立ててもらいます。

1. ポートフォリオ〈実習「前」〉集計結果 ※一部抜粋

各設問に答えながら自分を見つめ直してください。

さらに自身の理工インターンシップに対する目標を考えてください。

実習終了後まで大切に保管し、時々自分自身を客観的に振り返ってください。

2024年度 ポートフォリオ〈実習「前」〉

■理工インターンシップの受講に際し、自分を見つめ直して下さい

〈自己自身〉について、設問 1～8 (省略)

〈大学生活〉について 設問 9～16 (省略)

〈アルバイト〉について 設問 17～19 (省略)

〈職業観〉について 設問 20～24 (省略)

〈未来の自分〉について 設問 25～26 (省略)

■自己分析を終え、理工インターンシップについて考えて下さい。

I. 実習中、特に気をつけたいことは何ですか？

II. 実習中、積極的に取り組みたいと思っていることは何ですか？

III. 最後にあなたの実習の目標は何ですか？

I. 実習中、特に気をつけたいことは何ですか？

- ◆周りに失礼がないよう気をつけたい。
- ◆高価な製造機械などもあると思うので、そういった機械への接し方、気を付けるのはもちろんのこと、しっかりと礼節を持った態度を心掛けていきたいです。
- ◆コミュニケーションが苦手なので、伝えたい情報が実際にちゃんと伝わっているかどうかということを、気をつけたい。
- ◆適切な言葉遣いをすること、わからないことは自分で判断せずに社員の方など、知識のある人に聞くことです。
- ◆ビジネスマナーについて、まだまだ分からないことがたくさんあるので一番心配していることでもあり、気をつけたいこと。また、周りに合わせすぎではなく、自分の意見や考えを言葉にするようにしたい。
- ◆焦らず丁寧に作業する。細かいところで手を抜かない。
- ◆一つのことに集中して周りが見えなくなることがあるので、気を付けつつ、しっかり話を聞きたいと思います。
- ◆実習先に失礼のないようにすること、自分がいま学習していることと業務内容の繋がりを意識したい。
- ◆一大事に発展しうるミスがないよう、確認をこまめにする。
- ◆実習地が2つありどちらも通勤方法が複雑な上に時間もかなりかかるので下見をして遅刻だけは絶対にしないようにする。アルバイト経験もないことから人一倍言葉遣いにも気をつけたい。
- ◆言葉使いを丁寧にして実習先の方と接する。わからないことをわからないままにしておかない。あまりトラブルを起こさないようにしたい。情報の取り扱いには特に気を付ける。
- ◆一度教えてもらったことや注意点などをもう一度教えてもらうことの無いようにしっかり覚えてメモを取ることを心がける。挨拶や返事などをしっかりして印象が悪くならないように礼儀正しく接すること。「どっちでもいい」という言葉を使わない。貴重な時間を決して無駄にはしないこと。
- ◆実習先の方に迷惑のかからないように言動や行動に気を付けたい。
- ◆言葉遣いや途中で分からないことがあったらそのままにしないことです。
- ◆実習中、私が特に気をつけたいことは、常に礼儀正しく、時間厳守を心掛け、真摯に取り組むことです。インターンシップ生として受け入れてくださったことへの感謝と大学の名前を背負っていることを意識し、失礼のないよう注意したいです。また、今回のインターンシップで学んだことを適宜メモに記録するなどして忘れないようにしたいです。
- ◆ビジネスマナーを守りながら社員の方と積極的にコミュニケーションをとる。そして、社会人である意識をもつ。
- ◆指示を良く聞くこと。
- ◆インターンシップは企業内で働いている社員と職場を体験する所なので、目上の接し方や言葉遣いなどビジネスマナーに気をつけながら取り組みたいと思っています。
- ◆正確で迅速なコミュニケーションを取ることです。指示や質問をしっかりと理解し、わからないことは確認するように心がけます。また、ミスを隠さずに報告し適切な対応をすることも大切です。
- ◆自分の学びたいことを学びつつそれだけを優先して他大学の生徒やインターンシップ先の方々に迷惑をかけないようにしなければなりません。
- ◆分からないことがあればそのままにせず、積極的に質問すること。
- ◆言葉遣いです。教えてもらう立場なので、目上の人に対して失礼のないように心がけたいです。
- ◆会社に迷惑をかけないようにする。しっかり話を聞いて、与えられたことをこなせるようにする。指導者の指示に従う。テキパキ行動する。
- ◆社会人としてのマナーに気をつけたいと思います。インターンシップ先の企業にお邪魔させていただくのに、失礼なことがあるなんてことはあってはならないと思っています。学校でのマナー講習もありますが講習以外でも社会人としての当たり前のマナーを事前に調べて決して失礼のないようにしたいです。また、学生のうちから企業にお邪魔できるということなので、できる限りのノウハウや知識を持ち帰り、これからの進路に生かしたいです。
- ◆実習先の方との関係を壊さないようにしたい。
- ◆言葉遣い。尊敬語と謙譲語が混ざったりしないようになど。
- ◆暗くなりすぎず、明るく返事をし、言葉遣いに気をつけながら笑顔で接するよう気をつけたい。

- ◆時間を間違えないように何度も確認する。報連相をしっ
かりするために、コミュニケーションを怠らない。
- ◆失礼な言葉遣いをしないこと 挨拶を自分からすること。
- ◆実習中に特に気をつけたいことは、実習中に使用する機
械や器具の取り扱いに注意し、怪我や事故を防ぐことは
前提として、担当者や指導者からの指示をしっかりと確
認し、理解した上で行動することです。また、不明点があ
ればすぐに質問する姿勢であり、他の実習生や職場の
スタッフと協力し、円滑に作業を進めるためにコミュニ
ケーションを大切にしたいと考えています。最後に、決
められた時間内かつ効率的に作業を進められるよう励み
たい。
- ◆言葉使いや社会人としてのマナーに気をつけたいです。
- ◆話を聞いて、分からないことは質問する。
- ◆言葉遣い、あいさつ。
- ◆上司への言葉遣い 会社のルールは守る 何を学んだか
を毎日書く。
- ◆怪我なく安全に確実に仕事をこなすこと。
- ◆第一に礼儀・マナーに気をつけたいと思ってい
る。今までは一般的な大学生で社会経験がアルバイト
しかいないため、言葉遣いなど細かい所から意識してい
なければいけないと考えている。
- ◆会社に所属する一社員としての振る舞いを意識して他の
社員に失礼がないように、また話す時に過度に緊張もし
ないようにすることを前提にしつつも、コミュニケーシ
ョン不足によって連携が取れないという状況にならない
ように積極的に社員と話す時間をとること。
- ◆実習先に迷惑をかけない。
- ◆私は敬語を話すことが苦手なので、企業先の方に失礼の
ないように振る舞いたい。
- ◆マナーを守って、実習させてもらっていることに感謝
し、頑張ること。
- ◆自分の出来ないことから目を逸らさず、挑戦する。わか
らないことを自分でよく考えた上で上司に的確に質問す
る。感謝を忘れない。社員の一員として適切な行動をす
る。
- ◆言葉遣い。バイト経験から敬語は大丈夫かと自負してい
るが業界用語などまだ自分が知りえないものがあると感
じているため気を付けていきたい。ビジネスマナーを守
る、自分が知らないビジネスマナーがある可能性があ
り、そのため担当者様の話しを聞きもらさないようにし
たい。
- ◆コミュニケーション気を付けたいです。作業を円滑に進
めるためにコミュニケーションを忘れないようにしたい
です。またインターンシップで疑問に思ったことがあ
れば質問を聞いていきたいと思います。
- ◆迷惑をかけないようにする。失敗を多くしないように心
掛ける。
- ◆人に聞くことは恥ずかしいことではないので積極的に質
問する。
- ◆言葉遣いや報連相など、コミュニケーション面を特に気
を付けたい。
- ◆職場の人とのコミュニケーション。
- ◆とにかく迷惑だけは掛けないように気を付けたい。その
上で、積極的に実働の知識を得られるようにしたい。
- ◆実習中、気を付けたいことは、言葉遣いや姿勢である。
インターンシップ中は、社員として扱われるので正しい
言葉遣いや前向きな姿勢で取り組んでいきたいと思う。
- ◆迷惑をあまりかけない。
- ◆職場内の円滑なコミュニケーションを意識する。
- ◆時間を守ること、ケガをしないこと、体調管理。
- ◆言葉遣い、マナーを特に気をつけたい。
- ◆実習中は、安全の確保や会社にとって損失をもたらすよ
うな行動をしないように心がけたいです。先の説明にあ
ったように、龍谷大学生の一生徒として、会社の一員と
して双方に迷惑がかかることを避けます。
- ◆限られた期間なので常に集中しながら実際に動いていき
たい。
- ◆礼儀正しくする。挨拶などをきちんとする。
- ◆言葉遣い。普段、敬語を話す機会がほとんどないので、
失礼な発言をしないように気を付けたい。
- ◆社員の話を聞き逃さないようにし、分からないことがあ
ったらすぐに質問すること。自分だけの判断で失敗をし
ないようにしたい。
- ◆敬語やマナー。体調を崩さないこと。
- ◆やるべきことをいち早くまとめること。
- ◆インターンシップでお世話になる方たちへの言葉遣いや
態度が失礼のないようにしたい。
- ◆常に将来にどのように活かすことができるかを考え学び
続けること。
- ◆給料をもらっていると思って仕事体験すること。
- ◆訳も分からず作業をして、そのまま実習が終わること。
わからないことを会社の人に聞かないこと。ほかの人と
協力ができないこと。
- ◆実習先に迷惑をかけないためのビジネスマナーに気を付

- ける。
- ◆危険な機械がたくさんあると思うので勝手に触らない。コミュニケーションをしっかりと取る。
 - ◆言葉遣いや振る舞い。
 - ◆慣れないことだと思うので、睡眠、食事をしっかり健康に気をつけたい。
 - ◆人としての立ち振る舞いに気をつけたい。
 - ◆目上の人に対する態度や言葉遣い。
 - ◆言葉遣いやマナーに注意するなど社会人として基本行動ができるように気をつけていきたい。
 - ◆言葉遣い、挨拶を特に気をつけたい。また教えていただいたことやわかったことをメモするようにする。
 - ◆迷惑にならないようにする。言葉遣いに気をつける。
 - ◆指導者の指示には従い、自分で考えて行動するようにしたい。
 - ◆スケジュール管理して、メモしながら動く、笑顔でいること。
 - ◆目上の方に対する言葉遣い 工場は危険と隣り合わせなので、どんな時も気を抜かない。他の実習生とのコミュニケーションをしっかりとる。
 - ◆学ばせていただく立場なので、とにかく迷惑をかけないようにしたい。
 - ◆一人で解決しようとせず、問題を起こさない。
 - ◆マナーや言葉遣い。
 - ◆挨拶をしっかりとすること 無茶をしないこと 怪我をしないこと。
 - ◆従業員方とのコミュニケーション、失礼がないようにする。ぼーっとしている時間がないように常に周囲を見る。
 - ◆責任感のある行動をとる。
 - ◆敬語などの社会にでるうえでのマナー。
 - ◆言葉遣い、実習器具を安全に扱うこと。
 - ◆礼儀、挨拶、言葉遣いに気をつけて良い印象を持ってもらえるようにしたい。
 - ◆仕事を行っていることを自覚し、責任感を持った行動をとりたいです。実習を受けさせていただく企業に失礼のない態度で過ごします。挨拶を忘れないこと。
 - ◆実習先の社員に挨拶すること。迷惑かけないこと。わからないことは質問すること。
 - ◆言葉遣い、時間厳守、コミュニケーション。
 - ◆遅刻などは絶対にしないようにするのとおちゃんとした言葉遣いを心がけること。
 - ◆安全対策、危険箇所の認識、【報告、連絡、相談】学び

- の姿勢です。
- ◆言葉遣いに気をつける。
 - ◆言葉遣い、ビジネスマナーに気をつけたい。
 - ◆ケガや事故などを起こさないように細心の注意を払う。
 - ◆実習先の人に対する言葉遣いや、働いている人への態度。
 - ◆実習先に失礼がないようにする。
 - ◆実習先の方にご迷惑をお掛けしないようにしたい。
 - ◆時間厳守やルールを守り、職場のルールや文化に敬意を払うこと。
 - ◆社会での言葉遣いなどがまだ不十分であるので、言葉遣いは特に注意していきたい。
 - ◆危険な薬品を扱う可能性があるので第一は身の安全。
 - ◆職場に迷惑をかけず、当たり前のことを当たり前にしたいです。
 - ◆言葉遣い、振る舞い、質問を忘れない。
 - ◆会社の人に迷惑にならないようにしたい。
 - ◆言葉遣い、目上の方への礼儀、社会人としての常識のある行動など。
 - ◆まずは、実習内容である塗料の製作やデータ測定を行うにあたって、安全には常時注意する。学生実験と同様、安全を確認したうえで作業を行わなければ、事故につながる可能性が高まる。そのため、実習及び実験を行う際は、学生実験と同様に試薬の取り扱いが分からない場合は、勝手に判断せず、担当の方に尋ね、安全を確認したうえで取り扱うことを心掛ける。また、社員の方々の指示のもと、円滑に実習を行えるように挨拶をはじめとした礼儀を忘れない。これは、実習内容に関わることではないが、これまでと同じく今後、人間関係を築くにあたって非常に重要なことであると考えている。そのため、挨拶・言葉遣いなどの礼儀を忘れないようにする。
 - ◆社員の人と話すときの言葉遣いやコミュニケーションの取り方。学ぶ姿勢を忘れず、毎日取り組んだ実習内容の振り返りをする。
 - ◆社会人としてのビジネスマナーに気をつけたいです。特に言葉遣いには十分に気を引き締めて失礼にあたらないようにしていきたいです。尊敬語、謙譲語を使い分け、丁寧ながら冗長にならないように簡潔な表現を心がけていこうと思います。
 - ◆まずは言葉遣いや時間のルールをはじめとしたビジネスマナーをしっかりと守りたい。また、指示された業務に対し真摯に向き合い、分からないことがあればすぐに相談し、目標をもって実習を進めていきたい。
 - ◆言葉遣い、態度に気をつける。

II. 実習中、積極的に取り組みたいと思っていることは何ですか？

- ◆どのような内容でも積極的に取り組みたい。
- ◆CADなどの授業で得た知識をしっかりと活用しながら、授業で行わないような実際的なプロセスなどを体感できるように、こまごまとした仕事にしっかりと目を向けていきたいと思っています。
- ◆開発といった仕事で行なうプログラミングはどのようなことをするのかを知りたいため、研修で与えられた課題を積極的に取り組んでいきたい。
- ◆コミュニケーションを積極的に取ることと、与えられた課題を積極的に取り組みたいです。
- ◆システムの仕組みや仕事の進め方を学びたいと思っている。また、分からないことがあったときに周りの人に聞いたり、調べたりして必ず帰るまでにその疑問を解決する。
- ◆積極的に質問をして自分のものとして吸収する。
- ◆企業の社員がどのような気持ち、どのようなことを考えて仕事をしているか学びたいと思っています。
- ◆先輩とのコミュニケーション・今持っているプログラミングの知識でできることを探す。
- ◆パソコンでの作業、社員の方から話しをお聞きしたい。
- ◆分からないことや気になることが出来た時、積極的に質問する。その仕事の持つ意味を考えながら取り組む。
- ◆実習先の方と自分からコミュニケーションをとり、質問していきたいです。社会人相手のコミュニケーションに慣れるようにしたいです。自己分析をするために自分が行ったことに対して評価をしてもらい改善点を出せるようにしたいです。分からないことを自分なりに考えたり、調べたりしたいです。トラブルが起こっても柔軟に対応したいです。
- ◆プログラミング関連の業務内容について積極的に取り組みたい。分からないことがあったときは積極的に聞いたり、ちゃんと理解を深めたりしながら実習に取り組む。
- ◆プログラミング工程の実習。
- ◆メモを取り、人の話をよく聞くことです。
- ◆実際の職場で使われている技術やツールに積極的に触れて、専門的な知識や使い方などを学びたいと考えています。また、プロの方々やグループメンバーとも積極的なコミュニケーションを図り、円滑なコミュニケーションの取り方や業務でのチームワーク能力の向上を図りたいです。そして、与えられた課題に熱意をもって取り組み、実際に試行錯誤しながら経験を積みみたいと思います。
- ◆社員の方や他の実習生と積極的にコミュニケーションをとりながら業務に取り組む。
- ◆多くの人とのコミュニケーション。
- ◆商品を開発する過程に興味があるので、自社製品の企画や設計を体験できるのなら、積極的に取り組みたいと思っています。
- ◆新しいスキルの習得と実務経験の積み重ねです。興味のある分野の技術やプロジェクトに参加し、実践的な知識を深めたいです。
- ◆会社でのコミュニケーションの取り方や連携・報連相などがどのように行われているのかを学んでいきたいと思えます。
- ◆大学で学んだ画像処理について実習と照らし合わせながら取り組みたい。
- ◆周囲とのコミュニケーションです。指示を正確に理解して実行することを心掛け、身をもって知識を吸収したいと思っています。
- ◆主に番組制作に関すること。どんなことにも積極的に取り組みたい。
- ◆私は実習中、疑問に思ったことを積極的に質問していきたいと思っています。話の途中でわからないことがあったり、指示された内容が分からなかったりなどでやるべきことが分からず迷惑をかけてしまうなんてことになるのは企業にも失礼でありもったいなくもあると思うのでそんなことが起こらないよう、わからないことは聞く、ということを積極的に行いたいです。また、事前に企業のことを調べ、聞きたいことや知りたいことなどを考えていくことでより有意義な時間が過ごせると思っています。
- ◆実習先の方とコミュニケーションをとって社会人の方の考え方などをしりたい。
- ◆指示を待つのではなく、自分から指示を聞きに行く。
- ◆与えられた課題には精一杯取り組み、分からないことは積極的に質問していきたいと思っています。
- ◆現場で使えるスキルの習得、回路設計、プログラム。
- ◆疑問に思ったことを質問すること。その疑問点を見つけないこと。
- ◆実習中には、できるだけ多くの実務経験を積むことに積極的に取り組みたいです。特に、普段の学習では得られない実践的なスキルや知識を身につけることももちろん

ですが、チームでのプロジェクトに参加することで、チームワークやコミュニケーションスキルの向上も図りたいと考えています。

- ◆研究に取り組みそうなときは今後につながるので積極的にいきたいです。
- ◆実習内容への理解。
- ◆知らないこと、分からないことは質問する。経験させてもらえることは全て挑戦する。
- ◆会社の人と積極的に話しのどのようなことを行っていて何をすべきかを聞く。
- ◆お金を生み出すメソッドを知るために質問したり考えたりすること。
- ◆まず一つは実習で、実習先でしか学べないことを精一杯学んでいこうと思っている。そしてもう一つ取り組みたいことがあり、それは他大学から来た人達や会社の人達とコミュニケーションをとること。この方々と良い関係を築いて、協力して実習を完璧なものにしたいと考えている。
- ◆グループワークの時間があるので、普段一人ではできないことと意識して取り組みたい。
まずは、知り合ったインターン仲間と協力しやすくなるような行動を心がけたい。例えば挨拶はもちろん、自分の作業だけでなく他の人の作業にも興味をもって気を配りたい。
- ◆人との関わり方と仕事。
- ◆なるべく多くの方とお話することで、企業で働くのはどういう流れなのか、どういった人の関わりがあるのかについて理解したい。
- ◆分からないことがあった場合すぐに聞くだけではなく、自分でしっかり考える。
- ◆企業での開発経験がないので経験を積みたい。上司に企業開発についてたくさん質問したい。上司からプログラマーとしての経験を直接聞きたい。
- ◆企業の業務や同行について理解し、積極的に行動していきたい。
- ◆わからないことや、疑問を無くすために積極的に質問を聞いていきたいと思います。
- ◆学んだ事を活かせるように理解すること。
- ◆プログラミングについて学ぶ。
- ◆業務が行われる現場ではどのようなことが重要なのかを知る。
- ◆与えられた課題。
- ◆自身の知識を相手に伝えること。

- ◆業務に必要なスキルや知識を積極的に習得したいと思う。
- ◆知識の吸収。
- ◆研究職で主に設計を理解し就職の軸にするかどうかしっかり熟考したい。
- ◆主な業務は何なのかを探る、何度も指導されないように行動すること。
- ◆自分から行動することを積極的に行いたい。
- ◆実習中には、実習先の社員とのコミュニケーションを積極的に取りたいと思っています。実習先の業界や会社というものについて理解を深め社員の方がどのようにして就活に取り組んだかというお話ができたらと思っています。
- ◆実践的な経験を積み、業界の動向を学び、専門の方との交流を経て視野を広げること。
実習での経験から自身の強み弱みを把握すること。
- ◆コミュニケーションをとる。
- ◆分からないことがあれば質問すること。
- ◆企業について、業界について等を質問したい。仕事選びの参考になるような情報を入手したいと考えている。
- ◆実際の業務についての理解を深めること。
- ◆社員と仕事についていろんな話をしたい。
- ◆インターンシップ先の方と積極的にコミュニケーションをとることと、自分で何をすべきか考え行動することの2つを頑張りたい。
- ◆設計業務を体験させていただけるので積極的に取り組みたい。
- ◆機械工学・ロボティクス分野に関する業務。
- ◆話し合いなどがあった際、積極的に意見を発言し、わからないことがあればすぐに周りの人に聞くこと。ほかのインターン生がいた場合、積極的に話しかけに行くこと。
- ◆講義で CAD を学んだが実際、社会でどの様に使用されているか学びたいと思っている。また、機械がどの様に受注され、製作されているか深く学びたいと思っている。
- ◆たくさん質問をして疑問に思ったことは全部なくす。
- ◆会社のシステムや仕事に対しての理解を深める。
- ◆社会人を経験することに加え他の実習生との交流も深めたいと思っている。
- ◆自発的に動いて、出来ることを全て知りたい。
- ◆職場の人との交流や業務内容の勉強。
- ◆指示されたことは確実にこなし、社員の方とも積極的に

コミュニケーションをとりたい。

- ◆分からないことを質問する。質問する時は一度自分で考え、調べてから質問することを意識する。
- ◆たくさんの人とコミュニケーションをとる。
- ◆3D プリンターで実用的なものを制作したい。
- ◆率先して行動し、新しいものを手に入れて身につけること。
- ◆わからないことがあったときに自ら質問をする。説明をしてくださったことをメモする。次のインターンシップのためにも自分をアピールできるようにする。
- ◆教えていただけることはすべて自分の糧になるようにしたい。
- ◆課題を終わらせ、追加の課題をもらうなどスキルアップに取り組みたい。
- ◆分からないことは質問し、いろんな話を聞いてみたい。
- ◆挨拶や発言、コミュニケーションを積極的に取り組みたい。
- ◆従業員の方とのコミュニケーション、会社での礼節を学ぶ、CAD などを用いるそうなので事前や期間中 CAD の知識を再確認する。
- ◆社会の雰囲気、空気感を感じとりたい。
- ◆実物を使用した実習。
- ◆社会人として何が求められるかを理解し、身に付けられるように実践していくこと。
- ◆メモを取ることや、分からないことを質問するなどして出来るだけ2週間の間に仕事内容を体にしみ込ませようと思っている。
- ◆学校で普段習っていることが、実際仕事の場でどのように役立っているのかを理解し実践することです。働いている人達の経験や体験を聞き、それらを自分の力にしたいです。
- ◆実習内容にあるロボット操作を特に力を入れて頑張りたいと思っている。また、大学で学んだことが実際にどのような場面で役に立っているかを確認してくること。
- ◆コミュニケーション、挨拶、メモをとること。
- ◆少しでも気になったりしたことはどんどん質問して経験や知識を増やし、その職についての理解を深める。
- ◆機械操作、フィードバックの活用、プロジェクトへの参加です。
- ◆専門的なことが出来ると思うので積極的に質問などしていきたい。
- ◆分からないことは積極的に質問をしていきたい。色々な

人と交流する。

- ◆オリジナル品の制作を通して、新規性と実用性を兼ね備えた製品を製造できるようになりたい。
- ◆作図、設計や組み立てがあるため、授業で学んできたことを少しでも生かせればよいと思う。また、機械加工など経験することができないことについて積極的に取り組みたいと思う。
- ◆メモをしっかりと取る。
- ◆働くということを経験する。
- ◆コミュニケーションを大切にし、積極的に質問するなどして学びを増やしたい。
- ◆企業の方々とコミュニケーションを取り、より多くの企業での情報を得て、これからの自分の選択などに役立てられるようにしたい。
- ◆まずは実際に働いている人とのコミュニケーション。
- ◆インターンシップでは、普段取り組めないことにチャレンジできる環境であると考えているので、講義等で得た知識や経験を会社の業務では、自分にできることがあったら取り組みたいと考えています。
- ◆質問をする。
- ◆社会に出るうえで必要な考え方、会社の人の視点や考え方などを知ること。
- ◆指示されたことをしっかりこなしてさらに自分にできることを自分で見つけていきたい。
- ◆実際の作業で疑問に感じたことは、できる範囲で担当の方に尋ねてみたいと思っている。なぜ、この操作が必要なのか、対象試料のデータを測定することが製品化にそのような影響をもたらすのかなど、化学の知識が実際の製品にどのように活用されているかについて深く学びたいと考えている。しかし、やみくもに尋ねるのではなく、これまで大学で学んできた知識のもとまずは、自分で仮説を立てて内容を理解したうえで担当の方と、話し合いたいと考えている。
- ◆大気や水質などの環境全般の測定分析を積極的に取り組みたいと思った。
- ◆社会の方々とコミュニケーションをとることです。普段触れることのできない現場を見てきた方々の意見を参考にしながら広い視野を手に入れたいと考えています。そのため、普段どのようなことを考えながら働いているのかやりがいや仕事をするうえで楽しいと思う時はどのようなことかなどをたくさんの方の方に聞いていきたいです。
- ◆環境調査などの野外で作業服を着て行う実習もあるた

め、そこは特に意欲的に行いたい。普段の学生実験とは違う、プロの現場を体験することで、将来の自分の仕事

に対するイメージを深めたい。

◆実習の活動、社会人の方とのコミュニケーション。

Ⅲ. あなたの実習の目標は何ですか？

- ◆会社の雰囲気を知って労働に対する理解を深めたい。また、それを踏まえて就活をどう行っていくのかを考えたい。
- ◆製造の現場を体験するのは初めてなので、その雰囲気や意識をしっかりと感じて就活に活かしていきたいと考えています。
- ◆私の実習の目標は、「苦手の克服」そして「新たな事に飛び込む」である。
どんな仕事であっても対人関係が必須事項。インターンシップは「本番」ではない。そのことを抑え、私は失敗を恐れずに職場の人たちとコミュニケーションをとっていききたい。そして、仕事を学べるのもインターンシップの大きな特徴である。2週間という短い時間の中で、私は様々な経験を得たいと思う。私は「苦手の克服」、「新たな事に飛び込む」を目標として取り組んでいきたい。
- ◆情報系の会社で実際に行われている仕事を見てみることで、就職した後に、私がやっていけるかどうかを考える機会を得ることが目標です。
- ◆仕事の内容や進め方を学び、現在の知識をより活かして実習後の勉強などでも知識を使えるようになること。また、ビジネスマナーも身に付ける。
- ◆アルバイトとの違いを明確にし、将来の就職活動に活かす。
- ◆自分のやりたい職種が実際どのようなことをしているか、調べるだけではわからなかったことを経験することです。
- ◆今の自分に足りない知識や能力を理解してこれらにつなげたい。
- ◆社会人としてのふるまいを学ぶ。
- ◆実際、この職業のポジティブ面とネガティブ面を見つける。
- ◆オフィスで働くということが実際にどのようなものなのか、身をもって体験し知る。
- ◆業界研究だけでは知りえない現場のリアルを感じ、自分に向いている職が見極める。
- ◆自分に足りていない点を見つけ今後の学校生活などに活かせる場にする。
- ◆普段と違う環境で社会人とのコミュニケーションになれる。
- ◆仕事や社会についての理解や実習先の業界についての理解を深めていき、自分にとって足りないことや身に着けたほうが良いスキルを見極めたいです。まだ明確な進路が決まっていないので自分のしたいことが何かを考えるきっかけにしたい。学校の授業では感じることでできない仕事の雰囲気を把握し、これからの自分の就職活動につなげていきたい。
- ◆社会経験を一番身近で感じる事が実習の目標。今大学で学んでいるプログラミングが社会ではどのように活かされているのかを確認し、今後のどのような授業を履修するかを考え、卒業研究のテーマとなるきっかけを見つけることができたらいいなと思う。
- ◆実習先の方の行動や職場の雰囲気などに注目して社会に出た際の糧にしたい。
- ◆技術の習得を目標にしたいです。今回のインターン先では映像系とお聞きしているので 色んな技術を習得できたらと思います。
- ◆プロの方々の話を直接聞き、実際の職場での業務を通じてネットなどで調べるだけでは得られない実践的な知識や体験を得たいと考えています。そして、インターンシップで得た経験を自己成長につなげ、自分の進路についてより具体的に考えることができれば良いと考えています。
- ◆業界・職種の理解を深め、社会人として必要なスキルを身につける。
- ◆自分のやりたいことは何か再確認する。
- ◆社会に貢献できる人材になるために、自分の得意不得意を自己分析して、ビジネスに必要なスキルを身につける。
- ◆実習の目標は、学んだ理論を実務に活かし、実践的な能力を高めることです。自分の強みと弱みを把握し、キャリアに役立つスキルを身につけたいです。インターンシップを通じて、自分の成長を感じ、将来の職業選択に自信を持つことを目指しています。
- ◆会社でのコミュニケーションの取り方や連携・報連相などがどのように行われているのかを学んでいくことで

す。

- ◆実習を通して印刷業について学び、理解を深めたい。
- ◆実習を通して社会の仕組みについて学ぶことです。社会の実態というのは実際に入り込まないと理解することができないと思っているので、アルバイトだけでは学ぶことが出来ない部分を徹底的に学びたいです。
- ◆企業や業界についての知識を広める。自分自身のスキルアップ。ビジネスマナーを身に付ける。仕事についての理解を深める。
- ◆IT 技術が企業でどのように使われているのか、自分はどういった分野が向いているのかを実習を通して知ることです。私はいま IT 技術がどうやって社会に使われているのか仕組みがよく理解できていません。よく理解できていないため、IT 技術の運用などについて何を学ぶべきなのかがよくわからず、どういう知識が必要なのかわかりません。今回の実習を通して実習先ではどういった知識が必要なのか、どういうスキルが必要なのかをしっかりと学ばせていただき、これからの自分の学ばべき指針を明確にし、大学の研究に励みたいと思っています。また、今の自分がどれだけ社会の役に立てるのかわかりたいです。なぜなら、今のスキルでも活躍することができるのか、それとも全く力になれないのかわかることでこれからどのスキルを磨いていけば社会の役に立てるようになるかを考えることができるからです。この貴重な経験を無駄にせず、自分の将来に生かしたいです。
- ◆迷惑をかけないで実習先の方に面白い子だったと思ってもらいたい。
- ◆自分が社会に出るためにどのようなスキルを身に付けるべきかを学習する。
- ◆会社の雰囲気を知ると同時に、社会人としてのマナーを学ぶこと。
- ◆会社の仕組みを把握する。社会で必要とされるスキルを理解する。
- ◆業務体験を通じて、業界に対する理解を深め、企業というものとはどのようなシステムのもと成り立っているのかわかりたい。質問を多く見つけ、就職活動に対するイメージをより明瞭なものにする。
- ◆実習を通じて自分の興味や適性を再確認し、将来のキャリアプランを明確にすることが目標です。さらに、実習先での経験を通じて人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上も図りたいと考えています。
- ◆責任感を持って最後までやりきる。
- ◆実習内容を通して自分の将来就きたい職種になるか判断

する。

- ◆1日1つは成長する。学びがあるようにする。
- ◆学校では学べないような内容を学びそれを自分の研究に活かす。
- ◆アルバイトでは得ることのできない新たな学びを発見すること。
- ◆私の目標は社会・会社とは何かを知ること。このインターンシップでそういったものを知ること、就職活動に活かしたいと思っている。また、マナーや礼儀などもこの際に完璧に使えるようになりたいと考えている。他にもこの経験を通じて得られるものも大きいと思うので、このような機会を大切にしたい。
- ◆インターンシップ生の仲間と協力しあい、企業様から任せられた依頼について完璧に満足してもらえるクオリティの物をつくる。
- ◆何か1つずつでも習得を得ること。
- ◆私の目標は、ほとんど社会経験がないので、目上の方と上手くコミュニケーションをとれるように積極的にお話しすることである。また、実習先ではさまざまな分野の開発に取り組んでいるので、今後の自己投資として、各分野の知識を少しでも取り入れられるよう課された課題だけでなく、自分でできることを最大限発揮していきたい。
- ◆自分が将来就きたい業界のことを詳しく学び、就職活動の役に立てる。
- ◆インターンシップを通じて、企業が直面する課題に対する解決策を提案・実施するプロセスを経験し、自身の技術力とビジネス視点を高めたいと考えている。また、インターンシップで得た知識や経験を今後の就職活動に活かしたい。
- ◆業界用語など自分の知りえない知識の取得。社会人としての振る舞いの仕方を知る、企業の業務において難しいところ、簡単なところなど知り自分にあう業務を知る。
- ◆この実習で実際の業務を通じて専門知識を実践し、業界の実務に慣れることと共に工学技術や画像処理の知識や技術を身につけたいと思います。
- ◆実習の前より社会とは何かと理解できる事。
- ◆電子系に進むのか情報系に進むのか将来の職業を見つける。
- ◆知識や技術、指導の仕方など、インターンシップに行かなければ手に入れない経験をする。
- ◆バイトとは違って実際に働くことの大変さや、やりがいなどを感じて今後の大学生活に活かしたい。

- ◆働くというのがどのようなことで、それには自分が今まで身に着けてきたものが何に役立つのかを確認すること。
- ◆インターンシップを通じて、実際の業務に必要なってくるスキルや技術を身につけることが目標である。
- ◆成長。
- ◆職場のコミュニケーション方法を身につける。研究職とは何かを理解する。
- ◆発表会で失敗しないように責任を持って任務を全うする。
- ◆自分に足りない部分を見つけ学ぶこと。
- ◆インターンを通して会社について理解を深める。そして、分野や業界について学んで自分が就きたいもの、自分に向いているものが何かを考える。
- ◆実際の現場を感じ、フィードバックをもらうこと。
- ◆働くというのがどのようなことなのかを知り、今後の就職活動に活かしたい。
- ◆普通の授業では得られない、実際の職場での貴重な体験を得ること。
- ◆社員の指示は聞き逃さないようにし、分からないことがあったらすぐに質問する。仕事を体験することで雰囲気を知り、企業について、業界について質問し、仕事選びの参考になるような情報を入手したいと考えている。
- ◆業務の体験、社員の方との話から職種の理解を深めること。
- ◆実際に働くとは何かとなぜ働くのかの答えを自分の中で出すこと。
- ◆とても貴重な体験をさせてもらうので、インターンシップ後の生活につながるように常に頭を使って行動すること。指示待ちにならないようにする。
- ◆技術者としての視野を広げて、社会のニーズに答えられる人材になるための学びを手に入れること。
- ◆機械工学・ロボティクス課程で学んだことを活かす。
- ◆働くことが具体的にどういうことなのか知ること。実際に講義などで習ったことがどのように社会で活かされているかを知ること。自身に合った職業かを見極めること。
- ◆社会でのビジネスマナーを身につけることや業界の理解を深める。
- ◆企業の役に少しでも立てるようにする。
- ◆学生気分を捨てどのようにすれば会社に貢献できるか、必要とされる人材になれるかを模索し実際に就職するときに備える。
- ◆貴重な時間なので龍大生としての責任をもって全力で取り組みたいです。
- ◆一つでも多く知識をつける。
- ◆将来の就職に生かせる知識と情報を学ぶこと。
- ◆社会人としての基礎力を鍛える、業界、職種の理解を深める。
- ◆10日間やり遂げる。分からないことをしっかり聞く。何か一つでも自身の身になるものを得ること。
- ◆怪我なくとにかく楽しんで学びたい。
- ◆技術者の一歩と考えて学べることを理解し、将来へとつなげていきたい。
- ◆少しでも感覚をつかんで、これからは活かせるものにする。
- ◆将来働く職種の実際の現場をしっかりと目に焼き付け、働く準備ができるようにしたい。目上の方たちとの関わり方を覚えたい。
- ◆社会の厳しさ、楽しさを目の前で実感すること。
- ◆スキルアップ、働くことの意味などを知る。
- ◆自分がどんな職種に就きたいのかをインターンシップを経てもう一度よく考える機会にしたい。
- ◆実践経験を積むこと。
- ◆実際に仕事をしてみて自分は何がしたいかを見つける。仕事にどのような知識が必要かを学び今後の大学での勉強や資格勉強に活かす。今の自分がどれくらい社会で生きていけるかを知る。
- ◆社会にでたときに、活かせる経験を得る。
- ◆終わった後、後悔しないようにやりきる。今の自分にも一つでも持ち帰る。
- ◆機械の構造や社会人としての心構えを理解し身に付ける。
- ◆この業界についてのことを知りつくし、自分の特徴を考慮したうえで合うか、合わないかを正しく判断したい。
- ◆新しいことに挑戦することです。学校で習ってきたことには限界があり、外でしか得られない経験があると思います。実習先では課せられた課題をこなし、色々なことに挑戦したいです。そしてそれらの体験から仕事に対しての価値観を見つめ直し、残りの学校生活を有意義にするような経験を積みみたいです。
- ◆自分の中で将来像を築くこと。
- ◆少しでも多くの知識を身に付ける。
- ◆その職業が自分に向いているのか、社会にでるといえるのかはということか理解する。
- ◆自己成長です。自分の強みと弱みを見つけ、自己成長に

繋げるためです。

- ◆この実習にきて自分が成長できたといえることを最低でも3つ持ち帰る。設計について詳しくなりたい。
- ◆企業の雰囲気やその業界について知る。スキルやマナーを身につける。
- ◆実習を通して、社会のことをより理解すること。
- ◆実習を通じて、社会で働くことの意味を感じるとともに、機械加工など専門的な作業についての経験を積み、将来働くときの糧を作ること。
- ◆経験をこれからの就職活動に生かす。
- ◆実習先の業界に対して理解を深め職業選択の幅を広げたい。
- ◆コミュニケーション能力や問題解決能力の向上。
- ◆企業について関心を深めて、どのような研究を行なっているのかなど、これからの自分の進路など役立つために様々な視点などを、聞いていきたい。
- ◆働くというのがどういうものなのかを知る。科学分野の研究の現場からより多くの事を学ぶ。
- ◆身だしなみや言葉遣いなどの礼儀作法や社会人として働くということを学ぶ。
- ◆実際に社会の一員としての生活を経験し自分のなりたいたいのイメージを明確にする。
- ◆社会に出るうえで必要な考え方、会社の人の視点や考え方を身につける事。
- ◆社会人の環境を学んで慣れて経験にしたい、関わり方を

しっかり学んでいきたい。

- ◆今回の実習の目標は2つある。1つ目は化学の知識を活かした塗料業界の製品や業務内容について理解を深め、大学の実験で行っている内容がどのように応用されているのか又は異なるのかを体感することである。2つ目は企業で働かれている方々と交流を行い、自身のコミュニケーション能力を向上させるとともに、社会に出て企業で働く上で最も大切なことは何かを発見する。
- ◆実習を通して企業や業界の専門知識を深めることや仕事の大変さや責任感について学ぶ。環境調査や測定分析の重要性について学びこの職業についての魅力を感じる。
- ◆目標は実習を通して業界の理解を深めることです。環境調査に関わる現地での試料採取や分析室での測定分析を通じて、環境分野の実務を学びたいと考えています。実際の業務を経験することで業界の具体的な課程や最新技術の理解を深め将来のキャリアに役立てたいです。さらに現場の専門家からの指導を受け実践的なスキルを習得することを目指します。
- ◆元気に最後まで実習を行うこと。また、人に決して迷惑をかけずに現場の雰囲気をしっかり感じ取りながら実習を行うようにしたい。一つの貴重な経験として、さまざまなことを吸収していきたい。
- ◆自分に上水道などの仕事に向いているのかどうかを気付く。

2. ポートフォリオ〈実習「後」〉集計結果

実習終了後まで大切に保管し、時々自分自身を客観的に振り返ってください。

実習を終え、受講前に自分なりに設定した目標について、どの程度達成できたかを振り返ると同時に、今後の大学生活において、どのようなことに取り組んでいきたいかを考えてください。

2024年度 ポートフォリオ〈実習「後」〉

実習を振り返って、自分の思いを自由に書いて下さい。

問1. 実習前、積極的に取り組みたいと思ったことは自分なりに取り組みましたか。

() 取り組めた () 取り組めなかった (どちらかに○印をしてください)

またどのような点で、そのように感じましたか。

()

問2. 実習前に定めたあなたの実習の目標はどのくらい達成できましたか。

() 十分達成できた () ほぼ達成できた () ほとんど達成できなかった

(いずれかに○印をしてください)

またどのような点で、そのように評価をしましたか。

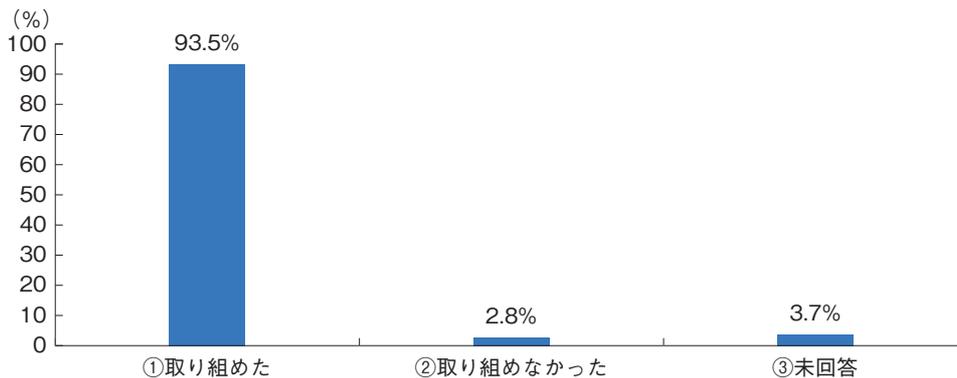
()

問3. 実習の体験をふまえて、今後どのような学生生活を過ごそうと思いますか。

()

問 1. 実習前、積極的に取り組みたいと思ったことは自分なりに取り組みましたか。またどのような点で、そのように感じましたか。

	数 理		知 能		電 子		機 械		応 化		環 境		全 体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①取り組みた	10	90.9%	15	100.0%	21	91.3%	41	91.1%	9	100.0%	4	100.0%	100	93.5%
②取り組みなかった	1	9.1%	0	0.0%	1	4.3%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.8%
⑤未回答	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	3	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.7%



①取り組みた

- ◆質問など積極的にすることができた。
- ◆実際の職場環境での業務体験を行う中で、実習先の各事業部の特色を感じ、それぞれの業務の違いや重要性を学ぶことができたため。また、社会インフラという生活に大きく関わるものに導入されているシステムを学ぶことができたため。
- ◆一緒にインターンシップに参加した学生や担当して下さった会社の方と積極的にコミュニケーションを取り、分からないことを質問して、自らの意見や提案を共有した。特にシーケンス制御のプロセスにおいて他の学生との意見交換がラダー作成に役だった。
- ◆授業で培った空間的な物体に対する想像力をしっかりと活かしながら、課された制作を試行錯誤しながら進めることができたことから、取り組みたように思います。
- ◆約5日、同じ部署で、担当の社員の方と作業を見学させていただいたときに、報告書に書くための質問や、普段どのようなスケジュールで動いているかなども質問することが出来ました。ほかにも会社の雰囲気なども聞くことが出来ました。
- ◆実際にシステムの開発を体験することで、仕事の流れや仕組みを知ることができた。また、分からないことがあったときにすぐに聞くようにし、疑問を残さないように心掛けた。
- ◆与えられた課題を試行錯誤しながら作業をし、当初の予定より多くの内容を理解し、結果を残すことができた点。
- ◆しっかりと説明を聞き、自分で考え行動することができた。
- ◆積極的に身につけようと行動できていた。
- ◆社長との座談会があり、そこで自分の学びたいことについて積極的に質問し、自分の現状とこれからについてしっかり理解できた。
- ◆パソコンでの作業と書いていた通り、実際にパソコンを使って企業のプロジェクトに触らせていただけた点。また、Eclipse という開発アプリでプログラミングをさせていただけた点。
社員さんには外国籍の方もたくさんいらっしゃったが、母国の学生生活、就活、文化の話などいろいろな話を聞くことができた点。
- ◆実習中、自分で調べても分からないことや自分の解釈が合っているか曖昧なことに対して担当者の様子をみながら、都合が良い時にその都度質問する事ができた点。

またその仕事は社会インフラを支えているのだとわかった点。

- ◆実習中、わからないことや不明確な点があった際には、積極的に実習先の方に質問をし、自分でもインターネットなどで調査して問題の解決に向けて取り組めた点です。また、自分の得意なことや苦手なことを理解することができた点です。
- ◆与えられた業務をしっかりとこなし、実際の社会での働き方を体感することができたのでエンジニアに対する理解を深めることができた。
- ◆実習前に「わからないことがあれば積極的に聞こう」という目標を立てていましたが、それを実践できたと感じています。撮影や編集について、特にカメラや三脚の使い方に関しては、実習先の方に質問することで、技術的な理解を深めることができました。例えば、三脚の扱い方や撮影時の注意点など、現場でしか学べない貴重な経験を得ることができました。また、挨拶や感謝の気持ちをしっかりと伝えることも意識し、日々の業務の中で実行することができたため、自分なりに成長を感じています。
- ◆実習を通してプログラミングだけでなく設計段階の工程も体験でき、当初目標にしていたこと以上に多くのことに挑戦できてとてもよかったです。
- ◆実習前に私が取り組みたいと思ったことは、実際の職場で使われている技術やツールに触れることと、プロの方々やグループメンバーと積極的なコミュニケーションをとることを挙げていました。そして実習では、アプリ開発の体験や仕様書作成などの体験をして、実際の業務の具体的な説明も聞くことが出来ました。また、実習を担当して下さった社員の方々だけでなく、休憩時間に様子を見に来て下さった社員の方々にも積極的に話しかけることが出来ました。さらに、実習では他のインターンシップ参加者と意見交換を積極的に行いながら進めることが出来ました。以上のことから、実習前に取り組みたいと思っていたことを実践できたと感じます。
- ◆私が参加した回は龍谷大学の学生が私以外におらず、その中でもほとんどが同じ大学から来ていたため最初は壁を感じるがあった。しかし、他の学生とも交流することを心掛け、仲を深めることができた。また、社員の方にも積極的に質問をし、コミュニケーションを取ることができた。
- ◆グループワークを通してだったため、初対面で自分から話しかけることはあまりありませんでしたが、話し合う

ことで多くの人とコミュニケーションをとれました。

- ◆様々な商品に使われているマイコンがどのようにプログラミングしたらどのような動きをするのか理解することができました。マイコンを動かすために1つ1つの課題が合ったけど積極的に取り組めたと思います。
- ◆積極的に取り組みたかったのは、ユーザー体験の改善に関する業務で、具体的にはアプリの使い勝手やユーザーからのフィードバックを元に改善点を探ることに重点を置きました。実習中に多くのユーザーからの意見を聞き、それをもとに提案書を作成し、実際に改善を行うことができたので、この点で取り組めたと感じました。
- ◆私が取り組みたいと考えていたことは「会社でのコミュニケーションの取り方や連携・報連相などがどのように行われているのかを学んでいく」ということでした。今回のプログラム実習をしていく中で、どのようなコードが目的の操作がしやすくなるか、トラブルを引き起こしやすいかを実習先の社員の方々だけでなくインターン生と共有していました。それをしていく中でどのような伝え方や質問の仕方をすれば良いのかを知っていくことができ、どのような言い換えをした方が円滑に話を伝えられるかも把握していくことができたので取り組みたいと考えていたことが自分なりにできたと思いました。
- ◆分からないことがあれば積極的に質問することができ、能動的に取り組むことができたから。
- ◆私が実習前に取り組みたいと思ったことは、周囲とのコミュニケーションを取ることと知識をより多く吸収する2点です。
周囲とのコミュニケーションは、実習先のお世話になった方たちに気になるところを積極的に質問したことや休憩時間でも雑談を交えた会話を多くしました。これにより、初日と比べると距離が縮まったと感じました。
知識の吸収は、実習の前半で解説していただいたことを後半でより多く発揮することができたところです。
- ◆たくさんの場所に取材に行かせていただき、カメラの使い方や撮り方、取材に行ってから挨拶の仕方などいろいろなことを学ばせていただいた。また、編集作業やテロップ作成、スタジオでの収録作業にも携わらせていただいた。気づいたことや教えてもらったことなどは、後から振り返ることができるようにメモをとるなどし、積極的に学ぶことができた。
- ◆実習前には大学では学べないこと、実際の企業でしかわからない雰囲気や、専門的な知識を積極的に学ぼうと思い取り組みました。実習中は、大学で学ぶことよりも、

より専門的な知識を要する実習をさせていただき、実際に機器に触れさせていただいたことで、座学ではわからなかった部分の難しさなどを学ぶことができたと思います。また、企業の方とコミュニケーションをとることで、企業の雰囲気や部分的ではありますが知ることができたと思います。積極的に取り組みたいと思っていた部分は、意識的に実施できたと思います。

- ◆今回のインターンを通してたくさんの社会人の方と話す機会があり、社会人が具体的にどういった物なのかを知ることができたのと、会社の雰囲気を知り、これからのことを考えられる体験だったので取り組めたと感じました。
- ◆インターンシップサークルの活動で来ていた学生に課題について相談したり、社員さんから社会で役立つアドバイスをもらったりなど積極的に交流することができた。
- ◆実習前は与えられた課題に精一杯取り組み、分からない部分は積極的に質問しに行きたいと考えており、実際に課題をこなすうえで社員の方に質問を多くでき、様々なアドバイスをいただいたことで大変勉強になったことにより、積極的に取り組みたいと思ったことは自分なりに取り組めたと考えます。
- ◆実際に機器が実装されるまでの流れを体験することができた点です。段階的に体験することでそれぞれのやりがいや必要とされる能力を知りました。
- ◆真面目に実習に取り組むことができた。また、与えられた課題に対して、自分の考えを持って取り組むことができた。
- ◆疑問に感じた所は、できる限り質問をして理解を深めるということをやめ目標に立てており、この目標を達成できていたと感じているからです。
- ◆HFSS は研究内容に近い内容であったので、分からない所は質問し、ソフトの理解を深めようと積極的に取り組みました。
- ◆気になること、分からないことに関して積極的に質問することができた。
- ◆実習前は積極的に質問などを行い、取り組むと考えていました。そのため、指導者の方に分からないことがあればすぐに聞き、他にもこれをやってみたいなど提案をしました。インターン生が1人だったというのもあり、積極的に実習に参加出来たと考えます。
- ◆社員とのコミュニケーションを積極的に取り組みたいと思い、取り組むことができた。分からないところが出てきたら自分だけで解決するのではなく、聞きに行くとい

うことができた。

- ◆社会人としてできて当然である挨拶や身だしなみなどの行動に気をつけて取り組むことができた。分からないことがあれば社員の方に積極的に質問をして課題解決に近づくことができた。
- ◆今回のインターン実習では「実習先でしか得る事の出来ない知識を得る事」と、「他のインターン生の方々や、様々な会社員の方々にコミュニケーションを取る事」の2つを積極的に取り組んでいこうと考えていました。実際に実習すると、大学では学べなかった分野を学ぶことができた上に、実習先でしか学べない事をたくさん学びました。また、他のインターン生の方々や、会社員の方々にコミュニケーションを取ることにしても実習前よりもスムーズにできるようになったと感じています。これらの事から、実習前の目標に取り組むことができたと考えています。
- ◆積極的に取り組みたいと思っていたことは主にコミュニケーションに関することだった。自分なりの取り組みに関して言えば、普段よりも明らかに意識的に取り組めたとする。知り合ったインターン仲間と協力しやすくなる関係を築くという行動は実践できていたと思う。挨拶は必ず自分が先にしようというこだわりをもってできたし、休憩時間にもお互いに交流を深めるために話かけに行ったりすることができた。これのおかげか、普段の生活の中よりも話しかけられる機会も増え、自然と協力をお互いとうとうとする姿勢が生まれていたと思う。反省点が無いわけではないが、自分なりに「コミュニケーションをとる」ということに関することの1歩目をようやく理解できたと思う。これからもここで実践したことを忘れないようにして、更に自分のもつスキルとして発展させていきたい。
- ◆各実習日において課された課題をしっかりこなすことができたうえに、その課題を応用することでより実用的な成果を出すことができた。例として、照明分野ではコントローラーを調節するプログラムを作成するという課題があったが、調節できるうえに、ウィンドウからコードを入力して調節することや、通信を停止するボタンを導入できるようなプログラムを作成できた。
- ◆分からないことがあった時は、自分自身で考えた後にどこが分からないかを明確にしてから質問をすることが出来た。
- ◆実習前に考えていたように、積極的に質問し、技術的な理解を深めることができました。特に、普段の授業では

- 学ばない仕様書やフローチャートの作成、エラー処理やテストなど、実務的な内容について積極的に取り組み、成長を実感しました。
- ◆工場見学や機器について質問時間があった際、質問をなるべく多くした点。プログラミングの際、進んで取り組んだ点。
 - ◆積極的に疑問に思ったことを質問し、重要だと思ったことをメモに残した。
 - ◆働くうえで何を目的として行動を行うのかを学ぶことが出来た点。
 - ◆業務を行うときは速度より正確性が重視されていることを体感できたから。
 - ◆自分の力で課題を解決し、プログラムを実装することができたから。分からない点は実習指導担当者に聞き、自分の力につなげることができたから。
 - ◆実習中に行った電子工作やプログラミング、3DCADでの設計でわからないことがあれば積極的に聞き、発展課題にも挑戦し、学んだことを応用するなど積極的に業務に必要な知識やスキルを身につけました。
 - ◆開発・設計がどういった業務内容なのか知るために積極的に知りに行きたいと思っていたが、実習を通して「試行とデバックの繰り返し」であるのではないかと思った。これは大学の実験や研究室での活動内容と非常に近いと感じることができたことが大きな収穫になった。
 - ◆1度も遅刻や欠勤をすることなく実習をしたから。
 - ◆指示待ちといった受け身の状態ではなく、自分で何をすべきかを考え、分からない場合は聞いて行動できたから。
 - ◆与えられた仕事は手を抜かずに取り組むよう心がけたから。
 - ◆実習前に積極的に取り組もうと思っていたことは実践的な経験を積み、メーカー業界の動向を学び、専門の方と交流をすることでした。10日間の実習を経て、貴重な経験を積むことができメーカー業界について知ることができました。社員の方とこの業界のことや会社でしていること、就職活動のアドバイスなどたくさん交流することができました。
 - ◆わからないことがあれば質問していたし、たくさんお仕事の話も聞けたから。
 - ◆実習前に、気になっていた点を解決できたから。
 - ◆インターンをしていくなか、大学で学んだことを活かせること気がついたから。
 - ◆社員の方に説明していただいた際に、気になったことを質問させていただいたり、体験などの際にも自分から行動したりすることができた。
 - ◆設計業務は今まで学習してきた事を活かせる内容であったので、とても関心を持って取り組むことができた。
 - ◆実習先では、iCAD を使って機械を設計・モデリングして配置する業務を主に体験した点。
 - ◆スマホスタンドの設計図を作成する際に2次元CADを使用したのですが、その際に大学で学んだCADの使い方や寸法をつけるときのルールなどが使われていて、私が実習前に考えていた「大学で学んだ知識が仕事でどのように使われているかを知りたい」という考えに対して積極的に取り組んでいると感じた。
 - ◆機械をつくる流れやものづくりをする際に大切な事を学ぶことができました。例えば、1/100の緻密な作業のズレを無くすことやお客様の要望にどれだけお応えできるかなどの多くを学ぶことができました。
 - ◆疑問点をゼロにするというところに対して、しっかり分からないところは質問し、クリアにすることができたため。
 - ◆まず、どこか学生気分が抜けていなかった自分にとって、十日間という短い間でありますが、自分より若い人が道具を使いこなして会社の戦力になっている光景を見たことや、自分より一回りも二回りも年上の社会とはどのようなものかを知っている大人を相手に、何かをする緊張感がある環境に身を置けたことは自分にとって大きな財産になりました。このように初めての体験がほとんどであり、すべてを自分の糧に出来るよう頑張りました。設計に関しても設計図を描く仕事くらいのアバウトな認識でしたが、プロジェクトプレゼンなどで話を聞いて、実際に仕事をしている環境にいて、設計を仕事とするとどのようなことなのかを正しく認識しなおす機会にもなりました。また使ったことが無いCADに触れることが出来たこともとても貴重な経験になりました。
 - ◆実際に社会人と同じような生活を送ることで、自分が社会人になったときのことをイメージできた点。
 - ◆自分の考えを持った上で質問出来た。
 - ◆社員さんとの交流で意欲的に質問できて、業務内容もしっかり読み込めた点で感じました。
 - ◆与えられた課題に対して、全力で取り組むことができたから。また与えられた課題以上の成果を自分で考え結果を出せるように心掛けた。
 - ◆組立実習や問題解決型実習では、実際に質問する機会が

多く自ら質問することが出来た。どうしても一度話を聞いても理解できない部分があり、自身の解釈であるのか不安な部分については、しっかりと質問できたと思います。

- ◆わからないことは自分で考えるのではなく、社員さんにすぐ聞きコミュニケーションを取ったこと。
- ◆実習中分からなかった場合はすぐに社員さんに質問をし、解決理解することができた。
- ◆自分の「弱み」と思う行動は、長続きせず関心の方向がすぐに移ってしまうことやノリと勢いで行動してしまうことにより客観的に自分のことを見ることが出来ていないことです。これらを踏まえて、今後に向けて色々なことに興味を持つことは良いことだが、何か1つのことに集中して結果を出すことが大事であるということがわかりました。今回のインターンに向けて1つの目標を立てました。「社会人としての責任を持つとともに、今回のインターンは全力でやりきる」です。しっかり取り組み切れたと思いました。
- ◆積極的に質問や仕事の体験に取り組もうと思っていました。わからないことをすぐに聞いたり、誰からやってみるかや聞かれたときに手を挙げたりと、6人実習生がいた中で最も積極的に行動できたと思います。社員の方が説明してくださったことをメモし、実習の時に戸惑ってしまわないようにできました。
- ◆インターンを通して社会に出た時の雰囲気を知るといったことが達成できた。
- ◆実習予定より実習が早く終わることが多く、追加で課題をもらうなどスキルアップを目標に積極的に取り組めた。
- ◆気になったことやわからないことなどを積極的に質問して意欲的に取り組むことができたため。
- ◆分からないことや疑問に思ったことは、すぐに質問をし、暇な時は積極的に仕事がないか聞きに行くことが出来た点。
- ◆社員の方と積極的に関わることが出来た。CADなど大学で学んだ知識を活用させることが出来た。社員の方の言葉使いから礼儀について学ぶことが出来た。
- ◆大学で学んだことが仕事でどのように活かされているかを知れた。また、知識を活用することで深い学びとなった。
- ◆普段の学校生活では体験できないことをすることが出来、興味をもって取り組めたためそう感じられた。
- ◆社会人として、技術者としてこういった考え方、問題解

決への取り組み方を数多く学ぶことができた点。実習先についてから、自分から必ず挨拶をすることを心がけたこと。

- ◆毎日、数多くの貴重な知識や情報を教えて頂いたことをしっかりとメモを取り、いつでも見返すことが出来るように取り組んでいた点。意見や質問を行うことも多く、コミュニケーションをよく取れていた点。
- ◆学校内では、習ったことが実際どのように仕事の場で利用されているかイメージが持てなかった。しかし、実習に参加したことで自分が習ってきたことは役に立つ知識で、これからの大学生活でどの能力を高めることが必要なのかがわかった。また社会に出ている人のお話を聞くのは貴重で、今企業で求められる力や傾向を聞くことができた。
- ◆毎日15分前行動ができたという点。
- ◆分からない所はすぐに質問するなどのコミュニケーションがとれた点。
- ◆敬語をしっかり使えた点。
- ◆CADや大学で使わない機械を触りたいと思っていたので、インターンシップで体験が出来て良かった。
- ◆色々な人と話してそれぞれの人が思っていることなどを聞けたから。
- ◆オリジナル品の製作を通して、実務的な設計を学び、製品の製造に関する知識を深めることができた。
- ◆実習の際に2CADを用いて設計・製図を行いました。授業で3CADを行っていたため、学んだことを生かすことが出来ました。また、加工の際の機械加工についても知識を持っていたため、何を行っているのかスムーズに学びました。
- ◆説明された内容だけでなく、自分で質問したことまでメモをとっていたので、実習報告書を作成する際にとても役立てられた。
- ◆実習先の企業がどのようなことをしているのかを知れた。他の学生は企業説明など座学がほとんどであったが私は、2週間、実験、レポート、発表と内容が濃く学びが多かったから。
- ◆分からないことや不明点を放置せず、担当者の方に質問でき、作業内容についてフィードバックを受けた際、改善策をすぐに取り入れることができた点。
- ◆塗料に触れるうえで、実習初日は抵抗や、慣れない作業でやりにくさがあったが日に日に触れていくうちに少しずつ慣れていき、与えられた作業を一人でこなせるようになっていったこと。

- ◆実験の合間にお話させていただき、実験中も測定データから何が言えるか、次の操作をどういう条件にするのかの議論を一緒に行うことができたから。
- ◆給料を貰うのではなく稼ぐといった社会に出るうえで必要な考え方を理解することができたので取り組めたと感じた。
- ◆話を聞いたり事業を見学させていただいたときに、自分でわからないことを見つけて質問したり、さらに詳しく聞きたいと興味を持ったことがあれば積極的に話を聞きに行ったりして、実習先の企業の理解を深められた。
- ◆実習前、「作業に関して分からないことや疑問に感じたことは積極的に社員の方に質問をする」ことを取り組もうと決めていました。実際に実習を行う際中、疑問に感じる事が多くあり、その時「このデータからどのようなことが分かりますか？」や「この操作を行うことでどのような効果がありますか？」など、尋ねることができました。尋ねた内容について社員の方は丁寧に教えてくださり、私に問いかける形で考える機会を与えてくださいました。自分なりに疑問点を発見し、社員の方と共に考える貴重な経験ができました。
- ◆わからないところは積極的に質問し、家で勉強に取り組

んだ。

- ◆私は、実習で大気や水質、土壌などに関する現地調査を行ったり、採取した試料を実習先で検査したりといった多くのことを経験した点から環境全般の測定分析を積極的に取り組むことができたと思った。
- ◆実習先の方とたくさん会話できた点です。分析をする試料をとりに行く時は車で、移動時間が長かったため、その時間にわからないことや会社のことなどを積極的に質問するようにしていました。この時間があつたからこそ、業界研究を深めることができ、コミュニケーション能力や正しい会話の仕方がさらに身についたと思います。
- ◆実習では主に上下水道の設計業務が中心であり、取り組みたいと感じていた外での業務は少なかったが、自分なりに業務を行うことができました。設計業務をすることは初めての経験であり、専門的な知識も必要でした。分からない知識は積極的に聞き、作業を円滑に進められるよう務めることができました。外での測量業務の際は周りの環境に配慮しつつ、素早い測量が求められました。測量も初めての経験でしたが、積極的な姿勢で取り組めたと感じます。

②取り組めなかった

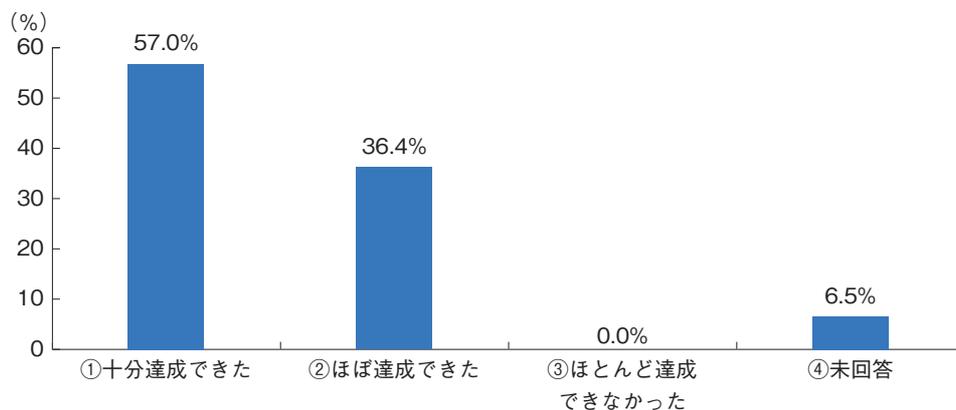
- ◆知らない人とコミュニケーションを取ることが苦手だと自分でも感じていたが、実際にインターンシップを体験すると、それが極めて重大な課題であったと非常に痛感した。
指導して下さった人に対し、緊張をしまい上手く説明する事が出来ずに迷惑をかけてしまった所があり、

積極的に取り組む事が上手く出来なかった。

- ◆思っていたより客待遇で、自身の知識を活用するような機会は少なかつたため。
- ◆自分から積極的にコミュニケーションをとろうとはできていなかった。

**問 2. 実習前に定めたあなたの実習の目標はどのくらい達成できましたか。
またどのような点で、そのように評価しましたか。**

	数 理		知 能		電 子		機 械		応 化		環 境		全 体	
①十分達成できた	7	63.6%	8	53.3%	12	52.2%	26	57.8%	6	66.7%	2	50.0%	61	57.0%
②ほぼ達成できた	4	36.4%	7	46.7%	10	43.5%	16	35.6%	1	11.1%	1	25.0%	39	36.4%
③ほとんど達成できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤未回答	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%	3	6.7%	2	22.2%	1	25.0%	7	6.5%



①十分達成できた

- ◆実習に参加するにあたって掲げた3つの目標に対して、「見学だけでなく業務体験もでき、特に細かく単純な作業の重要性を学ぶことができた」、「丁寧であることやコンパクトであることは前提として、後から修正・変更を行う人のことを考慮することが大きな違いだと学ぶことができた」、「職場環境を良くするための様々な取り組みの中で、特に円滑にコミュニケーションを取るための環境づくりが目新しく参考になった」という評価ができた。
- ◆仕事の進め方を学ぶことができ、今後の自分の課題を見つけることができた。また、社員の方同士で話しているのを見て接し方や言葉遣いなど、基本的な社会人のマナーを学ぶことができた。
- ◆インターンシップでの課題だけではなく、社員の方々のこれまでの経験や、就活に向けての準備など社会人でなければわからない話をたくさん聞くことができた点。
- ◆システムエンジニアの内容について知らなかったこと、行かないとわからなかったことを知ることができました。自分の足りないところを知ることができました。
- ◆実習内容に積極的に取り組み過去のインターン生の中で一番課題が進んでいたという評価をいただけたから。自分の今の知識、技術でどこまで通用するのかを身をもって実感できたから。
- ◆オフィスワークのイメージがはっきりとわかっていなかったのが、今回の実習を通して一つの例を知ることができた点。今回はパソコンと向き合ってプログラミングをしたり、書類を作成したりということをしていたが、他に取引先企業とこまめに連絡を取り合うなどの作業もあり、実際にどのようにしてこれらのことをしているのか、目で見て知ることができた。
- ◆学校で得たプログラミングのスキルを活かすことができたし、これから習得する必要があるスキルや技術を確認し、エンジニアになるための準備を大いに進めることができたから。
- ◆社会というものがどういうものなのか会社の雰囲気や少しでもつかむことができとても勉強できました。また、どのように考えることが大事なのかなども知れてよかったです。

- ◆実際に現場で SE として働いている方から業務や必要なスキル等について教えていただくことができた。そして技術的な面だけでなく、社会人としての立ち振る舞い方やコミュニケーションの大切さなどたくさんのことを教えていただき、自身の学びにつながった。
- ◆最初はプログラミングや会社の人とコミュニケーションをとるのが難しかったけど、10日間体験して、少しずつコミュニケーションとプログラミング大学では学んでいない新たな知識を身につけることができました。
- ◆今回の実習を通して、印刷物がどのようにして出来上がるのかを学ぶことができたから。
- ◆私は、実習前は社会について無知でありましたが、実習を通して社会で働くことのイメージが明確になりました。アルバイトだけでは感じる事が出来ない、チームワークや一人一人の責任感というものを多く感じました。その中で、明るく楽しい雰囲気の実習先であったと感じています。
- ◆教えていただいたことなどはしっかりメモを取り、後から振り返れるように、忘れないようにできた。指示されたことはしっかり聞き、素早く行動に移すことができた。
- ◆取材から編集、テロップ作成や収録など、番組が出来上がるまでの作業を実際に体験し知ることができた。無事に10日間実習を行うことができた。
- ◆実習前には、質問を積極的にする、学んだことを自分の知識にする、企業を知る、という三つのことを目標にしました。まず質問を積極的にするという点ですが、これは十分に達成できたと思います。わからず行き詰まったら必ず質問をし、明確に理解できるまで解説をしていただきました。学んだことを自分の知識にするという点でも達成はすることができました。実習後に毎回実習内容をまとめる時間を設けていただいたことで、そこで学んだことをまとめあげ、次の実習の時も知識を活かすことができたので、知識を自分のものにできたといえると思います。最後に企業を知るという点ですが、10日間インターンシップに行かせていただいたことで、すべてではありませんが、会社の実際の雰囲気、事業内容を知ることができたと思います。以上より、目標は十分に達成できたと思います。
- ◆二週間会社に通うことで社会人としての習慣を経験でき、また多くの社員の方と接する機会を設けてくださったことより、会社の雰囲気を知り、社会人としてのマナーを学ぶという目標は十分に達成できたと考えます。
- ◆わからないことは自分で考えたうえで尋ねることができた点。
- ◆積極的にコミュニケーションをとることでインターンシップを円滑に進めていけた点。
- ◆疑問に感じた所は、できる限り質問をして理解を深めるという予めの目標の他にも、自分がどのような職種に就きたいのかを考えるという目標を製造の現場の仕事を体験することで様々な学びを得ることが出来ました。
- ◆与えられた仕事は最後まで責任を持ってやり切り、空いた時間はレポートを書くなど勤務時間に責任を持って過ごすことができたと思います。
- ◆学校では学べないような内容を学び、自分の研究に活かすという目標は達成できた。あまり学校の授業の中でも聞いたことのないような内容ばかりで、初めて知ることがあった。これらを今後の自分の実験に活かしたいと思った。
- ◆BtoB の会社では、解が1つとは限らない場合が多く、常に冷静に判断することや、他の社員の方と協力するコミュニケーション力が大切だと考えた。コミュニケーション力を上げることや、1つ1つ正確にコツコツと仕事をこなすという目標を達成することができたと感じた。
- ◆私が定めた実習の目標は2つあり、目上の方と上手くコミュニケーションをとれるように積極的にお話することと、各分野の知識を少しでも取り入れられるよう、課された課題だけでなく、自分でできることを最大限発揮することであった。
1つ目の目標について、私は各分野の担当してくださった方に、その分野で気になったことや課題についての質問を積極的に尋ねたり、帰りはいつも総務の方が送迎してくださったので、車中では普段の生活やインターンについてのお話ができたりと、上手くコミュニケーションができた実感できる場面が多かった。
2つ目の目標について、1.の通り、私は課された課題を応用したり、前述の通り気になったところは率先して質問をしたことで、今回のインターンシップで得られた知識はかなり多かったのではないかと感じた。
- ◆仕事をするうえでどのようなニーズを求められ、その要望を考える必要があるのかということに加え、大学で学ぶことがどのように利用されているのかの理解を深められた点。
- ◆世界シェアナンバーワンの高い技術力を知ったから。また必要な知識を与え、自主性を重んじて各々が考えて行

動できるように指導がなされているということが分かったから。

- ◆実際の業務で扱う言語を使用して大学の授業とは違って本格的に設計ができ、自分の課題点も見つかったから。
- ◆特にトラブルもなく実習を終えられ、またコミュニケーションも円滑に進んだため。
- ◆積極的に意思疎通を図るように努め、円滑に実習を行うことができた。また実習を通して社員さんが確認を何度も行っている姿を見てコミュニケーションを重視することが正しかったと実感できた。よって目標は十分達成できたと自負できる。
- ◆実習前に定めていた目標として今まで学んできた知識が生かせるところがあるかどうかを確認し、実際に働く現場ではどのように活用されているかを学びました。現場の機械を調整する部署や CAD を使って製図をする部署など色々な部署があり、私は 4 つの部署に行かせていただき、特に自分が習った solid works とは違い、Micro CAD が使われており苦戦しました。学んだことを活かして操作することができました。
- ◆お仕事の様子や働いている人たちをみて、働くイメージができた。
- ◆実習を通して、目標として挙げた設計についてより理解を深められたから。
- ◆実習を通して学びを深められたと思うから。
- ◆会社の雰囲気を知ることと、業界を知ること为目标としていたが、社員の方との話しなどを通して知ることができた。
- ◆今まで自動車、バイク等のものにしか興味が無かったが、電気炉の設計業務を行う中で興味を持ち始めた。
- ◆iCAD を使ってロボットに乗るワークを取り付けるプレートモデリングして配置する業務に携わる際に、「機械製図」「材料力学」「機械要素」「機械設計」で学んだことを活かした点。
- ◆実習前に取り組みたかった内容は達成できたと感じたのですが、それ以上に働いている方々を見て働く上でのコミュニケーションの重要性や、任された仕事への責任感などを感じることができ、自身で定めた目標以上のものを得ることができたと感じた。
- ◆今まで学習してきたことを活かすという目標に対して、今までに培った知識を活かし実習することができたから。
- ◆私が今回のインターンシップに参加するにおいて立てた目標は主に二つあります。一つ目は設計専門会社という

この会社の特色はほかのメーカーの設計部門と具体的などのような違いがあるかを理解し、CAD を使いこなせるようになることです。二つ目はこの会社を通して、社会人とは、会社の仕組み、心構えなどこれから社会に出ていくうえで必要不可欠であろうことについて自分なりに解釈し、ものにすることです。年齢や入社歴によって見えてくること、感じることはそれぞれだと思うので、積極的に声をかけて疑問に思ったことはその場ですぐ質問するようにし、様々な視点からの感想や考え方を吸収できるように意識していました。今回、設計技術はもちろんのこと、社員さんとの交流の中にて会社で働くとはどのようなことか、チームとは何かなど自分が知りたいと思っていたことをたくさん学ぶことが出来ました。そういった意味では当初立てた目標は達成できたと思います。その反面、いろいろな場面でもっとこうしたいほうが良かったなどの反省もあります。このインターンで得られた経験、反省、感じたことをすべてひっくり返して自分の糧にして今後生かしていきたいです。

- ◆責任をもって取り組むという目標に対して、実習内容の中の設計で、実際にお客様に商品を提供することを想定し、十分に注意深く取り組めたから。
- ◆自分が知らないマイコンの知識を学ぶことが出来た。自分 1 人で行うことで基礎が固まった。
- ◆8 日間無事怪我なく、とにかく楽しんで学ぶことができた。
- ◆実習前に自分で考えた物を製図し、実際に切削加工で形にすることができたため。
- ◆会社に行ったことで、色々なことを学びました。挨拶の所作、目上の方との話し方、社会人としての責任感など学びました。特に、仕事をする上では給料が 1 番ではなくて自分がどこに所属するのがいいのか、やりがいを持つか、居心地がいいのかなど話を聞きました。そのうえで、社会人としての責任感というものはないかと思いました。他にもインターン中はどこにも手を抜かず、最後の報告会から最後の御礼の挨拶まで、気を抜くことなく終えることが出来ました。
- ◆実際に働く人の過ごし方やスケジュールについて聞くことができた、実習を体験して自分が働く想像ができたから。
- ◆自分で考えたことを主体的に行えた。
- ◆目標であった社会について、今勉強していることがどう生かされているかを経験、理解することが出来たから。
- ◆エンジンとトランスミッションの分解、組立てにおいて

て、特殊なベアリングの使用、動画や口頭での説明ではイメージし難く、理解できなかった部分のトランスミッションの構造を手にとることで理解することができた点。

- ◆機械の業界がどのような仕事をしているのかを知ることが出来、CAD を使った作業も出来たので達成できた。
- ◆色んな人と交流ができ、分からないことがあればすぐに聞いたりすることができたから。
- ◆今回のインターンシップを通して、実際の現場での作業などを見学し、理解することができた。
- ◆企業で働くこととは、アルバイトとは異なり一人一人に責任が伴っているということをもっと学ぶことができました。また、組立や加工を体験して経験を積むことができました。
- ◆実際に仕事を体験して就職後の自分をイメージすることができたので、自分の就職活動について考える良い機会になった。
- ◆企業で働くことによって、企業はどんな人材を欲しているか、どうすればいち早く馴染めるかなどが曖昧であったので今回の実習でそれらが明確になった。特にエクセルなどを活用することが多かったのでエクセル、ワードなどを大学卒業までにマスターすべきと感じた。さらに社員の方から実際に経験された就活時代のお話を伺うことができたのも良かった。
- ◆担当者の方からのフィードバックを積極的に受け入れ、それを業務や実験の進め方に反映させることで、自己成長につなげることができた点。
- ◆塗料について学ぶことが目標であったが、実習を終えて始めに抱いていた塗料のイメージと全然違うものだと知ったこと。
- ◆実習先における仕事の仕組み、働き方について知ることができただけではなく、研究を通して IR、NMR 測定について多くのことを学ぶことができたから。
- ◆今回のインターンシップで、今まで見てこなかった企業の分野に目を向け視野を広げる事や給料を貰うのではなく稼ぐといった考えを学び、社会に出るうえで必要な考え方を理解することができ、十分に達成できたと感じた。
- ◆私が実習前に決めた目標は 2 つありました。1 つ目は「大学の学習内容が企業でどのように応用され、相違点を発見すること」、そして 2 つ目は「社会人として働くために最も大切なことは何かを考えること」でした。1 つ目に関して、学生実験で行った機械の扱い方や試料の

扱いはほとんど同じでした。そして、自分の実験を行うために必要な試薬量を予想し、計算を行うことについても限りある試薬を無駄遣いしないために重要なことであると感じました。また、実際に製品化するととなると実験規模の量ではなく、非常に多くの量を必要とします。そのため、性能や性状は製品基準で評価しなければならず、実験規模の量で成功したとしても製品化するととなると、さらに考えなければならないことを学びました。これは、大学で行っている実験と大きく異なる点だと感じました。企業では開発した製品を売ることが最終的な成果であるため、常に「製品化できるかどうか」を考える必要があることを学びました。

2 つ目に関して、企業で働くにあたって最も重要なことは、課題に対して行き詰まり、悩むことがあれば 1 人で抱え込まず、周りにいる人に相談を行うことであると感じました。実習中、社員の方は原因が分からない失敗について自分で考えることはもちろん、他の社員の方々に相談をしていました。そして、「製品開発は自分 1 人だけで行うものじゃない。開発研究部のみんなで切磋琢磨して行うもの。何のために周りに人がいるかを考える。」ということを教えてくださいました。自分だけに与えられた業務内容であったとしても 1 人で考え続けることは困難です。そこで毎日共に働いている社員の方にアドバイスをもらい、考えることで新たな視点から物事をとらえることができると感じました。そのため、普段から多くの人と話し、様々な考えを知ることは非常に重要であると考えました。

- ◆苦手な無機化学の分野についての知識や物理の知識が得られた。
- ◆実習では測定分析部、環境技術部とどちらの部署の作業をさせていただき、分析を採取さらに各部の詳細の座学をさせていただけた点です。どれか一部ではなく、一つ一つの作業を深いところまで経験できたため、目標であった業界の理解を深めることができました。さらに、株式会社ではなく一般財団法人の会社内の雰囲気や仕事内容の差も知ることができたのでよかったです。
- ◆一番の目標であった元気で積極的に取り組むという目標は達成することができました。一日設計業務で CAD ソフトを操作することがありましたが、休憩をはさみつつ集中し続けることができました。与えられた業務の中に、図面をいくつも作成するものがありましたが、一つ一つ確認を怠らず丁寧に作成することができました。また、実際の現場でしか学べないような雰囲気や測量のプ

ロセスにも触れ、理論だけではなく、実際に仕事の現場がどのように進行しているかを知ることができたのも、大きな収穫でした。スキル面だけでなく、仕事全体に対する理解も深まったことで、自分にとって非常に有意義

な経験となりました。私が思っていた以上の貴重な経験ができ、このインターンシップに参加して良かったと感じました。

② ほぼ達成できた

- ◆インターンシップを通して現場の雰囲気を知れた。また、課題に対して自主的に調べるなど自己学習を進め、インターンシップ中に必要な知識を深めた。これにより成長を実感することが出来た。
- ◆実際に働く現場においてどのようなことに気を付けながら製造や制作を進めるかを、社員の方々とコミュニケーションしながら知ることができたことからそのように評価しました。
- ◆大学で勉強するプログラミングと仕事で行うプログラミングの違いを深く知ることが出来、今後の勉強にとっても役立つ知識を学べた。しかし、他に掲げた「コミュニケーション能力を上げる」という目標は失敗に終わったと、私は考えた。
それでも前者の経験がとても大きいと思って「ほぼ達成できた」と評価した。
- ◆あまり考えていなかった業界（保守系）を実際に体験してみて、情報系の業界と同じく私が興味を持つことが出来たからです。
- ◆ITの業界にも様々な種類があることを感じた。また、自分に向いているかどうかは比較対象がなくて何とも言えなかったが向いていないわけではなかった。
発表など大勢の前でしゃべることが苦手だと感じた。言葉遣いに気を付けていたこともあり、コミュニケーションで粗相はなかったが、言葉遣いに気をつけすぎたあまり、コミュニケーションがとても円滑という訳ではなかった。
- ◆達成できた事は実際の仕事の雰囲気を把握することで、今後の就職活動に役立つ実践的な知見を得ることができた事と、実習を通じて、業界や仕事に対する具体的な理解を深めることができ、自分の得意なスキルや改善点も明確になった事です。
達成できなかった事は、進路について考えを深める良い機会となりましたが、進路について明確な結論には至らなかった事です。
- ◆実習前に定めた目標である「撮影や編集の技術を身につけ、現場の流れを理解する」という点において、かなりの成果を感じました。具体的には、カメラや三脚の使い

方に関する知識が深まり、編集ソフトの基本操作や音声の調整、映像効果の追加といったスキルを習得することができました。また、現場でのスムーズなコミュニケーションや仕事の進め方を学ぶ機会もありました。ただ、編集作業には思った以上に時間がかかり、未熟な部分もあると感じているため、「十分達成」とまでは言えず、今後さらに練習が必要だと感じています。

- ◆実習前に私は、ネットで調べるだけでは得られない、実際の職場で働く体験や知識を得ることと、インターンシップの経験を自己成長や具体的な進路を考えることに生かすことを目標にしていました。そして、実習では、二週間という期間を経ることで実際の企業の社風やそこで働くことの雰囲気を感じる事が出来ました。ネットで調べるだけでは感じられない貴重な体験をすることが出来たと感じます。また、実習だけでなく報告会での発表も経験することで、大勢の前で発表することへの苦手意識を克服することが出来たと思います。さらに、働くということについて、具体的なイメージを持つことが出来ました。以上のことから、目標はほぼ達成できたと感じます。
- ◆就活をしなければならない時期が近づいてきて、自分はいったいどんな仕事をしたいのか分からなかったため、まずIT業界にはどんな仕事があるのかを知り、自分に合っている企業を見つけようと考えていました。今回のインターンシップで、IT業界の種類、他の業界との違い、実際にやっていること、現場の声などを丁寧に説明してくれたため、やりたいことと結びつけやすくなったと感じました。しかし、まだ完全には自分のやりたいことが定まっていないため、ほぼ達成できたという評価にしました。
- ◆目標としては、実習中にアプリ開発の各ステップを理解し、開発からテストまでを自分で実施することでした。実際にヒアリングからユーザー体験の改善までのプロセスを経験し、具体的なフィードバックを反映させてアプリの改良を行うことができました。ただし、時間の関係で全ての機能の実装まではできなかったため、十分達成とは言えませんが、ほぼ目標通りの成果を上げられたと

感じています。

- ◆実習前に定めた目標は「会社でのコミュニケーションの取り方や連携・報連相などがどのように行われているかを学んでいく」ということでした。目標通り、学んでいくことが出来ました。しかし、それについて質問をすることの出来た社員の方々の数が少なかったのでは達成できたと思います。
- ◆今回の実習を通して多く関わらせていただいた2名の方とたくさん話せて実習に関係のないプライベートの話などもたくさん話すことができ、和気あいあいとした笑顔がでるような会話ができていたから。
- ◆明確にどのスキルを身に付けるべきかとまではいかなかったが、社会に出るにあたってどういうことをするべきかを学習できた。
- ◆分からない点があった際に、質問することができたり、詰まった際に自分で考えたりすることができた。
- ◆私自身が働いている姿を想像することができた。
- ◆社会人と学生のちがいを、社会で働くとはどういうことなのかを知ることを目標にしていました。通勤や朝から夕方まで社員の方と行動を共にし、実務の見学もさせていただき、社会に出て働く人の責任感やチームワークなどを学びました。また、十分に達成できていないと考えた理由は、実際に学校で学んだ知識などをうまく活用出来なかったことにあります。
- ◆今回のインターンシップで3つ目標があり、「マナー・礼儀をしっかりとできるようにする」、「コミュニケーション能力の向上」、「会社の空気感を知る」の達成を目標に活動していました。達成度は個人的に70%であると考えており、会社の空気感を知ることはほぼ達成しましたが、コミュニケーション能力とマナー・礼儀は実習前よりは良くなりつつも、まだまだ改善が必要であると感じました。
- ◆他のインターン生との協力については、意識的な行動のおかげか、普段よりもとても多くなったように思うし、企業から与えてもらった体験も基本的なところから応用的な部分までを取り組むことができ、実習先の社員にもある程度満足してもらえる成果物を作ることができたと思う。インターン生全体でも、協力をし合っていたことで、全員が例年よりも高水準の進捗で成果物を提出することもできた。強いてもっと目指すべき点を考えるなら、他のインターン生との協力はなかったわけではなかったが、そのときの連携や協力の仕方が未だに効率的では無いということだと思う。チームビルディング

(グループワーク) などでも毎回気になる点であったが、意思疎通を図るためにどのような言葉を選ぶか、どのような事をどの順序で話すのかが定まっていることが多くなく、時々わかりにくい話をしてしまっていることがある。この点に関しては明確にこれから改善していきたいと思えた部分であり、今回の目標達成にあたって、達成できていればよかったと感じる点であった。

- ◆今回の実習でメーカーのことについて研究・開発をする部署がどういったことをするかわかることができ、自分がつきたい職業について考え直すことが出来た。また、大学の講義で学んだことを活かすこともできたので、将来就きたい仕事に関連していることを学べていることを確認できてよかった。しかし、まだ研究・開発が自分のしたいことなのか悩んでいるため、十分ではなく、ほぼ達成できたと思う。
- ◆実務でのプログラミング経験を得ることが主な目標であり、それを通して実際の業務プロセスに触れることが出来ました。チームメンバーと協力し、ソフトウェアの開発からテストまで一連の流れを経験し、自分のスキルを向上させることができたと感じています。
- ◆自分が会社で働くイメージを想像することができた点。事業の一端を体験することができた点。
- ◆光学系や画像処理の知識を理解し、実習を行うことができた。多くの社員の方々とコミュニケーションを図ることができなかったので、企業の業務以外のことを学ぶことができなかった。
- ◆電子工作やプログラミング、3DCAでの設計から目標であった業務に必要なスキルや技術を身につけることができたと思います。ラズベリーパイピコを使った電子回路の設計やプログラミングの経験により、実際に手を動かして装置を作り上げるプロセスを学び、問題が発生した際には自ら解決策を考え、試行錯誤を重ねることができました。また、製品の開発における設計の重要性や、品質保証のための検証プロセスの具体的な流れを理解しました。特に、血球細胞除去装置における安全性の問題や、それに対する解決策の提案プロセスは、実際の製品開発における課題解決の重要性を強く感じさせました。
- ◆業務の報告会自体は失敗することなく終えたが、報告会で使用するスライドに関して、初めは自分が作ったものから担当していた方にご指導していただき、最終的には自分の作成したスライドの面影があまり残っておらず、ほとんどを担当者の方に作成していただいたため。

- ◆さまざまなことを学ぶことができ、これからの就職活動にも積極的に取り組もうと思えた。また、どのような仕事をしているのかを知り、興味を持てた。
- ◆社会での礼儀作法を学ぶことや業界についての理解を深めるなどを目標にしていました。
礼儀作法についてはマナー講座などで多くの事を学べましたがそれを実践するのかなり難しかったです。業界については大学で学んでいる事がどの様に使われているか、生産業においての大切なことを学ぶことができました。
- ◆自身の知らない分野の仕事であり、将来の選択肢が増えたが、自身の情報不足も実感したため。
- ◆社会人として働き方や、大学で学んでいることがどのように使われているか確認できたから。もう少し積極的に実際に働いている人たちの意見を聞けるようにしたかった。
- ◆十日間やり遂げるという目標をインターンシップ前に持っていました。これは、実際に企業に行くインターンシップは初めてであるということで緊張していたこともあり、この目標を立てました。実際には社員の方々が優しく丁寧に教えてくださったおかげであっという間の十日間でした。自ら行動し考えることが多く、より目標を達成しやすかったと考えます。また、インターンシップで何か一つでも身になる事を得るという目標を立てたが、実際に社会の事や会社のことなど多くの知識や考え方を得られたと考えます。
- ◆多くの部署を回らせていただき、社員の方々と関わらせていただくことで職場の雰囲気や働くことのイメージをつかむことができました。社員の方と会話させていただく中で自分が使っている敬語が正しいのか不安になる場面がありました。
- ◆社会人の方と話すといったことを目標にしていたが、席の周りの人としか話さず、積極性を身に着けることが出来なかった。
- ◆実際にインターンを通して、現場を見て、どういったことが問題となっているのかを知ることができ、これらを

改善していくような職種に就きたいと感ずることができたため。

- ◆フルタイム勤務であるため、仕事にしっかり集中できるように規則正しい生活をし、社員と出会ったときは、すぐに自分から大きな声で挨拶が出来た点。
- ◆機械工学ロボティクス学科という職の幅が広く選びかねていた中で材料の分野での学びはこのような企業でこのように生きるという具体的な職についての理解を深めることが出来た。大学で学んだことのある話を実際に現場で使われていたが、それをお客様に提供するとなると今まで以上に細かい知識や丁寧さが必要と知った。
- ◆普段見ることの出来ない機械や、仕事現場などを見たり、お話を聞いたり出来たことで製造業についてのおおまかな雰囲気について理解することが出来た。ただ、危険であり、難しいですが、実際に機械を使用する機会を増やして使ってみた感覚を学んでみたかった。
- ◆外でしかできない経験を積むことができた。また自分から積極的に実習先の人に質問をすることができた。しかし、自分から積極的に仕事を見つけるというよりかは与えられた仕事をこなしたと思います。
- ◆毎日意識して実習に取り組めたが、もう少し正しい敬語を使えるようにしたい。
- ◆社会人として仕事に取り組む経験をして、責任感を持つことやふるまい方を学ぶことができた。しかし、ビジネスマナーや言葉遣いなどはまだまだ至らぬ点が多いと感じた。
- ◆私は、実習を通して大気や水質など環境調査を行う企業のお仕事の内容や測定方法、環境基準などの専門知識を深めることができた。また、このような経験をしたことにより環境調査を行う企業の職業についての魅力を感じることができた。
しかし、仕事の責任感や常識も学んだが、常識の中でも言葉遣いがまだ自分自身で生かすことはできていないとも感じた。よって、実習前に定めた目標はほぼ達成することができたと思った。

③ほとんど達成できなかった

回答無し

問 3. 実習の体験をふまえて、今後どのような学生生活を過ごそうと思いますか。一〇

- ◆実習で学んだことを生かして、「日ごろからより細かい配慮を行い、また何事にも完全を目指して取り組む」、「当たり前だと思っていたことから疑問を見つけ、新しい知識を身につける」、「就職活動を行うにあたって今までより企業の内の構造や制度に関して詳しく調べる」という3つの取り組みを意識して行おうと思います。
- ◆インターンシップ中に感じたのは、知識や学力以上に重要なこととして他者との連携や意見交換がプロジェクトの成功に大きく関わるとのことだ。このため今後の大学生活でもゼミなどでの活動を通じて積極的に意見を共有し他者との円滑なコミュニケーション能力を養うことに努めたい。また、自分が将来どのような分野で働きたいのか少し明確になったので今後さらにキャリアビジョンを明確にするとともにそれに沿った学習をおこなうことで知識と経験を深めていきたい。
- ◆研究室への配属も決まったので、そこでできることをしっかりと頑張りつつ、実際の現場で教えていただいた効率化や省力化への態度を忘れることなく精進していければいいなと考えています。
- ◆私はコミュニケーションを取るのが苦手だと痛感し、実習の体験をしてこれが自分の重要な弱点だと知ることが出来た。なので、私は今後コミュニケーション能力を上げる事に注力したいと考えた。3年後期から「セミナー」「特別研究」が開始される。そこで勉強を行うとともに、グループの方たちと積極的に話しかけて交流を深めることでコミュニケーション能力を上げ、知らない人でも緊張しない人柄に成長できるような学生生活を送りたい。
- ◆今後は、自分が本当に興味を持てる分野を考えながら、その分野に関連する学力をまとめて文章にまとめていこうと思います。まとめていく中で自分の興味と強みを明確にして企業で貢献できると伝えることが出来るようにしていきます。
- ◆インターンシップで見つけることができた今後の自分の課題を克服できるように、1つずつ課題を無くしていく。また、資格取得など授業以外での勉強を自主的に取り組み、知識を増やしていく。
- ◆ほとんどの社員の方が「まず単位をしっかりと取得し、とるだけでなく長期記憶として自分のものにするべく」と話されていたので、これまで以上に普段の学習に力を入れ、それと同時に今回のインターンシップの知識を活かしながら就活を行っていきたい。
- ◆自分の足りていないところを多く見つけることができたので、それらを少しでも補えるように積極的に行動していきたいと思います。そして、得意なところをより伸ばしていけるように目標を決めて、成長できるようにしたいと思います。
- ◆実習を通して一番感じたのは社員さんとの技術の差と知識の差です。もちろん経験の差はあり、技術の差は仕方のないものがあります。知識は大学でつけるものだと思いますので、知識の部分を積極的に増やしていきたいと考えました。
- ◆まだまだ自分のプログラミングの知識や能力が足りないことが分かった。また、開発の際に気を付けたほうが良いことなど、大学ではあまり言われることのないこと（デバッグなど）についてアドバイスをいただいたので、それらに気を付けて知識と技術を磨いていきたい。
- ◆今回の実習をへて、IT系の職業をするのであればAWSはいやでも使うことになると感じた。おそらく研究室と取りたい講義を取っても3年前期までよりも時間的な余裕があると思うので、講義とは別にAWSの主要なサービスについて個人的に勉強しようと思う。また、面接などの場で緊張のあまり上手くしゃべることが出来ない為、機会を見つけ場数を増やしていきたいと思う。
- ◆実習の体験を通じて、今後の学生生活では、より実践的なスキルの習得に力を入れたいと考えています。具体的には、プログラミングやシステム開発に関する専門知識を深め、資格取得を目指して学び続けます。また、異なる業界のインターンシップや企業説明会に積極的に参加し、幅広い視野を持って進路について考えたいです。さらに、研究室や学業でも問題解決力を高め、常に新しいことに挑戦し続ける姿勢を大切にして学生生活を過ごします。
- ◆インターンで得た知識や経験を活かして卒業までにもっと多くのツールや言語に触れておこうと思いました。学校で履修しているプログラミングはほとんどC言語ですが、社会に出るとC言語以外の沢山の言語を使用します。そのため引き出しを多く所有することによって社会に出てから苦労しない為にも、学生の間に沢山のツールや言語を学びたいと思いました。
- ◆実習を通じて、撮影や編集の技術を学ぶことの奥深さ

や、仕事に対する責任感の大切さを実感しました。今後の学生生活では、この経験を活かしてより計画的に時間を使い、自主的にスキルを磨く努力を続けたいと思います。また、チームでの仕事の重要性も学んだので、今後は他の学生や先生とも協力しながら、リーダーシップやコミュニケーション能力を高めていくことを目指したいです。学生生活の中で積極的に新しいチャレンジに取り組み、将来に向けたスキルをさらに強化していこうと思います。

- ◆今後は、問題に対して抽象化して調べる能力をつけ、様々な情報を入れることになれるようにしたいです。また、新しい技術を積極的に使っていきたいと思います。
- ◆今回の実習では、実際に職場を体験してみる事と業界に対する研究の重要性を感じました。よって、今後、私はインターンシップの機会を自分で調べ、参加してみたいと考えたとともに、私が進みたいと考える業界の研究を本格的にしていきたいと考えます。そして、就職までの計画を立てて行動していきたいと考えます。また、コミュニケーションの重要性も体感いたしましたので、後期からの研究室や演習では、他のメンバーとの意見交換などを積極的に行うことでコミュニケーション能力の向上を図りたいと考えております。
- ◆今回の実習では、技術面・人間性ともに実習前では考えられないくらい成長することができた。特に、コミュニケーションの大切さを実習通じて実感した。学んだことを今後の学生生活や就職活動だけでなく、社会人になってからも活かせるようにしたい。そのために、今後も積極的にコミュニケーションを取ることを心掛けていきたい。
- ◆業界のことについて多く知ることができたため、次は自分が行きたい企業について2つ程度に絞り、その業界のインターンシップや、企業の研究を行おうと思いました。
- ◆社会に貢献できる人材になるために、今後も新たな知識を身につけて、挑戦したいことは積極的に取り組んでいき、コミュニケーション能力を身につけるために様々な人と交流していこうと思いました。
- ◆実習を通じて、計画的に取り組むことの重要性を学びました。また、現場でのコミュニケーション能力や、チームでの協力が必要不可欠であることも痛感しました。今後の学生生活では、これらの経験を生かし、さらに自分のスキルを磨きながら、チームワークやプロジェクト管理の能力を向上させていきたいです。また、時間を有効

に活用しながら、学んだことを他の活動にも活かし、より充実した生活を送りたいと思います。

- ◆今回の実習を受けて私はプログラミングをしたり難しい課題をする際に、問題にぶつかったり解決したならすぐに周りに共有したり質問をしにいくということです。このように考えた理由は、自力で10分以上プログラム実習が進まなかった時の多くは最終的に自分の力ではなく、周囲の力や chatGPT に頼らないと解くことが出来なかったからです。早い段階から周りの人に頼ったときは、すぐに問題が解決するだけでなく、ほかの問題にぶつかったときに解決する糸口になることが体感的に多く、早く解決した分、他の問題や細部に時間を割くことが出来ました。また、助けてくれたインターンシップ生が違う問題で困っているときに今度は自分が助けたりすることで、お互いが常に情報交換や話し合うということがしやすくなっていました。このように、問題にぶつかったり解決したならすぐに周りに共有したり質問をしにいくことで自分だけでなく全体の効率が上がっていくことを肌で感じたため、このことを今後の学生生活でやっていこうと思います。
- ◆インターンシップですでに、分からないことがあれば誰かに聞き分からないことをわからないままにしないようにしたい。
- ◆私は、実習を通して職種が明確に決まったわけではないが、やりたいことを見つけるためにも行動を早く起こすことや気になることは積極的に飛び込んで体験することを心掛けていきたいと思います。また、先輩方の就職活動のアドバイスを活かしていきたいと思います。
- ◆実習を通して、メディア関連の仕事にさらに興味を持つことができたので、メディア関連の仕事について深く調べる。実習の中で、メディア系の仕事をしううえでコミュニケーション能力の大切さを実感したので、コミュニケーション能力もさらに磨いていきたい。就職の視野を広げるために、他の企業についても調べていきたい。単位をしっかりとって、研究にも力を入れていきたい。
- ◆実習を通して、大学で得た知識は企業に入るとあくまで土台としてあり、専門的な知識は入社してからしかつけることができない部分があると感じました。しかし、大学での土台がないと入社してからの知識もあやふやになってしまうとも感じました。
この経験を踏まえ、私は今後の学生生活で、土台をより強固なものにしようと思いました。知識を深めるた

め、授業をしっかりと理解すること、そして授業以外でもIT全般の知識を付けるためにIT系の資格の取得のための学習をしていこうと思いました。資格を取る為の勉強ではなく、知識を付けるための勉強をしようと思います。

また、実際に機器に触れることの大切さ、実装することの大切さを学んだので、機器に触れる機会や実装する機会を学生のうちに積極的に見つけ参加していこうと思いました。

- ◆今回は、私にとって初めてのインターンで初めは緊張ばかりでしたが、今回2週間の間でインターンの大切さを知れたので、ここからの学生生活はもっと積極的にインターンなどの就職活動に取り組みたいと思いました。また学校で学んでいることが生きる場面が多かったので、学校での学びに対しても積極的に取り組みたいと思いました。
- ◆就きたい職業についての理解を深め、その職業に必要なスキルを授業外でも自分から学習する。
- ◆初めてのことで臆さず挑戦する。
- ◆私は今後、会話を大切にしながら学生生活を過ごそうと思います。その理由として、今回の実習を経て、対話することの重要性を学んだからです。人と話すことで、自分の思考が豊かになり、新たな発見や考え方を見出せるということを知れました。よって、自分の意見を言うこと、そして相手の意見を引き出すことを意識しながら学生生活を過ごせるよう努めていこうと思います。
- ◆自分は何にやりがいを感じるのかと、今の自分に足りないスキルが分かったので、目標を少しずつ明確にしていきたいと思います。
- ◆大学での勉強が仕事にも生かされている部分があるということを実際に見ることで、基礎固めをしていこうと考えた。
- ◆実習期間中に学んだ事のひとつに社会人と学生という立場の意識の違いを感じることができ、特に製品を作るにあたっての徹底された姿勢は自分も見習うことが必要であり、研究をする際に用いることで、精密な測定やより良い結果を得ることに繋がると考えます。
- ◆学外実習を通じて、薄膜低抗の知識を活用して、研究活動に注力していきたいと思います。さらに、研究職についてのイメージも理解でき、就職活動にも活用していきたいと思います。
- ◆講義を受けながら、興味のある分野を探す、見つける。
- ◆実習を通して新しい分野にも触れ、その経験を活かし独

学で学んでいこうと考えています。授業は1人で取り組むものが多いですが、基本的にたくさんの人との関わりがある上で仕事は成り立っていると感じたため周りとのコミュニケーションを積極的に取っていこうと思います。

- ◆実習の体験を踏まえて、基礎的な知識がとても重要だということが感じ取れたので、今後、応用的なことばかり学ぶだけではなく、基礎的なことを完璧にしていこうと思った。
- ◆電子回路の英語の基礎知識を確実に身につけ、コミュニケーション力をさらに伸ばしていけるように努力しようと思った。大学での勉強が社会に出てから役に立つと実感したことをモチベーションにして、一歩ずつ着実に学習を進めていきたいと思った。
- ◆今回の実習を踏まえて、まず社会経験の不足を感じました。このことから、今回のインターンシップで終わるのではなく、もっとインターン活動を試みようと思いました。また、工業的な知識もこれからの就職活動に活かせるかもしれないので、大学での講義もより真剣に取り組んでいこうと考えています。
- ◆今回普段の学校生活とは異なる環境において、自身では満足の行く行動を取ることができたと思っているが、これを普段の生活から取り入れたい。挨拶などの当たり前からしっかりと意識し、他の人とのコミュニケーションを如何に円滑に、相手に不快感を与えずに進めるかを考えて行きたい。また、話し方も意識的に変えていきたい。話したい内容の必要性、話す順序、相手の話の要点の把握など、一つ一つ改善していきたい。
更に技術的な点での目標を立てるなら、まずは何か資格を取ることを目標にしてみようと思う。資格の勉強だけではなく、学校での授業などもおろそかにしないようにしたい。これから本格的に始まる研究活動に関しては、就活でもよく聞かれることの多いことなので、いい加減にならないようにしていきたい。
- ◆今回のインターンシップをふまえて、大学で学んだ知識が当たり前のように駆使されていることを知り、もっと大学での講義に真剣に取り組もうと実感したとともに、今回の実習先とは違う職種にも興味が湧いてきたので、秋からのインターンシップもよく調べて充実した大学生活を送っていきたい。
- ◆今後は、研究・開発職を主軸に企業研究などを進め、大学の講義や研究室で積極的に知識や経験を身に付け社会に出られるようになりたいと思う。

- ◆実習を通じて、ソフトウェア開発の実務経験を積むことができ、今後はより技術的なスキルの向上を目指して学びを続けることを考えています。また、プロジェクト管理やチームでの協力の大切さを実感したので、学校でもグループワークに積極的に参加し、リーダーシップや協スキルを磨いていきたいです。
- ◆自己分析を重ねていきたいと思います。理由としてインターンシップに参加する前はただ情報系に進めればよいとあやふやな状態でしたが、インターンシップに参加した後機械系にも興味がそそられる部分があり自分が就職したい分野を改めて考え、今後の学生生活を送るうえで自己分析を重ねていくことの大切さを知ったからです。
- ◆専門知識の取得です。インターンシップに参加する前に訪れる企業の事を知ろうと思いホームページなどで情報を得ましたが、実際インターンシップに参加すると、オリエンテーションで企業の事をお話しいただいたのですが、自分の知っていたことはほんの一部だと知りました。インターンシップに参加したことで大学の場で学ぶことは社会では通じない部分があると知り、専門知識の取得を学生生活で頑張っていこうと思っています。
- ◆この実習を終えて、自宅から実習先まで遠く、普段の大学生活と比べて朝の起床時間が早いこともあり、疲れが溜まったり眠気が出たりしました。なので、体調管理などを徹底すべきだと感じました。今後の大学生活では、特に業務に支障がでないための適切な睡眠時間を取れるよう心がけていきます。
- ◆大学で学ぶ上でインターンでの経験を活かし念頭に含めた中で生活を送る。その為、物事において原因を模索し解決策を見出して過ごす。
- ◆光学部品に対する興味が以前より大きくなったため、専門書などを読み進め基盤となる理論の部分の部分を意欲的に学習して、卒業までの間に光学技術の理解をさらに深めたいと思います。
- ◆プログラミング言語は大学で学ぶだけでは種類に限界があるので、自主的に様々な言語を学習していこうと思った。
今まで大学の授業での学びを実践的に使うことがなかったが、今回の実習で普段の勉強の大切さを体感したのでいろいろな知識を習得していきたいと思った。
- ◆大学で学んだことが社会でどう生かせるのか考えながら、また、社会で生かすためには授業の理解度がこのレベルで十分なのかを考えながら過ごそうと思う。
- ◆今回のインターンシップを通して、私は自分の知識やスキルの不足を実感しました。今回学んだ電子回路設計やプログラミング、3DCAD 設計などのスキルをさらに深めていきたいと考えています。インターンシップを通じて、チームで働くことの重要性を強く感じました。今後もチームでのプロジェクトに積極的に参加し、コミュニケーション能力を高め、メンバーとの協力を円滑に進められるよう努めたいと思います。
- ◆BtoB 企業では試行とデバックを繰り返しの連続が業務内容の根幹であり、大学実験でのルーティンと一致し、世間で言われている前述のことは誤りであるということに気づくことができました。つまり研究室での研究を頑張ることが、職場での活躍に直結することが分かったので研究を行うモチベーションを大きく向上させることもできました。後期から始まる研究室の研究では、研究室の先生、教授の方に積極的にアドバイスをいただき、熱心に行い、試行とデバックを自然と行う能力を身に付けることこそが就職時に業務を円滑にスタートできる、ないしは同期に比べて有利に業務することができるのではないかと感じました。
- ◆自分が配属された部署の方々、全員業務に対して一切手を抜かずに行われていたので、その姿勢を見習い、学業に手を抜かないようにしたい。
- ◆10日間という短い時間でしたが、実際に社会人として企業に出社し生活し、とても貴重な時間を過ごすことができました。今まで学んできたことが大いに役に立っていることを目の当たりにし、実際に働いて実感しました。そのため、メーカー業界に就職するための準備と学校での学びを大切にしたいと思います。
- ◆さまざまなことに目を向け、興味をもって過ごそうと思った。
- ◆専門の知識やその他の知識も大事だと改めて感じたので、授業数が少なくなったことを利用して、復習や勉強をしたい。
- ◆設計の仕事の詳細を知ったことでより一層、知識を幅広く身に付けたいと思った。
- ◆実習を通して、機械加工について学びを深められたので、このことを生かしてさらに大学で学びを深めていきたいと思います。
- ◆CAD やシミュレーションが業務でも多く使われていることを実感することができたので、大学の授業でもCAD を使う機会が多くあるので自分で考えて使いこなせるようにしたいと思います。ほかの授業でも会社に通じる部分があるので自分のモノにできるようにしたい

思います。

- ◆自分が今後すべきことが実習を通して見えてきたので、もっと学習意欲を高めて大学生活での学びをより強固なものにしていきたい。
- ◆研究、就活、副業を両立させる。
- ◆今回の実習で、働く上でコミュニケーション能力と任された仕事への責任感の重要性を学ぶことができたので、これから大学では授業だけでなく周りに関わることに力を入れたい。
- ◆実際の製造現場での体験を通して、講義で習う理論的な事と現場でのギャップがあったので、今後の講義では現場での事を考慮しながら学修していきたいと思いました。また、機械の実物を見学する事ができイメージが付きやすく、動作の仕組みなどを考慮しながら今後の講義での設計とかに活かしていこうと思いました。就活に向けて、自己分析を再度見直し、自分にあった分野を探していこうと思いました。
- ◆学んだことを生かしてより勉学に励もうと思った。
- ◆現状自分の中でも進学か就職かで迷っており、これから決めていこうと思っています。まずはこれからどの分野に進んでも必要になるだろう英語を頑張りたいのでTOEICに取り組み、龍谷大学である無料英会話に参加して毎日英語に触れる生活を送りたいと思っています。どのような進路に進むかは自分の考えや思いなどと相談して様々な会社を知ってからでも遅くはないのかなと思うので、自分が納得して後悔しない選択ができるように行動していこうと思います。
- ◆社会でのプレゼンを経験したので、卒論発表に活かしたい。大学の知識が社会でも使用されているところをたくさん見ることができたので、この先の授業では、学んだ内容がどのように社会で使われるのかという点を意識しながら取り組みたいと思う。
- ◆今回の実習で、自分の知識の無さを痛感した。そのため、働くというゴールから逆算した勉強をしたいと考えている。
- ◆大学では扱えないような測定機器を操作した体験などを活かして、より有意義な学生生活を過ごそうと思います。
- ◆実習で学んだことを、今度は大学での座学をメインにして取り組むようにしたい。機械系に職種の理解が深まったので今後の進路の参考にしたい。
- ◆今までは、大学の授業や実習は、その知識や技術をどのように活用、将来役立てるのか、会社でどのように必要

なのか、話を聞いてもあまり理解できていなかったが、今回のインターンシップを通して、社会での大学の知識がどのように活用されるのか知ることが出来た。これからは、ただ授業を受け身な姿勢で学ぶのではなく自ら能動的な学びをする学生生活にしたいと考えます。自分自身今回のインターンシップを通して自分の知識不足、技術不足を感じたので、これからは自身の能力の向上に力を入れたい。

- ◆今日の体験で知識という大事さに気づかされた。数学や物理といった知識も大事になってくるので、残りの学生生活で復習し、知識を補っていきたい。
- ◆研究室でも今回の経験が生かせるような研究ができるように努めたい。
- ◆今回インターンで特に学んだことは、目上の方への接し方やまだまだ勉強不足な点がありました。今回インターンを受けたことによって自分の目指す将来像や入りたい会社の雰囲気などを掴むことが出来ました。温かい皆さんが笑顔でいるような会社に入りたいなと強く思いました。少しでも自分の視野を広げるために、沢山の合説やインターンなどやりつつ、勉強にも励んでいきたいと思っています。
- ◆実習の中で3DCADやプログラミングの知識、技術が必要な場面がありました。大学の授業で学んでいることと近いものが多かったので、日ごろの授業を今まで以上に大切にし、しっかりと知識や技術を身につけようと思います。また、敬語の正しい使い方がわからないこともあったので、後期からは研究室配属もあり、目上の方と関わるが多くなるので、そこで正しい敬語も覚えていこうと思います。
- ◆インターンを通して職場に必要なスキルや知識が明確になったため、これからの講義や研究が、どのように役に立つのかを考えながら学びを深めていこうと考える。
- ◆今後役に立つように資格（機械系や製図）をとれるよう勉強したいと思います。また、少しでも多くの企業について知り、やりたい仕事や職を見つけたいです。
- ◆自分がやりたいこと、仕事にしたいことに必要な知識を身につけ、学生の間にはかできないようなことにもチャレンジしていきたいと感じました。
- ◆今回の実習では、開発に携わらせていただいたのですが、どの開発においても地道なことの積み重ねが必要であり、一朝一夕で成果が出るものではありません。これは大学での研究に酷似していることだと思います。これからの研究生生活では、何をしても成果が出ないときがあ

ると思います。その時は、今回の実習を思い出して頑張っていきたいと思います。また、研究だけでなく、大学の授業や、アルバイトなどの活動に活かしていきたいと思います。

- ◆今まで以上に1つ1つの授業を大切に、自分の将来就きたい職種を決め、入ってからも役に立てるよう知識を身につける。生活リズムを正し、入社してから生活リズムに悩むことがないようにする。
- ◆今後の実験や研究などで必要な知識や考え方を学べたので活かしていきたい。
- ◆自分の足りないこと、レベルの差を感じる場面があり、残りの学生生活でよく考え、実行しその差を出来るだけ埋められるように、貴重な時間を無駄にしないよう、自分の成長に繋げていきたい。
- ◆実習先で行った問題解決のためのツールを就職活動での自己分析や特別研究に用いて発揮していきたいと思う。実習先の社員の方がおっしゃった「努力あっての目標」「身近な先輩を目標とする」ことを意識して、これから取り組んでいきたい。
- ◆研究室が決まり、より高度な技術や作業を行う中で、今回教えて頂いたことや知らなかったり、忘れていたりした知識を活かして、成長に繋げていきたいと考えております。
- ◆研究室が決まり、自分がこれから学ぶ専門的なことが明確に決まったので、これからは社会に出た際に知識不足にならないために極めたいと考えています。また、わからないことは積極的に先輩や教員に聞き、わからないままの状態にしないことに気をつけて生活しようと思います。
- ◆実習で最も大切だと感じたことはコミュニケーションを取ることだ。この後の学生生活やインターンでもコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ◆今回の実習を通じて、実際の現場で求められるスキルや知識の重要性を強く感じました。特に、精密加工や品質管理など、学んだ理論を応用する力が不足していることに気がきました。今後の学生生活では、講義や実験に加え、自主的に関連する技術やツールの習得に努めたいと考えています。また、チームでのコミュニケーションや問題解決能力も重要だと実感したため、サークル活動やグループプロジェクトを通じてこれらのスキルをさらに磨きたいと思います。インターンシップで得た知識を活かし、自分の成長に繋げるための計画的な学習と経験を積んでいくつもりです。

- ◆材料試験をたくさん行ったので、材料強度学などをしていきたい。TOEICなど英語の勉強もしていきたい。
- ◆大学の授業で学んだことを実際に仕事でも活かしていけることが分かったので、これから学ぶことはしっかり覚えていこうと思った。
- ◆今回のインターンシップを通して、将来就きたい職業がある程度固まってきたので、その職業に関連する資格の取得や、大学での講義を受講したいと考えている。
- ◆実習の際に、コミュニケーション力が大切だと学んだので、他の人とのコミュニケーションを大切にしたいです。また、語彙力を向上することでより良いコミュニケーションが行えると思うので、本や論文を読んで知識を蓄えたいと思います。
- ◆普段の講義の内容は実際に社会ではどう使われているのかを考えながら勉強したいと思いました。また、他の企業のインターンシップや企業説明会などにも参加して就職に向けて動き出したいと思った。
- ◆今回の実習の体験から感じたことは、企業で働くということは大学の授業で習ったことの集大成だと感じましたので一つ一つの授業の意味を考え、今まで以上に集中していきたいと感じました。
- ◆実習中培ったコミュニケーション能力を学生生活でも活かし、グループワークや研究室での活動などで周りの人と協力しながら成果を上げるよう努めたい。
- ◆2週間実習を通して、自身が開発した結果や製品が社会に出るということを考えて、ものを製作していかなければいけないということを感じた。塗料のように身近にあるものは、使用される化学物質が人体や環境に与えてしまう影響を考える必要がある。社会や環境に配慮した開発を目指していかなければならないと感じた。
4回生になると研究課題を与えられ、卒業研究のためなどに毎日のように研究を行うようになると思う。それらの研究の際に、様々な壁にぶつかってしまうと考えられる。今回、お世話になった技術部の方々も毎日塗料の製作、研究を行っていること知り、自身のこれからの大学生活に関わってくることだと感じた。今回の実習期間内に質問を答えてもらえる時間の際に、壁にぶつかったときや行き詰ってしまったときには、プロセスを分けて、どこが間違っていたかどうかを確認しながら進めて行ったり、ほかにも違うやり方がないかどうかを試行錯誤してみたりする必要があると知った。今回の実習期間中に学べたことを活かして卒業研究やこれからの研究に役に立てていきたい。

- ◆研究室を始める際、どのような手順で始めるかのプロセスを今後の大学での研究に活かす。また、とても優秀な方々と話をし、考え方、人生観などを得られたので、それを新たな基準として、自分の人生をより豊かにしていきたい。
- ◆就職活動で自分がやりたいと思った分野以外の分野の企業ものぞき、範囲を狭めるのではなく広げて選択肢を増やしていきたい。
- ◆就職活動を始めて最初にインターンシップに行かせていただけたのが今回の実習先でよかったと感じています。だれもが親切丁寧に接してくださり、楽しく社会人としての経験を積めました。そして関わらせていただいた多くの方に、今のうちに多くの企業を見て体験した方がいいと教わったので、3回生のうちにできるだけたくさんの企業を見て、自分がやりたいことを見つけていきたいと思います。
- ◆3年の後期から卒業研究に向けた実験・研究が始まります。その際、実験に対する取り組み方は今回の実習で得たことを活かしていこうと思います。実験を行う際は、プロセスを細かく分け、記録を正確に取っていくことを意識すれば、問題が発生した時に原因となるプロセスを発見しやすくなり、改善策を考えることが出来ます。簡単にいくようなことではありませんが、様々な視点から物事を捉える力を向上させるトレーニングとして行いたいです。また、大学の勉強だけでなく普段の生活の中でアンテナを張り、物事を捉える際は「本当にそうなのか？」と一度自分の中で問いかけることを意識してみようと思います。今回の実習で行った実験の際、失敗したことがあり、その原因がしばらく分からないことがありました。そして、後々分かった原因が思いもよらぬ点にあったことに気づきました。この時、「絶対にあっている」と思っていることが実はそうでもないことも普段の生活の中であるのかもしれないと考えました。今まで、このようなことについて深く考えたことはありませんでした。しかし、今回の実習で得た経験から固定概念に縛られず、柔軟に物事を考える力が今の私に必要な力であり、今後の人生に大きく寄与する力であると考えました。
- ◆大学で書くレポートよりも本格的なレポートの書き方を学べたので今後の卒業論文を書く際に参考にしようと思う。
- ◆私は、今後どのような学生生活を過ごすかについては、今回の実習で学んだ縦社会をよりよく保つための礼儀作法や社会で生きる上での常識を意識して学校生活や就職活動に取り組みたいと思った。また、自分が興味を持った資格を1つは取得しようとも思った。実習中に職員の方に資格について教えてもらう機会があったが、就職すると勉強する時間や体力が無くなってしまふことを学んだ。そのため比較的時間があふ大学生の間に1つ以上は資格を取得しておくべきと思った。
- ◆スキルの向上に取り組んでいきたいです。実習を通して、計画性のなさや自己主張の苦手意識など、自分の弱点や改善点に気がつくことができました。実習でのフィードバックをもとに弱点克服、スキルの向上に取り組んでいこうと思います。具体的には、自分で小さな計画を立てて実行するという一連の流れを経験し、時間管理や作業効率の向上などを通して計画性のなさを克服し、成功体験を積むことで自信をつけ自己主張の苦手意識を克服していこうと思います。
- ◆このインターンシップを通じて、論理的なスキルだけでなく、働く現場の雰囲気や様々な業務の大変さを実感することができました。その中でも今後最も役に立っていくと感じた経験は、業務に対して最後まで確認を怠らないということです。設計業務においては決められた寸法通りかどうか、文字表示は正しいかを作成する図面が多かったとしても確認することが求められました。また外での測量業務においては、同じように寸法と周りの環境をしっかりと確認し、工事計画に支障がないような正確性が求められました。作業内容の確認は当たり前ですが、今後研究活動を行なっていく上で肝に銘じていきたいと思います。これから卒業に向けた研究が始まりますが、研究に関する知識をつけることはもちろん、データ等の正確性を重視した研究を行っていききたいです。インターンシップを通じてえた経験は卒業後も役に立つものであると感じ、大切にしていこうと思います。

学生には、報告会・交流会後にアンケートに回答してもらいました。

3. 報告会・交流会アンケート集計結果

このアンケートは、理工インターンシップ・グローバル人材育成プログラムの改善に資するためのデータとして使用いたしますので各設問に回答して下さい。※アンケートの回答が成績等に影響を及ぼすことはありません。

なお、本アンケートの回答をもって報告会を出席とします。必ず回答して下さい。

2024年度 理工インターンシップ・グローバル人材育成プログラム アンケート兼報告会出席票

問 1～3. 学生情報

問 4. 実習形態

〈2年生で出席した方に質問です。〉

問 5. 次年度、理工インターンシップやグローバル人材育成プログラムを受講してみたいと思いませんか。

問 6. 報告会に参加した感想をご入力ください。

〈報告会・交流会について質問です。〉

問 7. 報告会についてどのように感じましたか。

非常に良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

問 8. なぜそう思ったか理由を入力してください。

問 9. 交流会についてどのように感じましたか。

非常に良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

問 10. なぜそう思ったか理由を入力してください。

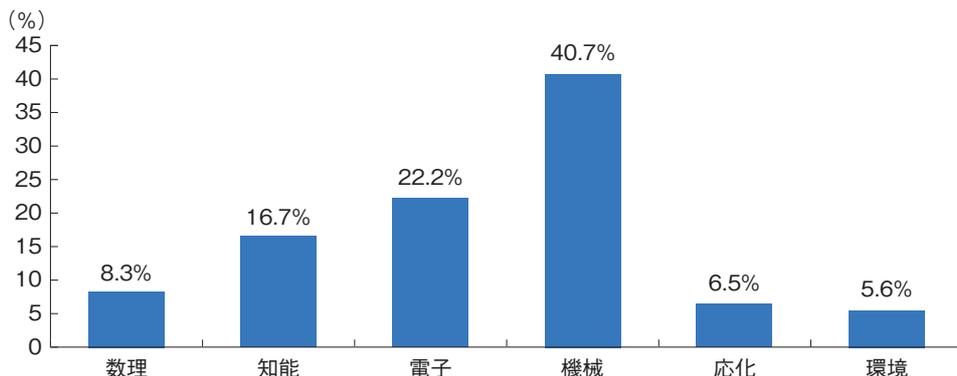
問 11. 交流会で、交流した企業名を入力してください。

※集計は企業名ではなく、交流した企業数を記載

問 12. 全体を通して、次年度に向けて改善点等があれば入力してください。

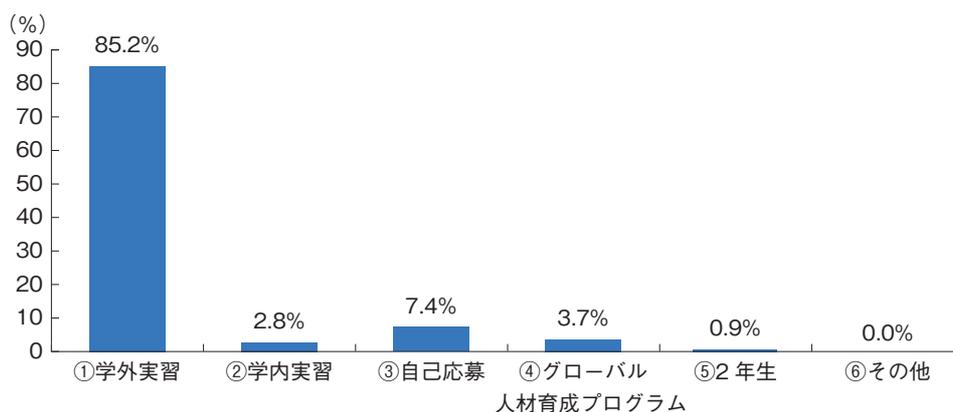
問 2. 所属過程を選択してください。

課程	人数	割合
数理	9	8.3%
知能	18	16.7%
電子	24	22.2%
機械	44	40.7%
応化	7	6.5%
環境	6	5.6%



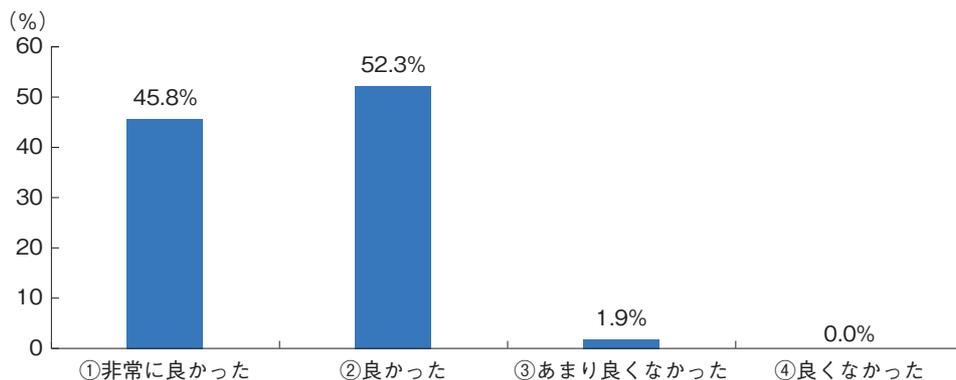
問 4. 実習形態を選択してください。

	数 理		知 能		電 子		機 械		応 化		環 境		全 体	
①学外実習	9	100.0%	14	77.8%	20	83.3%	41	93.2%	7	100.0%	1	16.7%	92	85.2%
②学内実習	0	0.0%	0	0.0%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.8%
③自己応募	0	0.0%	3	16.7%	1	4.2%	1	2.3%	0	0.0%	3	50.0%	8	7.4%
④グローバル 人材育成プログラム	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	2	4.5%	0	0.0%	1	16.7%	4	3.7%
⑤2年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	1	0.9%
⑥その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



問 7. 報告会についてどのように感じましたか。

	数 理		知 能		電 子		機 械		応 化		環 境		グローバル 人材育成 プログラム		全 体	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
①非常に良かった	1	11.1%	8	47.1%	12	50.0%	24	57.1%	1	14.3%	3	75.0%	0	0.0%	49	45.8%
②良かった	7	77.8%	9	52.9%	12	50.0%	17	40.5%	6	85.7%	1	25.0%	4	100.0%	56	52.3%
③あまり 良くなかった	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%
④良くなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



①非常に良かった

- ◆社会勉強に繋がったから。
- ◆みんながどのようなことを目標にして頑張っていくのかを聞いたから。
- ◆他の実習先企業では何をしていたのか分かったから。
- ◆色々な話を聞いたから。
- ◆自分以外の人々がどのような実習をしていたのかが、よく理解できたため。
- ◆他の人の実習での体験談を聞き、他の業種での実態などを知れたから。
- ◆たくさんの企業について業務内容や会社の雰囲気を知ることができたから。
- ◆他の人が何を学んだのか知れたから。
- ◆他企業での内容や他の実習生の考えを聞き、自信が成長するのに必要なことを考えさせられたため。
- ◆他の学生のインターンシップ内容を聞いたから。
- ◆実習先以外の企業の話がたくさん聞けたから。
- ◆他の実習先に行った人の発表を聞いて良い刺激をもらいました。
- ◆たくさんの情報を得ることが出来たから。
- ◆他の企業について知れた。
- ◆知らない企業の情報を得ることができたから。
- ◆貴重な話を聞いた。
- ◆他課程の実習先について一部ではあるが詳しく知ることができたので就活の視野が広がったからです。
- ◆他のインターンシップに参加した同年齢の生徒の発表を聞いて、就活の刺激になり視野が広がるきっかけになると感じたから。
- ◆自分以外の人々がインターンシップに参加することで何を学んだのか、また他の企業でどのようなことが学べたのかを聞くことができたからです。
- ◆様々な人の発表が聞いて、学べることがあったから。
- ◆グローバル人材育成プログラム報告会は新鮮な報告会であり、興味が湧いたから。
- ◆プレゼンを通して、他の企業ではどのようなインターンシップを行っていたのか知ることができて、就活の視野が広がったから。
- ◆他の学生が行なった活動を知ることができ、これからの自身の行動に生かせると感じたから。
- ◆報告者の発表がとても良かったから。
- ◆他の人の活動を聞くことができたのでその後の交流会の

参考になった。

- ◆自分以外の人たちがどの企業でどのような体験をしたのかを知れたから。
- ◆学生の発表のみでなく、企業からの発表を聞くことができたため。
- ◆自分の行った企業だけでなく他の企業の話を知りたいと考えていたので、実際に行った人から内部の活動内容を聞いたのは非常にためになりました。
- ◆自分と違うインターンシップ先の話を知ったことと、自分とは違う感想を持った人の意見が聞けたから。
- ◆他の企業のインターンシップを知ることができたため。
- ◆様々な体験を知ったから。
- ◆発表が分かりやすく、スムーズに進んでいたから。
- ◆インターンシップの報告会や交流会では、他の参加者の経験を共有でき、自分の学びを整理する機会となる。また、異なる視点やアドバイスをもらえ、自身の成長や改善点に気づける。業界関係者との人脈形成の面でも良いと思ったから。
- ◆機械だけでなく様々な職種について話を聞いたので面白かった。
- ◆素直に、同じ学年の同じように2週間経験してきた者として、10分間の濃いパワーポイント説明を噛まずにやっていく姿に感動しました。
- ◆皆さん話し方が上手で、各課程のインターンシップについて詳しく知ることが出来たため。

②良かった

- ◆みんながインターンを通して感じたことなど知ることができたから。
- ◆他の企業だとどのようなことをしていたのか知ることができたので良かった。
- ◆自分が参加しなかった他企業でどのような内容の実習が行われたか知ることができた。
- ◆自分以外の実習先が、どんな事をやっていたのか話を聞くことで社会に出た時のイメージが持てるから。
- ◆実習生の率直な意見が見えたため。
- ◆自分が参加していない業種の実習内容を知れて良かった。
- ◆他の人がどんな実習をしたのか聞いて良かった。
- ◆発表されていた内容が分かりやすく、時間も適切であったと感じたから。
- ◆課程別での発表で、様々な経験を知ることが出来たから。

- ◆他の学部生がどのような実習を行ったか知ることができたため。
- ◆自分の企業で行ったこととの違いを知ることができた。
- ◆自分で発表することで、実習を振り返ることができ、発表の経験を積むことが出来たから。
また、他の人が感じたことを聞くことができて良かったから。
- ◆他の人のインターン事情を知ることができ、いい刺激と経験になったから。
- ◆さまざまな取り組みを見ることができたから。
- ◆色々な人のインターンでの体験を知ることができ良い刺激となったから。
- ◆各課程の人がどのような経験を積んだのか、各々が感じたことを聞いて学べたから。
- ◆他の学生のインターンシップでの学びを知ることができ、大変勉強になったから。
- ◆色々な話を聞くことができたため。
- ◆他のインターンシップ先での活動を知ることが出来たから。
- ◆他の企業での実習内容について知ることができた。発表者の方の話を聞いて共感することができた。
- ◆同じ学外実習に参加した人や、グローバル人材育成プログラムに参加した人の話を聞くことができ勉強になったと共に、自分の刺激にもなったから。
- ◆新しい学びを見つけた。

- ◆他の企業について知れたから。
- ◆他の人がどういふことをしたのかについて知ることができた。
- ◆他の課程の学生のインターン先で具体的にどのような実習をしたのかを知れたし、色々な企業について知ることが出来たから。
- ◆実習先の企業について、実習報告を通して振り返りができたから。
- ◆他の人のインターンシップについて知ることができた。
- ◆同学年の学生の方がどのような実習をしていたかを具体的に知ることができたから。
また、学科問わず、先端理工学部それぞれの学科の進路について知ることができたから。
- ◆他の人がインターンでどのような実習をしたのかを聞く良い機会になったから。
- ◆他の企業がどのようなことを行っていたのか知れた。

- ◆他の人がどんな活動をしていたか知ることが出来たから。
- ◆他の企業での実習内容を知ることができたから。
- ◆落ち着いて話が聞けた。
- ◆他の人がどのようなことをしているか知れたから。
- ◆他の企業や海外での経験を聞くことで、刺激を受けたから。
- ◆自分以外の人の実習の様子を知ることが出来たので良かったから。
- ◆面白い
- ◆人前で喋ると言う貴重な体験ができた。
- ◆自分以外の人の実習内容を知れて良かった。
- ◆他の人の実習内容について知ることができた点が良かった。
- ◆自分の知らないことを聞けた。
- ◆発表者の発表がとても上手だと感じた。
- ◆自分のインターンの内容はプログラミングをするだけだったので周りがどうだったのか気になっていたから。
- ◆様々な企業の発表を見ることができた。
- ◆他の企業などのインターンの内容を知ることが出来たから。
- ◆自分が行った企業とは別の企業の仕事内容なども知る事が出来たから。
- ◆他の生徒がどのような体験をしてどう感じたのかを聞けたから。
- ◆様々な企業がどのようなことをしているのか、実習でどのようなことを学ばれたのかを知れて良かったです。
- ◆自分が行くことが出来なかった他企業の情報や、実習内容を知ることが出来たため。
- ◆それぞれがどのような実習をしたのかを知れた。
- ◆他の企業について知れたから。
- ◆スムーズに発表していたから。
- ◆他の実習先に興味を持てるから。
- ◆他の学生と学びを共有することができたため。
- ◆他にインターンシップに行っていた人が気づいたことを聞いて、自分の体験ではなかった発見や、考えの視点という「気づき」があったから
- ◆様々な企業を見ることができたから。
- ◆他の会社の魅力を知ることができたから。
- ◆自分が行った企業以外の人と交流や情報の交換が出来たため。
- ◆さまざまな企業について知ることができた。
- ◆色々な人の体験を聞けたから。
- ◆自分が行っていない企業のことや、グローバルなインターンシップの詳細まで知れたから。
- ◆どのような実習先があったかを知れたから。
- ◆同じ学年の実習生が素晴らしいプレゼンを披露しており、感心したから。
- ◆他のインターンがどのような様子だったのか知れたから。また、発表内容と比較して内省できたから。
- ◆様々な実習内容を知る事が出来てよかったが、発表時間が短いと感じた。
- ◆発表者の方の説明がわかりやすく、時間も適切だと感じられたから。
- ◆参加していない理工インターンシップの様子も知ることが出来たから。
- ◆色々な体験について聞けた。

③あまり良くなかった

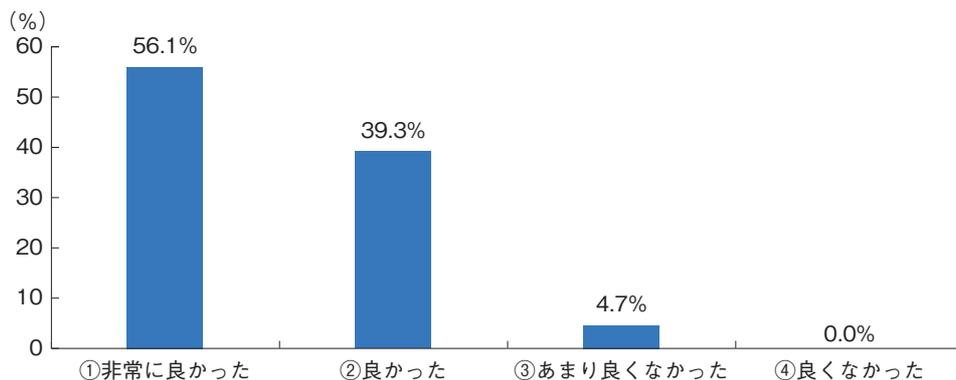
- ◆予定よりおしており休憩時間が短かったから。
- ◆プレゼン時間など長引いてる点が残念だった。
- ◆キャリアに影響を与えるような情報はあまり得られなかったから。
- ◆部屋が非常に寒くてつらかった。

④良くなかった

回答無し

問 9. 交流会についてどのように感じましたか。

	数 理		知 能		電 子		機 械		応 化		環 境		グローバル 人材育成 プログラム	全 体		
①非常に良かった	2	22.2%	12	70.6%	17	70.8%	26	61.9%	1	14.3%	1	25.0%	1	25.0%	60	56.1%
②良かった	5	55.6%	4	23.5%	6	25.0%	16	38.1%	6	85.7%	3	75.0%	2	50.0%	42	39.3%
③あまり 良くなかった	2	22.2%	1	5.9%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	5	4.7%
④良くなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



①非常に良かった

- ◆色んな企業について知れて就活に役立ったから。
- ◆色んな企業の話を聞けたから。
- ◆多くの会社と交流できたため。
- ◆沢山の会社について知れたから。
- ◆色々な企業の情報を得ることが出来たから。
- ◆興味のある企業の方と交流でき、理解できていなかった企業の強みを知ることができたため。
- ◆いろいろな企業に自分の知らない分野について、詳しく説明していただけたため。
- ◆インターンシップ先と別の会社のお話も聞けたから。
- ◆企業情報を得られ、質疑応答をその場でできるから。
- ◆企業の業務内容や、採用情報などを直接聞くことが出来たから。
- ◆色々な企業の方のお話を聞いて知らなかった企業について知ることが出来たから。
- ◆たくさんの情報を得ることが出来たから。
- ◆今まで知らなかった企業のことを知るきっかけとなったから。
- ◆他の企業についても知ることが出来た。
- ◆知らない企業の情報を得ることができたから。
- ◆貴重な話が聞けた。
- ◆他の実習先の企業について直接お話できたので良かったです。気になるところも質問する機会があったからです。
- ◆実際に自分のお世話になった企業の方たちと話す機会を得ることが出来たからです。
- ◆様々な企業の方々から興味深い話を聞けたから。
- ◆色々な企業と交流を持つことができ、貴重な体験をすることが出来たから。
- ◆実習中に実習担当者とお話をする時は緊張していたが、今日はお菓子などがあるおかげで場が和らぎとても話やすく有意義な時間となった。
- ◆インターンシップでお世話になった企業以外の方ともお話ができ、とても良い時間になったから。
- ◆自分がインターンシップでお世話になった企業以外にも関わることができ、就活の視野が広がったから。
- ◆普段では出会うことのない企業とお話できてとても良い機会になったから。
- ◆インターンに行けなかった企業の社員にインターンのことや社風など様々な事を聞くことができたから。

- ◆インターン先の人事の人と長い時間話す機会がとれたから。
- ◆自分の知らない企業の業務内容を知れたから。
- ◆自分がインターンで伺った企業の方ともう一度お話しする機会があり良かったから。
- ◆様々な企業の方とお話をして見聞を深められたので良かったから。
- ◆また別の分野の企業の話が聞けた。個別の質問がしやすかった。
- ◆たくさんの企業のお話を聞けたため。
- ◆多くの企業の方と交流できて良かった。
- ◆様々な企業の人と交流出来て良かった。
- ◆様々な企業について説明を受けることが出来たから。
- ◆インターンシップに参加していない企業についても詳しく知れたから。
- ◆インターンシップの報告会や交流会では、他の参加者の経験を共有でき、自分の学びを整理する機会となる。また、異なる視点やアドバイスを得られ、自身の成長や改善点に気づける。業界関係者との人脈形成の面でも良いと思ったから。
- ◆お菓子などが充実して、また企業の方の話を聞けたため。
- ◆様々な企業の方と出会えた。
- ◆自分の行っていた企業の周りからの評価も見ることが出来るし、また新しく自分の行ってみたい企業を探ることができたからです。
- ◆初めて会う企業の方とも、就活や会社についてお話しすることができたため。
- ◆多くの企業のお話を聞けたから。
- ◆学生と企業のグループをつくることで、少人数で企業の方の話を聞くことができ、質問もしやすい雰囲気だった。

②良かった

- ◆怖いという感情が少しあったが親切に説明して下さり、今後のインターンや説明会に行きやすくなった。
- ◆インターン先の社員の方と会話することが出来た。
- ◆自分が行った企業の方ともう一度しっかり話して、聞く事が出来たから。
- ◆実習先以外の企業の方にもお話が聞けてとても有意義でした。
- ◆色々な企業の方と話すことができ、色々な事について考える機会を得られたから。
- ◆お世話になった企業に感謝を伝えることが出来たから。

- ◆自分の知らない企業のことを知ることができ良い機会であったため。
- ◆他の企業について知る機会だったから。
- ◆様々な会社と近しく交流することがあまりないため。
- ◆インターン先の方とも喋ることができ、他の企業の方とも喋れたから。
- ◆インターンでお世話になった方にもう一度お話しできたと共に様々な企業とお話しすることができたから。
- ◆企業の人から貴重なお話を聞けたから。
- ◆他のインターンシップ先がどういった企業だったのか詳しく話を聞くことができたから。
- ◆改めて企業の方に直接お会いできたため。
- ◆企業の人と直接話ができる貴重な機会となり、普段聞けないことを聞けたから。
- ◆様々な他社の話を聞けたから。
- ◆少人数で話を聞く機会があって有り難かった。
- ◆興味を持った会社の人と会話することができたから。
- ◆興味をもった会社の人とその会社のインターンシップを体験した学生の人と会話をして、会社について深く知ることができたから。
- ◆企業と深く交流できた。
- ◆交流会で様々な企業の方々と交流することができ、たくさんの企業を知ることができ、就職活動に役立てることが出来たから。
- ◆自分の興味のある分野の担当の人と色々なお話を出来たから。
- ◆いろんな企業を知ることができた。
- ◆自分が今まで知らなかった企業を知る良いきっかけになったと感じたから。
- ◆企業の方と直接お話しできる良い機会であったから。

- ◆また、興味のある企業のお話を直接伺うことが出来たから。
- ◆他の企業について知れたから。
- ◆自身の興味のある分野やあまり知らない分野などの企業を知れたから。
- ◆実習先の方に改めてお礼を言える機会だったから。
- ◆インターンシップについて企業の方から聞けたため。
- ◆詳しく見ることができたから。
- ◆企業のお話を直接聞けたため。
- ◆知らなかった企業の方から詳しい話を聞けたから。

◆企業の方から声をかけていただけて、色々な企業を知れたから。

◆対面でしか聞けないような話を聞かせていただき、非常に有意義であったため。

③あまり良くなかった

◆声が聞こえづらかった。

◆グローバルの人たちは自分の学科に合った場所では無いところで集まっていたため。

◆会場が狭かった。「交流してください」で丸投げだったため皆戸惑い気味で、交流が滑らかでなかった。

◆他の企業の説明があまり聞き取りにくかったです。

◆お話しさせていただく事ができる企業が少なかった。

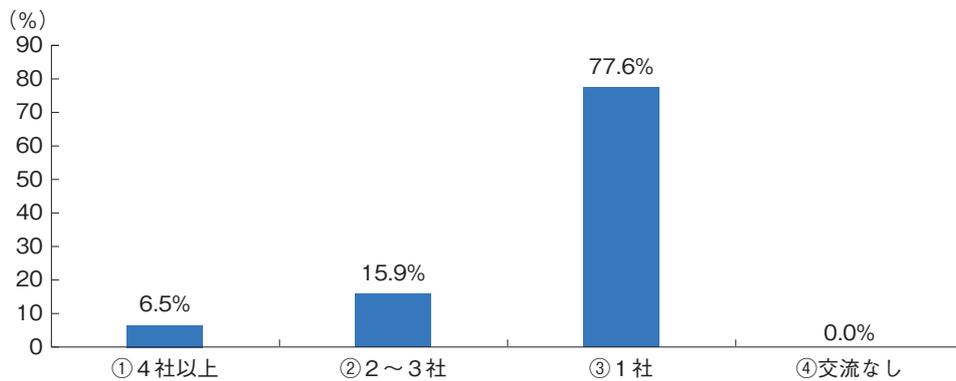
④良くなかった

回答無し

問 11. 交流会で、交流した企業名を入力してください。

※集計は企業名ではなく、交流した企業数を記載

	数 理		知 能		電 子		機 械		応 化		環 境		グローバル 人材育成 プログラム	全 体		
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率		
①4社以上	1	11.1%	0	0.0%	4	16.7%	2	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	7	6.5%
②2～3社	1	11.1%	4	23.5%	5	20.8%	5	11.9%	1	14.3%	1	25.0%	0	0	17	15.9%
③1社	7	77.8%	13	76.5%	15	62.5%	35	83.3%	6	85.7%	3	75.0%	4	1	83	77.6%
④交流なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%



問 12. 全体を通して、次年度に向けて改善点等があれば入力してください。一〇

- ◆時間に余裕があればいいと思った。
- ◆企業に対しての質問を事前に用意しておこうと思った。
- ◆交流会にて、グループ分けを行わず、自由な企業に質問をできるようにして欲しかったです。
- ◆交流会の最初の企業紹介のときに「会社を紹介する時間があるとは思わなかった」と皆様がお話しされており、事前に企業の人にそのことを伝えておくべきだったと思う。
- ◆パンフレットを持っていない企業の方もおられたので、事前にそういう機会があるということを知らせておくこと。
- ◆交流会の場所を大きくしていただきたくさんの企業と交流しやすいようにして欲しい。
- ◆交流会で荷物を置きたかった。
- ◆お世話になった企業の方が来ていない人たちが交流会であまり交流できていなかったように見えたので、次年度ではそういった人たちへの配慮をもう少ししてほしいと感じた。
- ◆機械、応用化学の方の内容がさっぱりだったのでもう少し細かく小規模で分けて欲しかった。
- ◆交流会の時間を延ばしていただきたいです。
- ◆2 回生や 1 回生をもっと報告会に参加させてみる。
- ◆交流会の時間がもう少し欲しかった。
- ◆交流会の時間配分。
- ◆交流会の時間を増やして欲しい。
- ◆発表に対する時間などの管理も必要だと感じた。
- ◆とても良かったので機会を増やして欲しいです。
- ◆交流会の時間が少し短く感じたので、発表会を短くするか、交流会を長くしたほうが良いと思いました。
- ◆もう少し、交流会の時間が欲しいです。
- ◆交流会の際、企業の方とお話する時に最初どう周ればいいのか分からなかったため、次年度は 4、5 人のグループを作り企業の方を 5 分ごとに回るようなものがあればよかったと感じた。
- ◆交流会で、他の人が話していると話をきけなかったりするので、時間内にお話を伺いきれなかったので、均等にお話しできると嬉しいと思いました。
- ◆最後の交流会の時間をもう少し取っても良いと思います。
- ◆交流会で 1 企業あたりの時間を決めて、様々な企業の方々の話を聞きたい。
- ◆交流会の時間が短く、時間配分が決められている方が色々な方と話せたと思う。
- ◆お世話になった企業の代表者 1 名でも良いので報告会前でも来て貰えるようにして欲しかった。
- ◆発表内容や（発表された方が向かわれた）実習先企業の資料があれば嬉しかった程度。
- ◆グローバルの人たちも自分の学科のところに固めて欲しい。

Ⅷ. 受入機関アンケート集計結果

1. 「理工インターンシップ（学外実習）」に関するアンケート集計結果
2. 「報告会・交流会」に関するアンケート集計結果

実習終了後、学外実習受入機関の皆様を対象にアンケート調査を実施しております。

アンケートから問題点・改善点等を見出し、次年度以降の学生指導に反映できるよう努めております。

受入機関アンケート集計結果

学外実習受入機関の皆様へ、下記の項目についてアンケートにご協力をいただきました。

1. 「理工インターンシップ（学外実習）」に関するアンケート

実施いただきましたインターンシップにつきまして、各設問にご回答をお願いします。

また、その他お気づきの点がございましたらご意見・ご感想をお聞かせください。

※アンケートの結果は、今後の理工インターンシップ改善に資するためのデータとしてのみ使用いたします。このほかに利用することは致しません。

設問1 実習生のマナー・勤務態度はいかがでしたか。

大変良かった 良かった あまり良くなかった 悪かった

設問2 1でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

()

設問3 スキルについて、実習生は貴社の求めるスキルを持っていましたか。

十分持っていた 持っていた あまり持っていなかった 持っていなかった

設問4 実習生に求めるスキルがあればお聞かせください。

()

設問5 実習生は実習を通じて成長したと思われませんか。

強く思う 思う あまり思わない 思わない

設問6 5でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

()

設問7 「理工インターンシップ」全体を通して、次年度に向けてお気づきの点やご要望などございましたらお聞かせください。

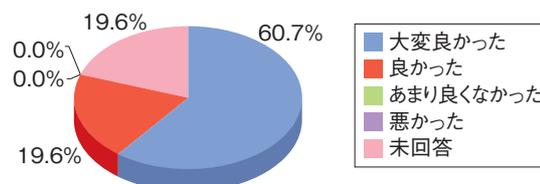
()

2024 年度 理工インターンシップ（学外実習） 終了後アンケート（受入機関）

回答数 45 社 実習実施企業 56 社対象

設問 1 実習生のマナー・勤務態度はいかがでしたか。

	回 答 数	
大変良かった	34	60.7%
良かった	11	19.6%
あまり良くなかった	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
未回答	11	19.6%



設問 2 1 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

〈大変良かった〉

- ◆指導したことを素直に受け入れて実習されており非常によかったです。
- ◆挨拶、礼儀がしっかりできていました。また、始業時間にも遅れることなく 9 日間入社いただきました。
- ◆時間やルールを守り誠実に行動されました。
- ◆挨拶、報連相がきちんとできていました。
- ◆挨拶をする、時間を守る、人の話をよく聞く、課題に対して真面目に取り組むなど、実習に対する姿勢からマナーと態度が良いと思われた。
- ◆とにかく熱心に学ばれている姿勢と、自らが挨拶を行っている姿勢に感心した。
- ◆明るく社員と交流していた。
- ◆前向きに取り組んでもらえてました。
- ◆インターンシップのゴール達成にむけて自主的に講師、他のインターン学生にアプローチしていました。
- ◆時間を守った。受け答えは丁寧だった。周囲の社員と問題なくコミュニケーションできた。
- ◆挨拶、時間厳守、言葉使い、実験時の保護具着用等が出来ていた。
- ◆礼儀正しくしっかりと挨拶をしていて、説明したことに対してメモを取る姿勢も見られた。
- ◆時間の管理、話の聞き方話し方、学び取ろうとする姿勢が良く感じ取れた為。
- ◆遅刻なく来社いただき、また、礼儀作法もしっかりされていきました。
- ◆事務作業では、依頼した業務を指示通り効率的に進めていた。またミスもなく、正確に業務を行えた。
- ◆どの講義や実習に対しても真面目に積極的に参加してくれていたため。
- ◆目的を持ってインターンシップに参加し、積極的に行動されていたから。
- ◆熱心にインターンシップ研修を受けていただき、質問も多かったゆえ。
- ◆終日、集中して取り組めていたため。
- ◆目を見て挨拶をされ、座学や装置説明においても真剣に聞いておられました。不明点があれば質問してくる、前向きな姿勢も感じられました。
- ◆礼儀正しく真面目にご対応いただいていた。
- ◆指摘しなくてもあいさつがしっかりできていたので、各受入れ部門で好印象でした。
- ◆ルールを守り、態度良く勤務していたことを実習部署からもヒアリングできたため。
- ◆礼儀正しく大変真面目に取り組まれていました。最初は緊張もあったかと思いますが、慣れてくると社員ともコミュニケーションを取り、分からない点は質問し、理解を深めておられました。

- ◆挨拶ができていたため。
- ◆システム構築の実習において、終始自分で調べ意欲的に作業している姿が見られたため。
- ◆入社時・退社時の挨拶や業務に対する質問などを積極的に行っていたため。

- ◆参加してくれた学生は、挨拶も元気にしっかりしてくれていましたし、気遣いなどもでき、礼儀正しかったので、非常に印象がよかったです。
- ◆非常に熱心に、興味を持って取り組んでくれていたため。

②良かった

- ◆毎日時間通りに来れた。課題に真面目に取り組んだ。
- ◆日常の挨拶がしっかりできていたのと、課題に対してまじめな対応が感じられた。
- ◆学校で学んだこと以外も含む幅広い業務を経験してもらったが、どの業務にもひたむきに取り組んでくれたため。
- ◆あいさつもしっかりできていた。
- ◆挨拶がしっかりできました。
- ◆全体を通して真面目に取り組めていたため。

- ◆私語も無く、取り組みの姿勢も良かったからです。
- ◆きちんと挨拶ができていた。わからないことがあると聞きに来た。
- ◆挨拶もきちんとされており、弊社社員や他大学のインターンシップ生とのコミュニケーションもしっかりとれていました。一方で、研修での不明点等を質問できずに時間が経過してしまった点も見受けられたため上記選択いたしました。

〈あまり良くなかった〉

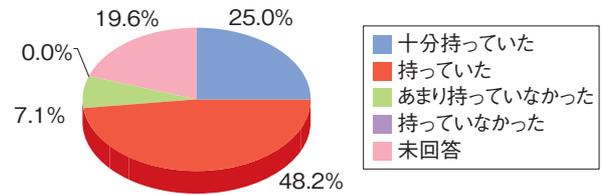
回答なし

〈悪かった〉

回答なし

設問3 スキルについて、実習生は貴社の求めるスキルを持っていましたか。一

	回 答 数	
十分持っていた	14	25.0%
持っていた	27	48.2%
あまり持っていなかった	4	7.1%
持っていなかった	0	0.0%
未回答	11	19.6%



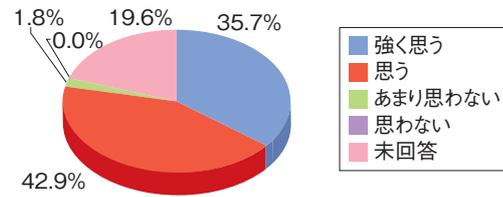
設問4 実習生に求めるスキルがあればお聞かせください。一

- ◆社内の人と話すコミュニケーション能力。
- ◆パワーポイントの基本操作がわかっているといい。
- ◆特にございません。期待値を上回っておりました。
- ◆学びたいといった姿勢があれば、学科問わず参加いただきたいです。
- ◆学ぼうとする姿勢と、謙虚な態度。
- ◆しっかり意思疎通ができる。
- ◆学んでいる専門スキルよりも、挨拶や礼儀的な事、コミュニケーションがしっかりできていの方が当社としては印象がよいと思います。
- ◆PC 操作、言葉遣い。
- ◆求める特別なスキルは有りませんが、何事にも真剣に取り組む姿勢が重要と考えます。
- ◆プログラミング。
- ◆会社は、やはり「集団（チームワーク）」で事業を行っているため、対話、協調性への能力は必須。
- ◆基礎的な事は問題はなかった。
- ◆化学薬品の取り扱い時の注意点や危険性の知識。
- ◆PC による業務管理。危険物に関する知識。
- ◆CAD の操作スキル、プログラミングスキルなど。
- ◆Office ソフトの操作スキル。

- ◆分からないことをそのままにせず質問できること。
- ◆コミュニケーション能力。
- ◆1 つ以上のプログラミング言語を使ったプログラミング経験。
- ◆弊所では、環境調査や化学分析の実習を行うための実務上のスキルが必要ですが、大学の授業ではここまで到達することは難しいと思われます。ただし、一般教養として環境問題や公害に関する知識がある方が、実習に役立つと思われます。（例えば、テレビニュースで取り上げられるような水道水中の PFAS、アスベストによる健康被害など。）
- ◆本から知識を得ようとする力、理解する力。化学の基礎知識。
- ◆大学の講義で学ぶ基礎知識。
- ◆未経験の知識／技術を能動的に取得する姿勢。
- ◆報告／連絡／相談（コミュニケーション力）。
- ◆書籍から知識を貪欲に吸収しようという強い意思、自宅学習の習慣、これまでに学んだ基礎知識。
- ◆工学系の基礎の知識
- ◆SW の CAD 操作の基本知識
- ◆担当者等とのコミュニケーション

設問 5 実習生は実習を通じて成長したと思えますか。

	回 答 数	
強く思う	20	35.7%
思う	24	42.9%
あまり思わない	1	1.8%
思わない	0	0.0%
未回答	11	19.6%



〈その他の回答〉

なし

設問 6 5 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

〈強く思う〉

- ◆職場の雰囲気を感じていただけ、インターンシップ中にも相談や質問を積極的にしていただいた。
- ◆実習前は緊張した様子でしたが、次第に馴れてきた様子がコミュニケーションで感じられ、成長したと思われま
- ◆技量が格段に上がったかと言われるとそうではないが、社会に出ることの意味や会社というものの雰囲気などは十分感じてもらえたかと思えます。
- ◆最初は緊張していたが、積極的に社員とコミュニケーションを取っていた。
- ◆社内の最終報告会で、自分の経験を堂々と発表した。今後の学内での学習において、何をすべきかを明確にしていた。
- ◆コミュニケーション能力も高く、取材先では状況に応じて対応が出来ていた。
- ◆メーカー企業としての役割・今後の研究にどう活かしていくかを、的確に発表されていたから。
- ◆報告書に後輩に対して、学外インターンシップを受けるよう推奨していたことから、ご自身の成長を感じられた。
- ◆業界の知識および、プレゼンなど物事をまとめて伝える力を身に着けて頂いたように思います。
- ◆当初は質問もなかなかできずにいたものの、最終的にはコミュニケーションがしっかりとれるなど、ご本人が目標の一つとされていたコミュニケーション能力の向上が見られたため。
- ◆慣れない環境で一人という状況の中、難しい内容も多かったと思いますが、社員とコミュニケーションを取り、しっかりアウトプットして頂きました。
- ◆成果物に対して自信を持たれていた。
- ◆実習報告書を拝見し、当社事業への理解や実務体験に基づく新たな気づきを持たれており、インターンシップを通じて、実社会で働くことを肌で感じられたという印象を受けたため。

〈思う〉

- ◆実務を通して、仕事とは何なのかを考えてもらえたと思います。
- ◆初日と最終日を比べると、表情や態度に自信が見受けられました。
- ◆製造業で働くことや、社会人と学生の違いなどを学び取ってくれました。
- ◆自分の力の無さに腹立たしく思っているようだったから。
- ◆実習では当社の製造工程を一通り経験して頂きましたが、それぞれの作業に於いて貴重な体験との感想が得られた。
- ◆実習テーマ「協働ロボットを用いたシート状物の搬送」に対して、基礎的な動作から試行錯誤して、目標とした搬送プログラムを完成させたことができたため。また、

トラブルが起きたときに物理現象を確認しながらプログラムを改善する必要があり、自動化の奥深さの一部を体感してもらえたため。

- ◆設計からプログラム、デバッグまで一連のソフトウェア工程を実習しました。ソフトウェア業界の仕事をイメージしていただけたと思います。
- ◆現場での実習を通じて大学の授業の重要性を認識できたこと。
- ◆授業で習った一つ一つの「点」が、本インターンシップを通じて「線」につながったように実習生を見ていて感じた。
- ◆コミュニケーションが良くなった。
- ◆仕事への取り組み方、問題に直面した時の対処方法を学習いただきましたが、今後の学業にも活かせると考えております。
- ◆インターン期間中で周囲とのコミュニケーションを取る

〈あまり思わない〉

- ◆専門の技術や知識の講義や実習は行いましたが、一朝一夕では身につけませんので、技術の見聞や会社組織や部

ように改善していったため。

- ◆目標に対し、PDCA サイクルを回し、成果を出せたため。
- ◆社会で開発に携わるには、これまで学校で学習した総合力が大事なことを知り、自分はこれまで努力してこなかったことを深く反省し、意欲的だったため。
- ◆最終日に実習内容の発表をしていただいておりますが、初日とは見違えるようにハキハキと発表されていたため。
- ◆当初は就職活動への意識も薄かったが、インターンを進めていくうえで今から、就職活動を行う事の重要性に気づき自ら職員へ質問していた。
- ◆実作業においても、仕事体験を行う事で責任感を持ちながら発表を迎えることができていた。
- ◆報告書の中で、当社が指導した事を自分なりに理解し、普段の学びに通じる事を見つけてくれたから。

門別の分業による装置完成工程などを直に感じて頂く実習になりました。

〈思わない〉

回答なし

設問 7 「理工インターンシップ」全体を通して、次年度に向けてお気づきの点やご要望などございましたらお聞かせください。

- ◆次年度も引き続き先端理工学部の学生のご参加をお待ちしております。
よろしく願いいたします。
- ◆次年度もぜひよろしくお願いいたします。
- ◆特にございませんが、学生の興味や関心に基づいて実習先を選定することが重要であると思われまます。
- ◆私は本年度で退官で、貴大学のますますの発展を祈念しております。
- ◆実習開始時に実習全体を通しての課題を与える必要を感じております。
- ◆インターンシップから採用活動へと繋がるような流れをしっかりと作っていきたい。
- ◆満足のいく大学側の対応だったと思います。
- ◆実験、設計製図、加工実務など、明確な希望があれば、計画が立てやすいです。

- ◆インターンシップありがとうございました。
演習が C 言語を使用して、自分で考えてプログラムできるスキルが必要になるのですが、実習生はスキルがあり、目標を持ってインターンを進めていただくことができました。
- ◆京都から通勤していただくことが、夏場の暑い時期に学生の負担にならないか不安に思えた。JR の遅れなどで、実習時間が不足する場合の対応が柔軟にあるといい。
- ◆色々ご配慮いただき、ありがたいと考えております。
特に要望はございません。
- ◆他のインターンシップの受け入れもあり、2 週間は負担が大きく、5 日間で実施になると大変ありがたいです。
- ◆また来年度も優秀な学生をご紹介いただけますと有難いです。

- ◆インターンシップは採用と直接関係はありませんが、貴大学のインターンシップに参加後当社に入社される学生が増えております。ついては、弊社の勤務地（阪急神戸線神崎川駅）に通いやすい学生を派遣して頂けるとありがたいです。
- ◆弊社でも、開始直後により社員や他の参加者と交流できる時間を設けることでよりスムーズな実習になるのではという気づきがありました。次年度もぜひよろしくお願いたします。
- ◆自主的にインターンシップを希望される学生なので、真剣に取り組む姿勢が感じられます。
- ◆報告後の交流会では生徒が色々な会社と話ができるようにしていただければと思います。
- ◆今年は、非常に遅い台風に気を使いながらの実施でした。来てくれた学生は比較的近い距離の学生でしたので、よかったです。あまり遠方だと公共交通機関の乱れや運行中止なども関係してくるので、可能な範囲で距離的に近い学生が望ましいと感じました。

2. 「報告会・交流会」に関するアンケート

報告会・交流会について各設問にご回答をお願いします。またその他お気づきの点がございましたらお聞かせください。

設問 8 2024 年度の報告会・交流会のご出欠についてご回答ください。

※欠席の場合は以上でアンケートは終了です。

出席 欠席

設問 9 報告会について

非常に良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

設問 10 9 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

()

設問 11 交流会について

非常に良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

設問 12 11 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

()

設問 13 報告会・交流会全体を通して、次年度に向けてお気づきの点や要望などございましたらお聞かせください。

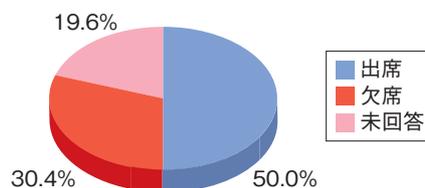
()

報告会・交流会 終了後アンケート（受入機関）

回答数 28 社 報告会・交流会出席回答 28 社対象

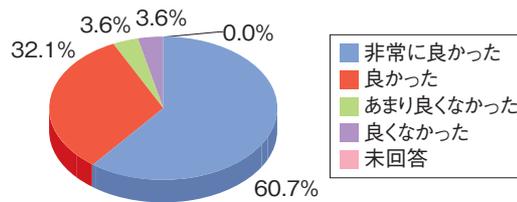
設問 8 2023 年度の報告会・交流会のご出欠についてご回答ください。 —●

	回 答 数	
出席	28	50.0%
欠席	17	30.4%
未回答	11	19.6%



設問 9 報告会について —●

	回 答 数	
非常に良かった	17	60.7%
良かった	9	32.1%
あまり良くなかった	1	3.6%
良くなかった	1	3.6%
未回答	0	0.0%



設問 10 9 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。 —●

〈非常に良かった〉

- ◆他社のインターンシップ内容についてしることができた。
- ◆他社事例の勉強になった。
- ◆他の学生の振り返り内容を確認することは、自分自身の振り返りにも役立つと思います。
- ◆理工インターンシップで学生の皆さんが成長される姿は、見ていて、聞いていてとても刺激になる。
- ◆他社のインターンシップの内容を聞くことができ、今後の参考にさせていただきます。
- ◆他社がどのような内容のインターンシップを実施しているか知ることができたから。また、学生が感じた内容もストレートで、今後の参考になった。
- ◆学生に対してどのようなインターンシップをしているかを発表して会社をアピールできるからです。
- ◆それぞれの学生の報告から、受入企業の取り組みや工夫が分かり、今後の参考になった。
- ◆学生も 1 人 1 人が自分の将来のために、真剣に話をする姿勢であった。
- ◆他社の事例を知れた。
- ◆時間配分などが適切でした。
- ◆他企業へ参加された学生の発表を拝聴することで、弊社インターンシッププログラムのブラッシュアップの参考になりました。
- ◆他の会社での取り組みや感想が聞けて、今後役に役立つと思いました。
- ◆発表を聞き、すべての発表者の方が、インターンシップを通じて様々な気づきを得られており、成長されていることを実感できたため。

〈良かった〉

- ◆他社の実例が聞けたから。
- ◆他社での実習内容を参考とする事ができた。
- ◆学生と直に対話でき、考えを直接聴取することができた。
- ◆他の学生や受け入れ企業の発表内容を多く知ることができたため。
- ◆学生が実習に対してどう思われているのかの答え合わせになるため。

〈あまり良くなかった〉

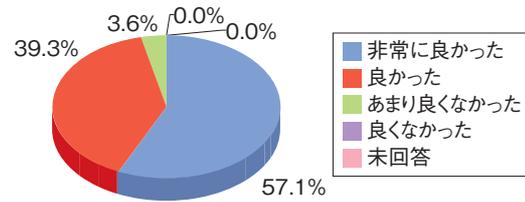
回答なし

〈良くなかった〉

- ◆他の学生のインターンシップの取り組みや内容が知れた。但し、来てくれた学生の発表が無いのは少し残念。
(時間の都合上仕方がないが)

設問 11 交流会について

	回 答 数	
非常に良かった	16	57.1%
良かった	11	39.3%
あまり良くなかった	1	3.6%
良くなかった	0	0.0%
未回答	0	0.0%



設問 12 11 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

〈大変良かった〉

- ◆インターンシップに参加した学生以外にも交流会で弊社の魅力を知っていただけた。
- ◆各テーブルで会社紹介の時間を設けていただけたのが良かったです。
- ◆ウェブが広く活用されるようになりましたが、まだまだ対面でのコミュニケーションが勝ると思います。特に学生時代は対面での交流会を開催することに賛成です。
- ◆昨年よりは多くの学生と話げできた。テーブル・グループ分けが良かったです。ただし少し時間が短く感じたので、もうあと 30 分くらい欲しいかも。
- ◆学生と直に対話でき、考えを直接聴取することができた。
- ◆先生方と話げできた、興味を持たれた学生と話げできた。
- ◆昨年度に比べて企業 PR の時間を作っていただけたのは良かったと思います。また、教職員の方々の対応も良

かったと思います。

- ◆チームごとに会社の紹介タイムがあり、学生の皆さんに事前に会社のことをお伝えすることができたため。
- ◆学生・先生方とお話しをする機会を設けていただけたから。
- ◆交流会で学生からのご意見を聞くことができたからです。
- ◆学生 1 人 1 人と話しが出来る時間が確保されていた。
- ◆インターンに参加してくれた学生に加えて多くの学生と交流ができた。
- ◆多くの学生と交流でき、どのようなところに興味をお持ちかなど参考になるお話を伺えました。
- ◆資料を配布させて頂く事ができましたので、多くの学生に弊社を知って頂く機会になりました。
- ◆学生だけでなく先生方とのお話ができて、大変有意義でした。

〈良かった〉

- ◆当社のアピールが少々できた。
- ◆参加学生から当社業務についての熱心な質問を受けることができた。
- ◆企業をもっと知りたいという姿勢が学生一人一人から感じ取ることができた。
- ◆様々な学生とお話が出来たため。一方で一人一人とお話できるような環境ではなかったため一方的にこちらから

会社説明をする形になってしまっていたように思います。

- ◆会場の設営にももう少し工夫できるように思います。学生と企業の社員が無駄なく意見交換できるようにレイアウトを設定して頂けると助かります。
- ◆学生の方が就職に当たってどのようなことを考えているのか、また重視しているのか知ることが出来たため。

〈あまり良くなかった〉

- ◆交流会での会場案内、事前説明が不足していると思います。

〈良くなかった〉

回答なし

設問 13 報告会・交流会全体を通して、次年度に向けてお気づきの点や要望などございましたらお聞かせください。 —————●

- ◆交流会のグループ分けで、同テーブルの他社と異業種過ぎて学生も困惑されていたように感じます。他テーブルの学生と話をする機会があれば嬉しく思います。
- ◆交流会は活気があり良かったのですが、声が入り交じり聞こえにくかったように思います。
- ◆交流会の時に、話した学生に名前を聞いていいか悩みました。興味を持ってそうであればできれば聞きたい。
- ◆もし可能であれば、三年生のインターンシップ発表時に、2年生も強制的に参加してもらえると嬉しいです。是非、低学年の学生にも見てほしい内容だと思いました。
- ◆来年も是非参加させて頂けたらと思います。
- ◆来年以降のインターンシップの取り組みと弊社の採用活動の充実のため、もう少し先生方とお話しをさせていただく時間が欲しい。
- ◆大変貴重な機会となりました。参加させていただきありがとうございました。次年度もぜひよろしく願いいたします。
- ◆少しアルコールがあると和やかさが増すのではないのでしょうか。
- ◆決まった時間の中なので、難しいとは存じますが、交流会で他のグループ（学科）の学生の方とも、お話しする機会を作っていただけると幸いです。

◆

Ⅸ. 理工インターンシップ(学外実習) Ⅰ・Ⅱ / グローバル人材育成 プログラム過年度データ

◆

1. 過年度の受入機関数と派遣学生数
2. 過年度報告会での報告者

1. 過年度の受入機関数と派遣学生数

年 度		1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001 (H13)	
受入先種別		(H3)	(H4)	(H5)	(H6)	(H7)	(H8)	(H9)	(H10)	(H11)	(H12)	大学	コンソーシアム
受入機関数		209	199	201	211	211	199	220	227	220	240	230	11
派遣学生数	数 理	100	97	116	123	124	124	113	132	119	117	124	3
	電 子	93	81	85	86	113	82	95	92	94	113	89	7
	機 械	89	87	90	79	87	96	79	105	91	108	95	—
	物 質	93	79	86	86	86	89	81	119	88	93	70	2
	情 報												
	環 境												
	合 計	375	344	377	374	410	391	368	448	392	431	378	12

年 度		2002 (H14)		2003 (H15)		2004 (H16)		2005 (H17)		2006 (H18)		
受入先種別		大学	コンソーシアム	自己応募								
受入機関数		217	8	209	20	208	4	220	17	203	22	2
派遣学生数	数 理	117	3	91	11	103	3	25	10	12	14	1
	電 子	78	6	91	8	83	—	85	3	84	1	1
	機 械	87	—	110	1	90	—	99	1	83	2	—
	物 質	92	1	110	—	93	1	72	2	93	—	—
	情 報							97	1	77	3	—
	環 境							20	—	23	3	—
	合 計	374	10	402	20	369	4	398	17	372	23	2

年 度		2007 (H19)					2008 (H20)			
受入先種別		大学	コンソーシアム	滋賀経産協	協定型	自己応募	大学	コンソーシアム	滋賀経産協	協定型
受入機関数		178	49	4	8	2	203	24	18	9
派遣学生数	数 理	14	11	—	6	2	8	11	—	11
	電 子	14	46	—	1	—	47	20	9	—
	機 械	100	—	—	—	—	102	—	10	—
	物 質	90	—	7	—	—	98	—	4	—
	情 報	81	1	—	2	—	107	—	4	—
	環 境	21	3	—	—	—	30	—	—	—
	合 計	320	61	7	9	2	392	31	27	11

年 度		2009 (H21)					2010 (H22)			
受入先種別		大学	コンソーシアム	滋賀経産協	協定型	自己応募	大学	コンソーシアム	協定型	自己応募
受入機関数		161	15	3	9	3	164	32	5	3
派遣 学生数	数 理	32	4	—	9	—	20	12	3	2
	電 子	15	8	—	1	—	36	4	—	—
	機 械	79	1	7	—	—	92	—	—	—
	物 質	87	—	—	—	1	86	—	1	1
	情 報	63	4	—	—	2	49	24	1	1
	環 境	11	—	—	—	—	20	—	1	—
	合 計	287	17	7	10	3	303	40	6	4

年 度		2011 (H23)					2012 (H24)					
受入先種別		大学	海外キャリア	コンソーシアム	協定型	自己応募	大学	海外キャリア	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募
受入機関数		140	15	33	43	3	129	16	28	30	2	2
派遣 学生数	数 理	18	2	8	4	2	15	1	1	1	1	1
	電 子	76	2	10	1	2	25	1	7	1	—	—
	機 械	74	2	—	—	—	49	3	41	26	—	1
	物 質	69	3	—	—	—	86	8	—	—	—	—
	情 報	26	5	20	60	—	38	—	39	19	1	1
	環 境	14	2	—	—	—	15	3	1	1	—	—
	合 計	277	16	38	65	4	228	16	89	48	2	3

年 度		2013 (H25)						2014 (H26)					
受入先種別		大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募	大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募
受入機関数		144	16	44	35	1	4	140	16	25	39	2	2
派遣 学生数	数 理	20	3	8	11	1	2	11	4	3	7	1	—
	電 子	60	1	15	2	1	—	32	3	5	2	—	—
	機 械	69	3	17	10	—	1	70	2	4	24	1	1
	物 質	75	5	6	2	—	—	92	3	—	—	—	—
	情 報	33	3	14	27	—	—	49	2	13	18	—	2
	環 境	31	1	1	—	—	1	17	2	—	2	—	—
	合 計	288	16	61	52	2	4	271	16	25	53	2	3

年 度		2015 (H27)					2016 (H28)						
受入先種別		大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募	大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募
受入機関数		155	16	25	35	5	1	142	15	27	34	2	2
派遣学生数	数 理	2	2	4	3	—	—	4	2	3	5	—	—
	電 子	46	1	6	3	—	1	40	3	10	1	1	1
	機 械	90	5	4	15	5	—	67	6	3	14	2	—
	物 質	94	5	1	—	—	—	77	3	4	—	—	—
	情 報	52	2	12	18	2	—	41	1	10	25	—	1
	環 境	10	1	2	1	—	—	32	1	—	—	—	—
	合 計	296	16	29	40	7	1	261	16	30	45	3	2

年 度		2017 (H29)					2018 (H30)						
受入先種別		大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募	大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募
受入機関数		151	16	44	23	3	5	129	11	12	9	5	1
派遣学生数	数 理	9	2	7	3	2	3	7	1	4	3	3	—
	電 子	47	3	7	5	1	—	45	1	3	—	2	—
	機 械	93	6	5	5	1	—	81	2	1	4	2	—
	物 質	88	3	5	1	—	4	69	2	—	1	—	—
	情 報	42	1	37	17	—	1	24	2	4	1	—	1
	環 境	15	1	1	2	—	—	18	3	1	1	—	—
	合 計	294	16	62	33	4	8	244	11	13	10	7	1

年 度		2019 (H31・R1)					
受入先種別		大学	グローバル	コンソーシアム	協定型	KEIS	自己応募
受入機関数		132	10	11	30	5	—
派遣学生数	数 理	11	—	—	—	—	—
	電 子	44	3	2	5	1	—
	機 械	79	5	5	29	1	—
	物 質	64	2	3	3	—	—
	情 報	30	—	3	—	—	—
	環 境	11	—	—	—	—	—
	合 計	239	10	13	37	2	—

※2020、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。

年度		2022 (R4)					2023 (R5)				
受入先種別		大学	グローバル	コンソーシアム	KEIS	自己応募	大学	グローバル	コンソーシアム	KEIS	自己応募
受入機関数		64	1	12	—	20	44	9	12	—	33
派遣学生数	数 理	2	—	5	—	3	10	—	5	—	2
	知 能	18	—	—	—	—	17	1	—	—	1
	電 子	11	3	1	—	—	21	3	1	—	5
	機 械	15	—	—	—	—	13	4	—	—	—
	応 化	14	—	1	—	1	12	1	1	—	1
	環 境	4	1	5	—	1	6	—	5	—	4
	合 計	64	4	12	—	5	79	9	12	—	13

年 度		2024 (R6)				
受入先種別		大学	グローバル	コンソーシアム	KEIS	自己応募
受入機関数		57	10	1	—	23
派遣学生数	数 理	11	—	1	—	1
	知 能	15	2	—	—	4
	電 子	24	1	—	—	10
	機 械	47	3	—	—	4
	応 化	9	2	—	—	—
	環 境	4	2	—	—	7
	合 計	110	10	1	—	26

大学＝龍谷大学理工学部／先端理工学部の学外実習受入企業

海外キャリア＝海外キャリア実践実習（平成23年度より実施）

グローバル＝グローバル人材育成プログラム（平成25年度より実施）

コンソーシアム＝大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム

※2024年度より、「大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム」に名称が変更となる

滋賀経産協＝滋賀経済産業協会インターンシッププログラム

協定型＝龍谷大学協定型インターンシッププログラム

KEIS＝関西電子情報産業協同組合インターンシップ

自己応募＝学生が独自で応募したインターンシッププログラム

※2022年度より、「学外実習（キャリア実践実習）」の科目名が、「理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ」に変更となり、先端理工学部の6課程の3年生が対象となり、全課程で選択科目となる。

2. 過年度報告会での報告者

数 理 情 報 学 科		
年度	受 入 機 関	学 生 (派遣先機関名)
92	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	株式会社村田製作所
93	株式会社京都第一科学	サンコール株式会社
94	ダイキン工業株式会社	①株式会社国際電気通信基礎技術研究所 ②株式会社環境総合研究所
95	株式会社日新システムズ	松下電工株式会社
96	京都電子計算株式会社	①京都電子計算株式会社 ②京都中央信用金庫
97	株式会社 CRC 総合研究所 (現：株式会社 CRC ソリューションズ)	川重テクノサービス株式会社
98	《台風接近のため中止》	
	株式会社秋村組	①マツ六株式会社 ②株式会社島津製作所
99	日立造船情報システム株式会社	横河電機株式会社
00	株式会社 SRA	NTT データ関西テクシス株式会社 (現：株式会社 NTT データ関西)
01	三菱電機株式会社	株式会社クボタ
02	日本電子計算株式会社	アイティソリューションサービス株式会社
03	和光化学工業株式会社	近江八幡市教育委員会
04	株式会社日本システムディベロップメント	株式会社ルネサスソリューションズ
05		情報技術開発株式会社関西支社
06		綾羽株式会社
07	株式会社日本電算機標準	株式会社日本電算機標準
08		株式会社滋賀富士通ソフトウェア
09		リンナイ株式会社
10		
11		①株式会社データ変換研究所 ②NeuroSky, Inc. (海外キャリア実践実習)
12		AuriQ Systems, Inc (海外キャリア実践実習)
13		①特定非営利活動法人アイ・コラボレーション ②トラベルオリエンテッド (グローバル人材育成プログラム) ③Metaps, Inc. (グローバル人材育成プログラム)
14		
15		琵琶湖汽船株式会社

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
16		
17		①奈良県橿原市観光政策課 ②kintone Corporation Cybozu (グローバル人材育成プログラム)
18		
19		
数 理 ・ 情 報 科 学 課 程		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
20	《感染症拡大のため中止》	
21	《感染症拡大のため中止》	
22	《報告会不開催》	
23		株式会社日本電算機標準
24		協和テクノロジズ株式会社

電 子 情 報 学 科		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
92	オムロンソフトウェア株式会社	日本アイ・ビー・エム株式会社
93	株式会社イシダ	①NTT ソフトウェア株式会社 ②日本 NCR 株式会社
94	株式会社コンテック	株式会社毎日放送
95	株式会社エステック	①国際電信電話株式会社 (現: KDD 株式会社) ②株式会社堀場製作所
96	滋賀県立機械金属工業指導所 (現: 滋賀県東北部工業技術センター)	富士通株式会社
97	多田電機株式会社	日本電気株式会社
98	《台風接近のため中止》	
	吉田電機工業株式会社	NTT コミュニケーション科学基礎研究所
99	京都府中小企業総合センター	大津コンピュータ株式会社
00	日本アイ・ビー・エム株式会社	通信・放送機構けいはんな 情報通信研究開発支援センター
01	島津エス・ディー株式会社	株式会社サムコインターナショナル研究所
02	三菱電機セミコンダクタ・アプリケーション・エンジニアリング株式会社	京都電子計算株式会社
03	日本ソフト開発株式会社	京都 EIC 株式会社
04	あさかわシステムズ株式会社	株式会社村田製作所
05		クオンタ・ディスプレイ・ジャパン株式会社

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
06	日光精器株式会社	不二電機工業株式会社
07		クロイ電機株式会社
08		ジェイ・エス・シー株式会社
09		
10		大阪府立産業技術総合研究所
11		TechDream, Inc. (海外キャリア実践実習)
12		株式会社堀場製作所
13		
14		株式会社堀場製作所
15		
16		①国立研究開発法人産業技術総合研究所 (材料・化学領域 ナノ材料研究部門) ②Kintone Corporation (グローバル人材育成プログラム)
17		TOYO Corporation (グローバル人材育成プログラム)
18		大塚電子株式会社
19		①国立研究開発法人産業技術総合研究所 (材料・化学領域 ナノ材料研究部門) ②ArdenwoodHistoric Farm (グローバル人材育成プログラム)

電 子 情 報 通 信 課 程

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
20	《感染症拡大のため中止》	
21	《感染症拡大のため中止》	
22	《報告会不開催》	
23	株式会社カンセツ	①大塚電子株式会社 ②Japan Town Task Force (グローバル人材育成プログラム)
24		①寺崎電気産業株式会社 ②Napa Valley Winery Exchange (グローバル人材育成プログラム)

機 械 シ ス テ ム 工 学 科

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
92	株式会社ダイフク	①木村機械建設工業株式会社 ②川崎重工業株式会社

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
93	日立造船株式会社	日本輸送機株式会社
94	株式会社日本アーム滋賀工場	①新生化学工業株式会社 ②三谷伸銅株式会社
95	日本電設工業株式会社	江州計器工業株式会社
96	日本制御機器株式会社	①富士車輛株式会社 ②SMC 株式会社
97	株式会社椿本チェーン京都工場	住友金属テクノロジー株式会社
98	《台風接近のため中止》	
	株式会社ジーテクト	①株式会社東芝 ②パジェロ製造株式会社
99	川重テクノサービス株式会社	株式会社日立製作所
00	株式会社ジーテクト	川村義肢株式会社
01	株式会社比叡ゆば本舗ゆば八	川崎重工業株式会社
02	日本ジョン・クレーン株式会社	安全索道株式会社
03	株式会社カンセツ	ヤマハ発動機株式会社
04	株式会社サンキコー	芦森工業株式会社
05	山科精器株式会社	三菱自動車工場株式会社 パワートレイン製作所
06	株式会社ミレニアムシステムズ	日本精工株式会社
07	株式会社近江物産	株式会社日本ネットワークサポート
08	株式会社メタルテックス	株式会社ケイ・ジー・ティー
09	京都電子工業株式会社	茨木精機株式会社
10	ツジコー株式会社	アイنز株式会社
11	国産部品工業株式会社	山科精器株式会社
12	プライミクス株式会社	株式会社エース
13	富士電波工業株式会社	山科精器株式会社
14	株式会社アヤハエンジニアリング	ミック工業株式会社
15	エース設計産業株式会社	滋賀県東北部工業技術センター
16	株式会社長濱製作所	①富士電波工業株式会社 ②Nippon Trends Food Service, Inc. (グローバル 人材育成プログラム)
17	株式会社フジキン	安全索道株式会社
18	株式会社エスユーエス	①株式会社長濱製作所 ②AIR ACCORD (グローバル人材育成プログラ ム)

機械工学・ロボティクス課程		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
19	安全索道株式会社	①株式会社エクセディ ②King Tires & Wheels Auto Center (グローバル人材育成プログラム) ③San Mateo Lawn Mower (グローバル人材育成プログラム)
20	《感染症拡大のため中止》	
21	《感染症拡大のため中止》	
22	《報告会不開催》	
23		①山科精器株式会社 ②Air Accord (NorCal Aviation Service) (グローバル人材育成プログラム)
24	株式会社カンセツ	川重テクノロジー株式会社

物 質 化 学 科		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
92	株式会社石田衡器製作所 (現：株式会社イシダ)	①メテック北村株式会社 ②三菱製紙株式会社
93	株式会社ゴージュ	①滋賀県工業技術総合センター ②チッソポリプロ繊維株式会社
94	財団法人関西産業公害防止センター (現：財団法人関西環境管理技術センター)	財団法人応用科学研究所
95	株式会社日吉	①大阪ガス株式会社 ②伊奈精機株式会社
96	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場	東洋インキ製造株式会社
97	財団法人関西環境管理技術センター	①松下電器産業株式会社 ②秩父小野田株式会社 (現：太平洋セメント株式会社)
98	《台風接近のため中止》	
	大阪ダイヤモンド工業株式会社	京都府中小企業総合センター
99	日本メンテナンスエンジニアリング株式会社	新日本理化株式会社
00	株式会社堀場製作所	東洋ゴム工業株式会社
01	ダイトーケミックス株式会社大阪工場	東レ株式会社
02	大阪市立工業研究所	宮川化成工業株式会社
03	株式会社ミルボン	群栄化学工業株式会社
04	滋賀県東北部工業技術センター	日本アイ・ティ・エフ株式会社
05		株式会社ミルボン

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
06	株式会社ビッツ	兵庫県立工業技術センター
07	滋賀県工業技術総合センター	株式会社日興テキスタイル
08	岩谷化学工業株式会社	株式会社東レリサーチセンター
09	美富久酒造株式会社	太平洋セメント株式会社
10	滋賀県工業技術総合センター	日本アイ・ティ・エフ株式会社
11	独立行政法人産業技術総合研究所関西センター	株式会社東レリサーチセンター
12	株式会社イーシーフロンティア	①United Television Broadcasting Systems (海外キャリア実践実習) ②Innovation CoreSEI (海外キャリア実践実習) ③Viewpoint International (海外キャリア実践実習)
13	辻丸国際特許事務所	NIPPON SHOSEKI HANBAI (グローバル人材育成プログラム)
14	富士色素株式会社	独立行政法人産業技術総合研究所
15	株式会社村田製作所	公益財団法人京都高度技術研究所
16	株式会社日吉	①滋賀県立瀬田工業高等学校 (化学工業) ②Nihonmachi Little Friends (グローバル人材育成プログラム)
17	株式会社京写	①滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場 ②Nippon Trends Food Service, Inc. (グローバル人材育成プログラム) ③Fujiya Shiseido Cosmetics (グローバル人材育成プログラム)
18	株式会社大木工藝	①株式会社昭和インク工業所 ②UNITED FOODS INTERNATIONAL (USA) INC (グローバル人材育成プログラム)
19	綾羽株式会社	①株式会社大木工藝 ②SenjuComtek Corporation (グローバル人材育成プログラム)

応 用 化 学 課 程

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
20	《感染症拡大のため中止》	
21	《感染症拡大のため中止》	
22	《報告会不開催》	
23		関西環境管理技術センター
24	大同塗料株式会社	株式会社東レリサーチセンター

情報メディア学科		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
05	ソニー PCL 株式会社大阪事業所 関西コンテンツプロデュースカンパニー	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所
06		株式会社ミレニアムシステムズ
07		株式会社ゴビ
08	びわ湖放送株式会社	NPO 京都コミュニティ放送
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
09		イオンモール株式会社
10		
11		①びわ湖放送株式会社 ②Kamiya Consulting, Inc. (海外キャリア実践実習)
12		日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所
13		①株式会社国際電気通信基礎技術研究所 ②Allied-Telesis, Inc. (グローバル人材育成プログラム)
14		
15		びわ湖放送株式会社
16		
17		日本ソフト開発株式会社
18		①New World Tours & Travel (グローバル人材育成プログラム)
19		
知能情報メディア課程		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
20		《感染症拡大のため中止》
21		《感染症拡大のため中止》
22		《報告会不開催》
23	ジェイズ・コミュニケーション株式会社	日本ソフト開発株式会社
24		株式会社クラックスシステム

環境ソリューション工学科		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
05	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	株式会社日吉
06		株式会社キャリアテクノ

年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
07		京エコロジーセンター (京都市環境保全活動センター)
08		環境技術学会
09		
10		株式会社地域計画建築研究所
11		
12		京エコロジーセンター (京都市環境保全活動センター)
13		
14		滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
15		
16		①特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム ②White Blossom Care Center (グローバル人材育成プログラム)
17		
18		①内外エンジニアリング株式会社 ②Nippon Trends Food Service, Inc (グローバル人材育成プログラム)
19		①日本メンテナンスエンジニアリング株式会社
環 境 生 態 工 学 課 程		
年度	受入機関	学 生 (派遣先機関名)
20	《感染症拡大のため中止》	
21	《感染症拡大のため中止》	
22	《報告会不開催》	
23		株式会社西日本技術コンサルタント
24		①株式会社西日本技術コンサルタント ②Ardenwood Historic Farm (グローバル人材育成プログラム)

龍谷大学先端理工学部
理工インターンシップ I・II /
グローバル人材育成プログラム
総括集

2024（令和6）年度版

令和7年2月20日 発行

発行 2024年度 龍谷大学先端理工学部
理工インターンシップ運営委員会

委員長 藤田 和弘
山岸 義和 / 宮戸 祐治 / 譽田 登
中沖 隆彦 / 浅野 昌弘

2024年度 龍谷大学先端理工学部 R-Gap 運営委員会
グローバル人材育成プログラム主担当 富崎 欣也

印刷所 協和印刷株式会社

